



**Hewlett Packard
Enterprise**

Smart Update Manager ユーザーガイド

バージョン 7.6.0

摘要

このガイドでは、SUM を使用して、ProLiant および Integrity サーバーにファームウェアアップデートを適用し、ProLiant サーバーにソフトウェアアップデートを適用する方法について説明します。このガイドは、Microsoft Windows、Windows Server、Linux、Smart コンポーネント、HP-UX、VMware の設定および操作、ならびにアップデートの実行に伴うデータ消失の危険性について理解している担当者を対象にしています。本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

部品番号: 613175-599

発行:

2016, 10

版数: 1

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピューター・ソフトウェア、コンピューター・ソフトウェア資料、および商用製品の技術情報は、ベンダー標準の商用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外にある情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Microsoft®および Windows®は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

UNIX®は、The Open Group の登録商標です。

目次

はじめに	6
SUM の概要.....	6
環境内の SUM アップデートのスケーリング.....	7
GUI について.....	7
ステータスアイコンの説明.....	10
SUM のダウンロード、インストール、起動	12
ダウンロードに含まれている SUM ファイル.....	12
Hewlett Packard Enterprise Web サイトからの SUM のダウンロード.....	13
SPP カスタムダウンロードからのダウンロード.....	13
SDR Web サイトからの SUM のダウンロード.....	14
現在の SUM バージョンへのノード情報の移行.....	14
SUM と SPP ブート環境.....	15
SPP ISO での SUM の異なるバージョンの使用.....	15
SUM モード.....	15
展開モード.....	16
展開シナリオ.....	17
SPP を使用した ProLiant サーバー用ファームウェアの展開.....	18
SUM を使用した Integrity ファームウェアバンドルのインストール.....	19
SUM を使用した Synergy サーバーへの展開.....	20
ファームウェア更新を許可するために BitLocker を無効にする (Windows のみ)	20
リモートノードでの Linux と HP-UX の root 認証情報の使用.....	23
SUM の起動.....	26
SUM へのログイン.....	31
SUM GUI のログアウト.....	32
SUM キャッシュのクリア.....	32
ログファイルとディレクトリの場所の変更	34
SUM オンラインモードでのログファイルの収集.....	34
SUM オフラインモードでのログファイルの収集.....	34
SUM ログファイルの位置.....	34
SUM のログの内容.....	35
GatherLogs.....	40
hpsum. ini ファイルの使用	41
SUM GUI の使用	46
SUM によるノードのアップデートの概要.....	46
SUM のホーム画面.....	46
SUM のアクティビティ画面.....	46
SUM のローカルホストガイドアップデート.....	47
HP SUM での iLO 連携機能の使用	50
SUM のベースラインライブラリ画面.....	58
SUM のノード画面.....	74
ノードグループ画面について.....	103

高度なトピック	106
IPv6 ネットワークでの SUM の使用について.....	106
使用される SUM のネットワークポート.....	106
ベースラインのトラブルシューティング	112
SUM の依存関係の問題.....	112
SUM が、同一コンポーネントの複数のバージョンを表示する.....	113
コンポーネントが無効として表示される.....	113
SUM が応答を停止する.....	114
カスタムベースラインの画面にノードタイプが表示されない.....	115
リモートデスクセッションを終了した後、SUM がベースラインを保存しない.....	116
SUM が HTTP ベースラインを検証しない.....	117
SUM 画面に古い情報が表示される.....	117
ベースラインを追加するとき、SUM がブラウザを更新する.....	118
SUM が展開用のコンポーネントを選択できない.....	118
ノードのトラブルシューティング	120
選択したすべてのサーバーで、SUM のオフライン展開を開始できない.....	120
SUM で sudo ユーザーの問題が発生する.....	120
展開ボタンが表示されない.....	121
SUM ノードのインベントリが失敗する.....	121
SUM がノードを検出しない.....	123
Linux ホストで Windows ノードが追加されない.....	124
SUM がノードに接続できない.....	125
NIC ファームウェアがアクティブ化されない.....	126
H220、H221、H222、および H210 HBA アダプターがアップデートエラーを返す.....	126
コンポーネントのバージョン情報が表示されない.....	127
open_firewall コマンドが動作しない.....	127
リモートノードのファイアウォールエラー.....	128
HPCISSS2 と HPCISSS3 のどちらのドライバーがインストールされるかの確認.....	128
Power PIC コンポーネントが iLO 連携グループに展開されない.....	130
SUM が Broadcom ポートをスキップする.....	130
SUM が OA アップデートを間違って報告する.....	131
SUM で、Windows のクラスターノードへの展開が行われない.....	131
VMware のトラブルシューティング	133
RPM アップデートが VMware ノードを展開しない.....	133
カスタムベースラインに VMware ノード用の RPM コンポーネントが含まれている.....	133
レポートのトラブルシューティング	135
SUM がレポートを生成しない.....	135
SUM エンジンのトラブルシューティング	136
SUM がユーザーを予期せずログオフする.....	136
ドライブ上の空き容量が 0 であること（ないこと）が SUM に表示される.....	136
テキストが変換されない.....	137
「Multiple connections to a server or shared resource by the same user...」というエラーメッセージが表示される.....	137
SUM が、ポートエラーを報告する.....	138

対話式 CLI モードでのコマンドの実行	139
コマンドラインからの SUM のアップデート.....	139
ノードの展開.....	139
abort.....	139
activate.....	140
add.....	142
configure.....	147
delete.....	149
deploy.....	150
findavailablenodes.....	151
generatereports.....	152
getattributes.....	154
getbaselines.....	155
getcomponentlogs.....	156
getcurrentlyinstalledversions.....	156
getenginestatus.....	157
getlogs.....	158
getneededupdates.....	159
getnodes.....	160
getresults.....	161
inventory.....	162
login.....	163
setattributes.....	164
shutdownengine.....	171
ファームウェア RPM の展開	172
SUM RPM ツールについて.....	172
SPP ISO および RPM について.....	172
ファームウェア RPM へのアクセス.....	172
ファームウェアコンポーネントの展開.....	173
その他の RPM コマンド.....	174
RPM のダウンロードがブロックされる.....	176
hpsum upgrade がエラーを返す.....	177
RPM モードで、Smart アレイのファームウェアが正しく処理されない.....	177
Web サイト	178
サポートと他のリソース	180
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	180
アップデートへのアクセス.....	181
カスタマーセルフリペア (CSR).....	182
リモートサポート (HPE 通報サービス).....	182
保証情報.....	183
規定に関する情報.....	183
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	184
用語集	185

はじめに

SUM の概要

SUM は、ProLiant と Integrity サーバー、BladeSystem エンクロージャー、Moonshot システム、および各種 オプションのファームウェアとドライバーのメンテナンスツールです。ユーザーのニーズに対する柔軟性と 適応性を高めるために、ブラウザベースの GUI やスクリプト可能なコマンドラインインターフェイスが用意されています。

SUM には検出エンジンが組み込まれており、取り付けられているハードウェアや、ターゲットノードで使用 中のファームウェアとソフトウェアの現在のバージョンを検出します。SUM は、相互依存性の問題を回避す るために、同時にアップデートできる、関連ターゲットを特定します。SUM は、アップデートを正しい順序 で展開します。また、アップデートの展開前にすべての依存関係が満たされていることを確認します。SUM は、解決できないバージョンベースの依存関係を見つけた場合、展開を行いません。

SUM の主な機能は、次のとおりです。

- 相互依存性チェック
- 自動化され、正しい順番でユーザーをガイドする、ローカルホストのアップデートプロセス
- Web ブラウザーベースのモード
- カスタムベースラインと ISO を作成する機能。
- iLO 連携グループアップデートのスケラブル展開
- GUI、テキストベースのコンソール、および CLI の各モードでの、複数のリモートノードへのファームウ ェアとソフトウェアの同時展開
- SPP によるローカルのオフラインファームウェア展開
-

SmartStart Scripting Toolkit (ProLiant G7 以前のサーバー)、Scripting Toolkit (ProLiant Gen8 以降のサーバー)、Scripting Toolkit (ProLiant Gen8 および ProLiant Gen9)、RESTful インターフェイスツール (Gen10)、iLO 仮想メディア、または PXE ブートメディアとともに使用する際のリモートオフライン展開

- 広範なログ機能を持つ GUI、対話式 CLI、または CLI スクリプト作成モード
- ProLiant サーバーでのネットワーク管理ポート、VC Ethernet およびファイバーチャネルスイッチ、ならびに 3 Gb/6 Gb SAS BL スイッチインターコネクタ経由の、OA、iLO のようなネットワークベースターゲットでのファームウェア更新のサポート
- VC モジュールのアップデートのサポート

注記：

SUM は、コントローラーに接続されているフラッシュ式ハードディスクドライブを含め、他社製のコントローラーをサポートしません。

環境内の SUM アップデートのスケーリング

SUM で更新するノードの最大数。

SUM は、すべての SUM モードで一度に最大 50 ノードの展開をサポートします。展開に要する時間は、システムおよびサーバーの環境変数によって異なります。

注記：

VMware ノードのアップデートは、一度に最大 10 までにしてください。

iLO 連携グループのオフラインでの更新

複数の iLO 連携グループをオフラインで更新する場合、複数のグループが同時に ISO にアクセスすると、展開が失敗することがあります。アップデートが失敗した場合は、アップデートされなかったグループの展開を繰り返します。ネットワークリソースへの影響を最小限に抑えるため、同時にアップデートするグループの数を少なくします。

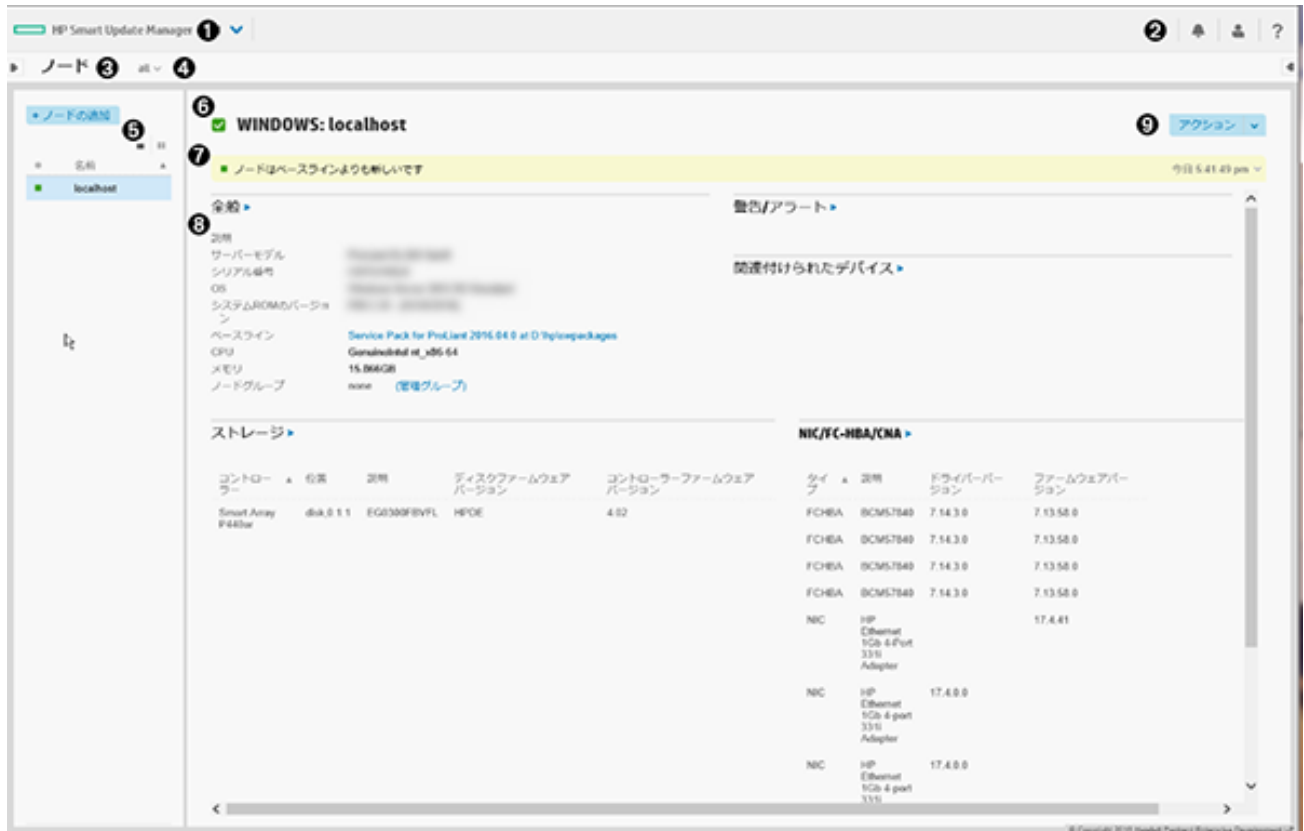
GUI について

SUMはWebブラウザベースのアプリケーションです。GUIを起動すると、システムではデフォルトのWebブラウザが使用されます。

注記：

ブラウザウィンドウの戻るボタンは使用しないでください。

以下の図は、GUIの主な領域を表しています。画面のオプションは、ノードタイプによって異なります。



番号	説明
1	メインメニュー - すべてのアプリケーション画面へのリンクを提供します。
2	<ul style="list-style-type: none"> • アクティビティリストステータスアップデートが一時的に表示され、アクティビティアイコンが最新の動作のステータスを示します。アクティビティパネルを開くにはアクティビティアイコンをクリックします。 • ログイン情報 - 現在ログインしているユーザーを表示し、ログアウト機能を提供します。 • ヘルプパネル - ヘルプパネルを開きます。
3	画面名 - 画面の名前を表示します。
4	画面フィルター - 画面オブジェクトをフィルタリングします。
5	画面リスト - 画面上の項目のリストを表示します。
6	ベースラインまたはノード名 - ユーザーが画面リストで選択したベースラインまたはノードのリストを示します。この例では、選択されたベースラインの名前を示しています。

表は続く

番号	説明
7	情報ハイライト - 選択した項目に対して実行または把握しなければならない可能性がある情報をハイライトします。すべての情報を表示するには、クリックしてこのボックスを拡大します。
8	項目詳細 - 選択している項目に関する詳細情報が表示されます。
9	アクション - 実行可能な操作が一覧表示されます。 <hr/> 注記: 画面のオプションは、表示している画面によって異なります。 <hr/>

ステータスアイコンの説明

SUM では、アイコンを使用してリソースとアラートのステータスを表したり、ディスプレイを制御したりします。

表 1: ステータスアイコン

大きなアイコン	小さなアイコン	説明
		クリティカル 問題/中断
		警告
		OK 成功
		無効
		不明
		変更を適用中またはタスクを実行中

SUM のダウンロード、インストール、起動

ダウンロードに含まれている SUM ファイル

SUM のダウンロード方法。

SUM は Hewlett Packard Enterprise Web サイトまたは Software Delivery Repository からスタンドアロンのアプリケーションとしてダウンロードできます。スタンドアロンアプリケーションには、ご使用の環境用のアップデートは含まれていません。更新コンポーネントは、SPP、SPP カスタムダウンロード、Integrity Firmware バンドル、または SDR から入手できます。

SUM のダウンロードには、以下が含まれています。

hpsum

SUM は、GUI、対話式 CLI、CLI、または Linux RPM モードで実行されます。デフォルトでは、SUM は GUI バージョンで開きます。hpsum /s と入力すると、SUM は CLI モードで動作します。hpsum といずれかの対話式 CLI コマンドを入力すると、SUM は対話式 CLI モードで開きます。

clean-cache

SUM に関連付けられている一時ディレクトリのファイルのうち、ノードとベースラインに関するキャッシュ済み情報を含むファイルを削除します。ログは引き続き維持されます。

gather logs

SUM のすべてのログを収集します。SUM のトラブルシューティングの問題をデバッグする場合にログが役立ちます。

hpsum_migration

ノードデータを SUM の以前のバージョンから SUM の現在のバージョンに移行します。

port-targets

ノードの場所と名前を SUM 5.x から SUM の現在のバージョンに移行します。

仕様と前提条件は、<http://www.hpe.com/support/sum-rn-ja> で入手できる *Smart Update Manager リリースノート* で確認できます。

Hewlett Packard Enterprise Web サイトからの SUM のダウンロード

Hewlett Packard Enterprise Web サイトから SUM をダウンロードする方法

手順

1. Web ブラウザーを起動します。
2. <http://www.hpe.com/servers/sum-download> にアクセスします。
3. ダウンロードするファイルをクリックします。
 - a. **HP Smart Update Manager**
 - ISO には、SUM とブート可能な ISO 環境が含まれています。ファームウェアコンポーネントとソフトウェアコンポーネントを追加して、カスタムベースラインを作成できます。
 - b. **HP Smart Update Manager RPM**
 - RPM は、Linux 用のネイティブパッケージです。Software Delivery Repository (<http://www.hpe.com/support/SDR-SUM> (英語)) から入手できます。
 - c. **HP Smart Update Manager zip**
 - zip ファイルには、サポートされている Windows および Linux オペレーティングシステムで SUM を稼働するために必要なファイルが収められています。

SPP カスタムダウンロードからのダウンロード

hpe.com からのカスタム SPP のダウンロードについて。

手順

1. Web ブラウザーを開き、<https://www.hpe.com/servers/spp/custom> (英語) にアクセスしてください。
2. SPP へのアクセスは、HPE サポートセンターを介して確認する必要があります。アクティブ保証または HPE のサポート契約は、SPP をダウンロードするために必要とされます。詳しくは、[SPP 保証/サポート契約の確認ドキュメント](#)を参照してください。HPE パスポートへのログインが必要です。
3. 必要に応じて、**Sign in here** をクリックして、HP パスポートユーザーの認証情報を入力します。
4. ページの左側から、SPP を選択します。

実行できる内容は次のとおりです。

- カスタム SPP を作成する。
- 使用可能なファイルをダウンロードする。
- カスタム SPP を削除する。デフォルトの SPP は、ページから削除できません。

SPP カスタムのダウンロード ページのヘルプについては、[SPP カスタムダウンロードの FAQ](#) ページを参照してください。

SDR Web サイトからの SUM のダウンロード

SDR サイトから SUM をダウンロードする方法

SUM は、RPM として Software Delivery Repository (<http://www.hpe.com/support/SDR-SUM> (英語)) からダウンロードできます。SDR には、サポートされるオペレーティングシステムとアーキテクチャタイプごとに 1 つの SUM RPM バージョンがあります。yum または zypper 構成のセットアップ方法については、SDR の Web サイトを参照してください。

yum コマンドを使用して SUM を検索し、システムにダウンロードできます。また、Web ブラウザーを使用して SDR 内を移動し、rpm をダウンロードすることもできます。

SDR から SUM を検索、ダウンロード、またはインストールするには、以下のコマンドを使用します。

`yum search hpsum` yum を使用して SUM を検索する

`yum install hpsum` yum を使用して SUM をインストールする

`rpm -Uvh hpsum-6.0.1-14.rhel-6.x86_64.rpm` Web ブラウザーを使用して SDR から SUM をダウンロードし、RPM をインストールする

SDR の使用方法について詳しくは、Software Delivery Repository の Web サイト (<http://www.hpe.com/support/SDR-SUM> (英語)) にある「Getting Started」と「FAQ」を参照してください。

SDR での SUM の使用について詳しくは、<http://www.hpe.com/info/sum-docs> で Linux のベストプラクティスに関するドキュメントを参照してください。

現在の SUM バージョンへのノード情報の移行

SUM は、SUM の各バージョン専用のデータベースにノード情報を保存します。SUM を使用してノードを管理していた場合、SUM を起動する前にノードのデータベース情報を SUM の現在のバージョンに移行します。

手順

1. SUM ディレクトリから、hpsum_migration.bat (Windows) または hpsum_migration.sh (Linux) を起動します。
2. 画面の指示に従った後、使用している SUM のバージョンに移行するバージョンを選択します。

SUM と SPP ブート環境

HPE USB Key Utility では単一デバイスでのマルチブート設定がサポートされません。SUM ISO および SPP ISO は、UEFI ブートローダーで動作するために署名された部分が含まれています。署名された部分については、USB キーなどの単一デバイスでのマルチブート設定ができません。SPP は、http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl でダウンロードできます。

以下の各項では、SUM からの展開について説明します。アップデートの計画について詳しくは、Hewlett Packard Enterprise Web サイトで入手できる SUM ベストプラクティスのプランニングガイドと実装ガイドを参照してください。

SPP ISO での SUM の異なるバージョンの使用

SPP パッケージに含まれていたバージョン以外のバージョンを使用する場合は、SUM のカスタムベースライン機能を使用します。SPP ISO の SUM ファイルを手動で置き換えると、展開の問題が発生する可能性があります。

プロセスの概要：

手順

1. 使用する SUM ISO のコピーをダウンロードして空のディレクトリに保存し、その ISO をマウントします。
2. SPP ISO のコピーをダウンロードして空のディレクトリに保存し、その ISO をマウントします。
3. SPP コンポーネントとともに使用する SUM のバージョンを開きます。
4. ベースラインを SUM セッションに追加します。詳しくは、「[ベースラインの追加](#) (60 ページ)」を参照してください。
5. SPP コンポーネントを使用してカスタムベースラインを作成し、カスタム ISO に含めるバージョンとして使用する SUM のバージョンを選択します。詳しくは、「[カスタムベースラインと ISO の作成](#) (63 ページ)」を参照してください。

SUM モード

SUM は、ローカル展開とリモート展開をサポートします。SUM は、Windows および Linux で、オンラインモードとオフラインモードで動作します。

GUI

単一のセッションで、システムソフトウェアとファームウェアコンポーネントの複数のシステムへの展開とメンテナンスを可能にする使いやすいブラウザーベースの GUI。

- CLI** CLIを使用すると、カスタムインストールをスクリプト化して実行できます。GUIと対話式CLIのすべての機能がこのモードでサポートされているわけではありません。詳しくは、[Smart Update Manager CLI ガイド](#)を参照してください。
- Inputfile CLI** 使用するすべてのSUMのパラメーターを含むテキストファイルを呼び出すことができます。詳しくは、[Smart Update Manager CLI ガイド](#)を参照してください。
- 対話式 CLI** 対話式CLIでは、SUM GUIで使用できるほとんどのコマンドをスクリプト化して実行できます。対話式CLIから利用できる機能には、ノードとベースラインの追加、ノードの展開、ログファイルの収集、レポートの生成などがあります。詳しくは、[Smart Update Manager CLI ガイド](#)を参照してください。
- Linux ファームウェア RPM ツール** Linux ファームウェア RPM ツールモードでは、Linux ノード用の簡素化された展開モードが提供されます。

注記：

サポートされているオペレーティングシステムを実行している仮想マシン上でSUMを実行する場合は、ローカルホストシステムにアップデートを展開しないでください。リモートノードにのみアップデートを展開します。

展開モード

SUMを使用してアップデートを展開する際、以下の用語が適用されます。たとえば、これらの用語を組み合わせ、**「ローカルオンライン」**、**「リモートオンライン」**などの、環境を表すことができます。

- ローカル** インストールは、更新対象の物理ハードウェア上で実行されます。サーバーのシステムROMのアップデートのためにそのサーバー上で実行する場合などが該当します。
- リモート** インストールを実行するシステムと更新される物理ノードは別のシステムです。ネットワーク経由でOAまたはIntegrityサーバーファームウェアをアップデートする場合などが該当します。
- オンライン** 通常のサーバー環境でホストプロセッサが動作している状態で、インストールが行われます。
- オフライン** オフラインモードでは、SPPは、小さなLinuxカーネルを起動し、単一のサーバー上での更新を可能にします。

- ローカルシステムの更新のみ
- ファームウェアのみの展開
- 単一ベースラインのみ使用

注記：

通常のローカルホストオペレーティングシステムがオフラインモードでサポートされないことを要求する SUM の一部の機能。

展開シナリオ

SUM は、SUM を実行するマシン（ローカルホスト）から 1 台または複数のリモートホストにアップデートを展開します。SUM を実行するホストが Windows を使用している場合、Windows、Linux、VMware、または HP-UX ターゲットを更新できます。SUM を実行するホストが Linux を使用している場合、Linux、VMware、または HP-UX ノードを更新できます。また、リモートの ProLiant、Integrity ノード、Synergy システム、および Moonshot システムを Windows または Linux システムからアップデートすることもできます。

SUM 展開シナリオ

- ローカルホストでのグラフィカル展開
 - コマンドラインツールを使い慣れていない。
 - 単一のローカルホストにコンポーネントを展開する。
 - 更新では、スクリプトは必要でない。

ローカルホストでのスクリプト展開

- コマンドラインツールを使い慣れている。
- 単一のローカルホストにコンポーネントを展開する。
- 更新では、カスタマイズされたスクリプト展開を実行する必要がある。

リモートホストへのグラフィカル展開

- コマンドラインツールを使い慣れていない。
- 単一または複数のリモートホストにコンポーネントを展開する。
- 更新では、スクリプトは必要でない。

リモートホストでのスクリプト展開

- コマンドラインツールを使い慣れている。
- 単一または複数のホストにコンポーネントを展開する。
- 更新では、単一または複数のホストシステムに、カスタマイズされたスクリプト展開を実行する必要がある。

SPP を使用した ProLiant サーバー用ファームウェアの展開

SPP は、サーバーとそのオプションおよび以下を含む BladeSystem エンクロージャー用に、ProLiant システムソフトウェアおよびファームウェアを再パッケージ化したものです。

•

OA

•

VC

•

3 Gb および 6 Gb SAS スイッチ

SUM は、サポートされている Windows、Linux、および VMware（サポートされているファームウェアとドライバのアップデートのみ）の各オペレーティングシステムにコンポーネントを展開します。単一の SPP イメージに、ドライバー、エージェント、ツール、ユーティリティを含む、ファームウェアコンポーネントとシステムソフトウェアコンポーネントの包括的な集合が含まれます。これらのコンポーネントは、単一ソリューションとして同時にテストされ、管理され、展開されます。

注記：

SUM は Linux ノードへの RPM および SCEXE コンポーネントの展開をサポートします。

各 SPP リリースには、SPP コンポーネントの展開に使用可能な SUM が含まれています。SUM の最新バージョンは、SUM の Web サイト <http://www.hpe.com/servers/sum-download> からダウンロードできます。

SPP でサポートされているシステムおよびソフトウェアの完全なリストと、SPP リリースで利用可能なアップデートについては、<http://www.hpe.com/info/spp/documentation> で該当の SPP のリリースノートを参照してください。

SUM を使用した Integrity ファームウェアバンドルのインストール

SUM 使用して、Integrity ファームウェアバンドルで提供されるコンポーネントを展開できます。

Integrity サーバーへのファームウェアの展開はリモートで実行され、ProLiant ノードのような他のファームウェアのインストールと同じです。ただし、以下の違いがあります。

•

Superdome 2/X 上のモナーク（プライマリ）OA またはマルチブレードサーバー上のモナーク iLO 3 管理プロセッサの IP アドレスを指定します。

•

HP-UX サーバーについて、I/O ファームウェアをアップデートする際にターゲットとして使用するサーバーの IP アドレスを指定します。更新できるのは、リモートの HP-UX ターゲットだけです。

Integrity Smart Update Firmware バンドルについて詳しくは、Manage Integrity Servers Firmware Updates の Web サイト <http://www.hpe.com/info/smartupdate/integrity> (英語) を参照してください。

SUM を使用した Synergy サーバーへの展開

SPP および SUM は、一部の HPE Synergy サーバーにアップデートを展開できます。SUM は、HPE Synergy フレームリンクモジュールにアップデートを展開することはできません、HPE OneView を使用してください。

ファームウェア更新を許可するために BitLocker を無効にする (Windows のみ)

TPM についての情報と、TPM と SUM の相互動作のしくみ

BitLocker サポートを一時的に無効にしてファームウェア更新を許可するには、以下の手順に従ってください。

手順

1. **スタート**をクリックして、検索テキストボックスで `gpedit.msc` を探します。
2. ローカルグループポリシーエディターが起動したら、**ローカルコンピューターポリシー**をクリックします。
3. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > BitLocker ドライブ暗号化の順**をクリックします。
4. BitLocker 設定が表示されたら、**コントロールパネルセットアップ: 詳細なスタートアップオプションを有効にする**をダブルクリックします。
5. ダイアログボックスが表示されたら、**無効**をクリックします。
6. すべてのウィンドウを閉じて、ファームウェアの更新を開始します。

詳細なスタートアップオプションを有効にするには、次の操作を行います。

•

`cscript manage-bde.wsf -protectors -disable c:`と入力します。

ファームウェアの更新プロセスが完了したら、手順 1~4 に従って BitLocker ドライブ暗号化サポートを有効な状態に戻せます。ただし、手順 5 では無効ではなく**有効**をクリックしてください。ファームウェアの展開完了後に BitLocker ドライブ暗号化を有効な状態に戻すために、次のコマンドを使用できます。

`cscript manage-bde.wsf -protectors -enable c:`と入力します。

次の表では、発生する可能性がある TPM 検出シナリオについて説明します。

シナリオ	結果
TPM が検出され有効になっており、GUI モードで、システム ROM のアップデートが必要な場合	SUM が TPM を検出したことを示す警告メッセージが表示されます。SUM は、 警告を無視するためのオプション を提供します。 警告を無視 を選択した場合のみ、アップデートを展開できます。
TPM が検出され有効になっており、CLI または入力ファイルモードで、/tpmbypass スイッチが指定されておらず、ファームウェアをサーバーに適用する必要がある場合。GUI モードは/tpmbypass をサポートしていません。	警告メッセージは表示されません。新しいログファイル (%systemdrive%\cpqsystem\log\cpqstub.log) が生成されます。インストールがサイレントモードで行われるため、インストールは終了し、次に進むことはできません。
TPM が検出されオプション ROM 計測が有効になっており、GUI モードで、システム ROM のアップデートが必要な場合	警告メッセージが表示されます。 OK を選択すると、次に進めます。インストールは取り消されません。

表は続く

シナリオ	結果
TPM が検出されオプション ROM 計測が有効になっており、CLI または入力ファイルモードで、/tpmbypass スイッチが指定されておらず、更新されたファームウェアがあればすべてサーバーに適用する必要がある場合	警告メッセージは表示されません。新しいログファイル (%systemdrive%\cpqsystem\log\cpqstub.log) が生成されます。インストールがサイレントモードで行われるため、インストールは終了し、次に進むことはできません。
TPM が検出され有効になっており、CLI または入力ファイルモードを使用しており、インストールが行われ、/tpmbypass スイッチが指定されている場合。	インストールは行われます。

SUM の GUI の展開画面で、TPM を無効にできます。また、CLI または対話式 CLI モードで TPM を無効にすることもできます。

SUM と BitLocker の併用について

TPM は、BitLocker とともに使用する場合、システム状態を測定します。TPM は、ROM イメージの変更を検出すると、ユーザーがリカバリキーを提供できない場合、Windows ファイルシステムへのアクセスを制限します。SUM は、TPM がノード上で有効になっているかどうかを検出します。ProLiant サーバーの一部の新しいモデルでは、ご使用のシステムで TPM が検出された場合やターゲットとして選択されたリモートサーバーで TPM が検出された場合に、iLO、HDD、NIC、および BIOS 用の SUM ユーティリティがフラッシュに先立ってユーザーに警告を行います。ユーザーが一時的に BitLocker を無効にしない場合やフラッシュをキャンセルしない場合、再起動後ユーザーデータにアクセスするには、BitLocker のリカバリキーが必要になります。

リカバリイベントは、次の状況で発生します。

- Microsoft BitLocker ドライブ暗号化を使用している環境で、システム BIOS のフラッシュの前に BitLocker を一時的に無効にしていない。
- iLO、Smart アレイ、および NIC ファームウェアの判定をオプションで選択している。

SUM が TPM を検出すると、メッセージが表示されます。

各サーバーで TPM パスワードを入力することなくファームウェアを更新できるようにするには、BitLocker ドライブ暗号化を一時的に無効にします。BitLocker ドライブ暗号化を無効にしてもハードディスクドライブデータの暗号化は解除されません。ただし、BitLocker はハードディスクドライブに保存されているプレーンテキストの復号キーを使用して情報を読み取ります。BitLocker ドライブ暗号化は、ファームウェアの更新完了後に有効な状態に戻します。BitLocker ドライブ暗号化を有効な状態に戻すと、プレーンテキストキーが削除され、BitLocker によってドライブが保護されます。

△ 注意：

BitLocker ドライブ暗号化を一時的に無効にするとドライブのセキュリティが脅かされる可能性があります。このため、安全な環境以外では無効化を試みないでください。安全な環境を用意できないのであれば、ファームウェアのアップデートプロセス全体にわたって、ブートパスワードを用意し、BitLocker ドライブ暗号化をそのまま有効にしておくことをおすすめします。これには、SUM で `/tpmbypass` パラメーターの設定が必要です。このパラメーターがない場合、ファームウェアのアップデートはブロックされます。

リモートノードでの Linux と HP-UX の root 認証情報の使用

Linux/HP-UX の root ユーザーとして実行するように SUM を設定します。

手順

1. root 認証情報を提供するか、sudo 権限のあるユーザーを提供するか、リモートノードで root 以外の認証情報と root 認証情報を提供することができます。

Linux および HP-UX の sudo 認証情報を使用するための前提条件

- 次のいずれかを指定します。
 - ユーザー名とパスワード
 - ユーザー名と SSH キーのファイルパス（PEM 形式）
- sudo ユーザーについては、`/etc/sudoers` ファイルにユーザーを追加します。以下に、各ユーザーの権限と指定値を示します。
 -

ユーザー : Root

権限 : ALL=ALL

指定 : ALL

。

ユーザー : Sudo_user

権限 : ALL

指定 : ALL

•

sudo コマンドの実行時にシステムが root ユーザーのパスワードではなく sudo ユーザーのパスワードを
求めるように、`/etc/sudoers` ファイルのエントリーを編集します。

•

以下に、`/etc/sudoers` でコメント化または削除する権限を示します。

。

ユーザー : ALL

権限 : ALL

指定 : ALL

注記：

このオプションは、必ず、SuSE Linux Enterprise システムで Defaults targetpw を指定して使用して
ください。

•

スーパーユーザーの機能を使用するには、ユーザーをすべての root 特権を持つスーパーユーザーとして構
成します。また、root ユーザーとともに root 以外のユーザーを使用してコンポーネントをアップデートす
ることもできます。

•

ログイン認証情報の SSH キーを sudo と組み合わせて使用する際には、システムがユーザーパスワード
を要求しないように、`/etc/sudoers` ファイルのエントリーを次のように編集します。

。

ユーザー : sudo_user

権限 : ALL

指定 : NOPASSWD:ALL

root 認証情報での SSH キーファイルの使用

SSH を使用した、Linux/HP-UX の root ユーザーとして SUM を実行する設定。

SUM では、パスワードを使用するか、SSH キーを指定することでログインできます。

手順

1. SUM を実行しているノードで、ssh keygen-t rsa と入力します。SUM は、DSA 暗号化キー形式もサポートします。DSA 暗号化キーを作成するには、ssh -keygen -t dsa と入力します。パスフレーズはオプションです。
2. .ssh/id_rsa.pub ディレクトリ内にキーを保存します。root ユーザーの場合は、/root/.ssh ディレクトリを使用します。
3. キーを開き、次のテキストがあるかキーの最上部を調べて、プライベートキーが PEM 形式であることを確認します。

----- BEGIN RSA PRIVATE KEY -----
4. 必要に応じて、更新したいノードで、ルートレベルに .ssh ディレクトリを作成します。ディレクトリでの権限レベルを 700 に設定します。
5. 更新したいノードにファイル名 .ssh/authorized_keys があるかどうかを確認します。このファイルが存在しない場合は、このファイルを作成または追加します。authorized_keys ファイルに対する権限を 640 に設定します。

注記：

ファイルを追加すれば、より多くのユーザーがプライベートキーの使用を承認されます。

6. ホストノード上の `ssh/id_rsa.pub` の内容をコピーし、リモートノード上のファイル名 `ssh/authorized_keys` 内に貼り付けます。
7. ホストノードと、更新するノードの間の SSH パスを開きます。
 - a. `ssh root@10.0.0.1` と入力します。このパラメーターにより、シェルのパスが開きます。
 - b. `ssh root@10.0.0.1 uname` と入力します。このパラメーターにより、コマンドが実行され結果が戻されます。
8. SUM には、`id_rsa` (プライベートキーファイル) へのアクセスと、オプションのパスフレーズが必要です。

注記：

その他のアプリケーションで PEM 形式のパブリックキーが必要な場合は、`ssh keygen-e-f id_rsa.pub > id_rsa_pub.pem` と入力して変換できます。キーを開き、`---BEGIN SSH2 PUBLIC KEY---`がある PEM 形式であることを確認します。

Windows システムでプライベートキーを作成するには、PuTTY や PuTTY Key Generator (PuTTYGen) などのアプリケーションを使用します。詳しくは、<https://www.digitalocean.com/community/tutorials/how-to-create-ssh-keys-with-putty-to-connect-to-a-vps> を参照してください。

ファイルを PEM 形式にエクスポートするには、**Conversion > Export OpenSSH key** を選択します。

SUM の起動

SUM をスタンドアロンアプリケーションとしてダウンロードした場合、ISO、zip、RPM にはソフトウェア、ドライバー、ファームウェアのコンポーネントは含まれません。コンポーネントは <http://www.hpe.com/jp> からダウンロードできます。SUM を SPP または Integrity バンドルリリースの一部としてダウンロードした場合、コンポーネントの更新が含まれます。

iLO 仮想メディアなど、マウントされた ISO から SUM を起動する場合、SUM は、`%temp%\localhpsum` (Windows の場合) ディレクトリまたは `/tmp/localhpsum` (Linux の場合) ディレクトリを作成します。clean-

cache コマンドでこれらのファイルは消去されないため、一時的なファイル localhpsum は手動で削除する必要があります。SUM は、指定されたドライブにファイルをコピーすることを示すメッセージを表示します。ファイル共有ディレクトリで SUM を実行した場合、SUM はファイルをコピーする必要はありません。

Windows 2012 以降 システムをドメインに追加し、ドメイン管理者グループのユーザーを使用します。

❗ 重要：

複数のユーザーが SUM へ同時にログインすることはできません。更新しているすべてのノードに対して、すべてのユーザーが管理者権限（あるいは同等の権限）を持っていることが必要です。

手順

1. GUI モード

: SUM を保存したディレクトリに移動します。コマンド

hpsum.bat

(Windows) または

hpsum.sh

(Linux) を入力し、GUI を起動します。

2. テキスト ベースのコンソール モード (対話式 CLI)

: SUM を保存したディレクトリに移動します。

コマンドラインから、hpsum およびコンソールパラメーターを入力します。

パラメーターの完全なリストを表示するには、

hpsum -h

(Linux) または

hpsum /h

(Windows) を入力してください。

3. CLI モードと入力ファイルモード

: SUM を保存したディレクトリに移動します。パラメーターの完全なリストを表示するには、

hpsum /s /h

(Windows) または

hpsum -s -h

(Linux) を入力してください。CLI モードでの SUM の使用について詳しくは、次のガイドを参照してください。

Smart Update Manager CLI ガイド

ISO から GUI モードで SUM を起動する

Windows または Linux オペレーティングシステム上で SUM を実行します。

手順

1. ISO からローカルホストにファイルをコピーします。
2. ISO を含むディレクトリから launch_hpsum.bat (Windows) または launch_hpsum.sh (Linux) を実行します。

注記:

Gnome 仮想ファイル システムを使用する場合は、手動で ISO を抽出し、ディレクトリに保存します。その後で、SUM を起動します。

SUM と SPP ブート環境の変更

(SUM 6.2.0 ISO および SPP 2014.02.0 ISO 以降)HPE USB Key Utility では単一のデバイスでのマルチブート設定がサポートされなくなりました。SUM および SPP ISO には、UEFI ブートローダーで動作するために署名された部分が含まれています。この変更により、USB キーなどの単一のデバイス上でのマルチブート設定ができなくなりました。

オンラインモードまたはオフラインモードでの SUM の実行

手順

1. オンラインモード

通常のサーバー環境でホストプロセッサが動作している状態で、インストールが行われます。サーバーで Microsoft Windows Server 2012 が実行され、その環境でアップデートが行われる場合などが該当します。ファームウェアのアップデートのためにサーバーを起動して特別な環境に入れる必要はありません。ただし、ファームウェアをアクティブにするために、ノードを再起動しなければならない場合があります。

2. オフラインモード

オフラインモードでは、SUM は、小さな SUSE Linux Enterprise Server 12 起動カーネルを起動し、単一のサーバーで更新できるようにします。

- ローカルシステムの更新のみ
- 単一ベースラインのみ使用

オフラインモードでは、通常のローカルホストのオペレーティングシステムを必要とする一部の機能はサポートされません。

更新を含む ISO からのオフライン対話式モードまたは自動モードでの SUM の実行

ISO にアップデートが含まれる場合、ISO を DVD または USB キーにコピーできます。DVD または USB キーから、オフライン対話式モードまたは自動モードで SUM を実行できます。

手順

1. 自動モード

ファームウェアコンポーネントがユーザーの操作なしで更新されます。自動モードを起動するには、次の操作を行います。

- a. DVD または USB キーをサーバーに取り付けて、DVD または USB キーからサーバーを起動します。
- b. SUM は、その後すぐにアップデートを開始して展開します。

2. 対話式オフラインモード

—GUI モードを使用して更新を展開できます。オフライン対話式モードを起動するには、次の操作を行います。

- a. DVD または USB キーをサーバーに取り付けて、DVD または USB キーからサーバーを起動します。
- b. オフライン対話式モードで SUM を起動するためのキーを押します。

RPM からの SUM の起動

手順

1. SUM パスで、`hpsum` と入力します。

PXE サーバーを使用した更新のインストール

以下に手順に従って、Linux システム上に PXE サーバーをセットアップします。

手順

1. 次のパッケージをインストールします。
 - a. `tftp-server`

 - b. `dhcp`

 - c. `httpd`

 - d. `syslinux`

2. ネットワーク上に DNS サーバーをセットアップします。DNS サーバーをセットアップすることは必須ではありませんが、推奨されます。

3. XINETD 内部で TFTP をアクティブにします。
 - a. 変更
`disable=yes`
を
`disable=no`
が
`/ect/xinet.d/tftp`

 - b. 再起動
XINETD

4. PXE サーバーを静的 IP を使用するようにセットアップします。
 - a. `/ect/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth0.static` ファイルを作成します。
 - b. ファイルに次の内容を設定します。

```
DEVICE=eth0
BOOTPROTO=STATIC
ONBOOT=no
TYPE=Ethernet
IPADDR=<IP>
NETMASK=<IPMASK>
GATEWAY=<GATEWAYIP>
```

5. 次のように操作して、PXE ブート環境をセットアップします。
 - a. SPP ISO の `/system` ディレクトリから `initrd.img` および `vmlinuz` を PXE システムの `/tftpboot` ディレクトリにコピーします。
 - b. `pxelinux.0` (PXE ブート Linux カーネル) を `/tftpboot` ディレクトリにコピーします。
 - c. `/tftpboot` にコピーされたファイルのパーミッションが `world readable` であることを確認します。
6. PXELINUX を構成します。
 - a. `/tftpboot/pxelinux.cfg` ディレクトリを作成します。
 - b. `/tftpboot/pxelinux.cfg` ディレクトリに、静的 IP アドレスの 16 進値を表すファイルを作成します。たとえば、使用される静的 IP アドレスが `192.168.0.254` の場合、16 進値は `COA800FE` で、作成すべきファイルは次のようになります。
 - `C`
 - `CO`
 - `COA`
 - `COA8`
 - `COA80`
 - `COA800`
 - `COA800F`
 - `COA800FE`
 - c. ブート PXE ブートクライアントの NIC の MAC アドレスを表す容量ゼロのファイルを、`/tftpboot/pxelinux.cfg` ディレクトリに `touch` コマンドを使用して作成します (先頭に「01」を付け、「:」の代わりに「-」を使用)。たとえば、NIC の MAC アドレスが `00:01:02:03:04:05` だとすると、ファイル名は `01-00-01-02-03-04-05` になります。
7. デフォルト `pxelinux` 構成を作成します。
 - a. `/tftpboot/pxelinux.cfg` ディレクトリに `default` という名前のファイルを作成します。
 - b. `default` ファイルの内容を次のように設定します。

```
prompt 1
default Linux
timeout 100
label Linux
kernel vmlinuz
```

```
append initrd=initrd.img ramdisk_size=9216 noapic acpi=off
```

8. SPP ISO の内容全体を/tftpboot/SPP*という名前のディレクトリにコピーします。ここで、「*」は SPP のバージョンを意味します。
9. 次の内容を/etc/httpd/conf/httpd.conf に追加します。ここで「*」は SPP のバージョンを意味します。
10. <Directory /tftpboot/SPP*>
11. Options Indexes
12. AllowOverride None
13. </Directory>
14. Alias /linux /tftpboot/SPP*
15. dhcpd および apache サービスを開始して、tftp をアクティブにします。
16. service dhcpd start
17. service xinetd restart
18. service httpd start
19. サーバーを PXE 経由でブートして、更新プロセスを開始します。

HPE Firmware Pack for ProLiant

Python スクリプトによる更新では、Firmware Pack for ProLiant リポジトリへのアクセスが必要です。リポジトリのセットアップについて詳しくは、<http://www.hpe.com/support/SDR-FWPP> (英語) を参照してください。

hpsum requires コンポーネントに現在インストールされている PCI デバイスがリスト表示されます。

hpsum list コンポーネントに現在インストールされているファームウェアが表示されます。

hpsum upgrade ファームウェアパッケージのフラッシュエンジンが起動します。

hpsum info インストールされているファームウェアの詳細な説明です。

Firmware Pack for ProLiant リポジトリをセットアップしたら、次の手順でファームウェア RPM をダウンロードしてインストールしてください。

- Yum install \$(hpsum requires)
- 該当する RPM をインストールするよう指示されたら、**Y** を押してください。
- RPM がインストールされた後で、次のように入力します。
- hpsum upgrade
- コンポーネントのファームウェア更新のフラッシュを開始するよう指示されたら、**Y** を押してください。

SUM へのログイン

手順

1. SUM がすでに実行されている場合、現在のユーザー認証情報を使用します。

SUM GUI のログアウト

手順

1. ユーザーアイコンをクリックし、**ログアウト**をクリックします。
2. 次のいずれかを選択します。
 - **ログオフ** - 現在のユーザー。
 - **シャットダウン** - このオプションは、SUM エンジンシャットダウンします。
3. **OK** をクリックします。

SUM をシャットダウンせずにブラウザウィンドウを閉じる場合、SUM エンジンはバックグラウンドで実行し続けます。エンジンをシャットダウンするための対話式 CLI コマンドを発行します。

- SUM アプリケーションを格納するディレクトリに移動します。
- コマンドラインから、`hpsum shutdownengine` と入力します。

SUM キャッシュのクリア

SUM は、ノードのユーザー認証情報などのノード情報をセッション間で、データベースファイルに保存します。`clean-cache` は、データベース情報を削除します。このコマンドでは、ログディレクトリまたはファイルは削除されません。データベースの情報をクリアするには、以下の手順に従ってください。

手順

1. SUM エンジンシャットダウンします。
2. コマンドラインウィンドウから、SUM があるディレクトリに移動します。
3. `clean-cache.bat` (Windows) または `clean-cache.sh` (Linux) と入力します。

注記:

GUI を使用している場合は、SUM のあるディレクトリに移動して、`clean-cache` を実行するとそのキャッシュをクリアできます。`clean-cache` コマンドを実行すると、SUM に入力されているノードやベースラインなどの情報がすべて消去されます。

ログファイルとディレクトリの場所の変更

SUM オンラインモードでのログファイルの収集

インストール障害のトラブルシューティング用に SUM でのトレースディレクトリの収集。

SUM は、内部プロセスおよびデバッグ情報を含む一連のデバッグログファイルを生成します。これらのログは、SUM の問題の確認に役立てることができます。ログファイルは、/tmp/HPSUM ディレクトリ (Linux) および %temp%\HPSUM ディレクトリ (Windows) に格納されます。SUM は、アップデートする機能およびノードごとにログファイルを作成します。

SUM は、GatherLogs.bat (Windows 用) または Gather logs. sh (Linux 用) という名前のユーティリティを備えており、すべてのログを使用して圧縮ファイル (Windows では .zip、Linux では tar.gz) を作成します。ログファイルを参照するために、このユーティリティを実行して 1 つのファイルにすべてのログを収集できます。

手順

1. hp/swpackages ディレクトリを開き、gather logs.bat (Windows) または gather logs. sh (Linux) を起動します。
2. 一時停止せずにログを実行する場合は、gather logs-s コマンドを使用します。

SUM オフラインモードでのログファイルの収集

インストール障害のトラブルシューティング用に SUM でのトレースディレクトリの収集。

手順

1. SPP または SUM をオフラインモードで起動します。
2. **CTRL+ALT+D+B+G** を押して、SUM GUI からコマンドプロンプトを起動します。
3. ログを保存するディレクトリを選択します。 ログは、別のコンピューターで参照するために、リムーバブルメディアに保存できます。
4. ./gather logs. sh と入力して、SUM のログを収集します。すべてのログは、SUM が格納されているディレクトリ内、または一時ディレクトリ内 (SUM のディレクトリが読み取り専用の場合) の tar.gz ファイルに収集されます。ログファイルの名前は、HPSUM_Logs_\$(日付時刻).tar です。

SUM ログファイルの位置

インストール障害のトラブルシューティング用に SUM でのトレースディレクトリの収集。

SUM は、以下の場所にログを格納します。

ユーザーログ **Windows ディレクトリ** : C:\%cpqsystem%\hp\log
Linux ディレクトリ : /var/hp/log

デバッグログ **ローカルの Windows ディレクトリ** : %temp%\HPSUM (通常は appdata 内にある)。
リモートの Windows ディレクトリ : admin\$\temp (通常は C:\windows\temp\HPSUM)。
Linux ディレクトリ : /tmp/HPSUM

必要に応じた SUM **Windows ディレクトリ** : %temp%\localhpsum
バイナリのローカル
コピー* **Linux ディレクトリ** : /tmp/localhpsum

SUM をネットワークマウント共有または読み取り専用の場所から起動すると、バイナリおよびサポートファイルのローカルコピーが作成されます。これにより、アップデート中の SUM の中断のないアクセスが可能になります。

リモートノードファ **Windows ディレクトリ** : admin\$\temp
イル **Linux ディレクトリ** : /tmp/HPSUM

注記:

Linux システムで、示されている場所でログが見つからない場合は、ディレクトリ/var/cpq/Component.log を確認してください。

SUM のログの内容

インストール障害のトラブルシューティング用に SUM でのトレースディレクトリの収集。

- - ユーザーログ
 -
 - 場所 : HPSUM\binarylog\ -
 - SUM コマンドの初期解析。
 -
 - SUM サービスを起動します。
 -

サービス中のセッションを作成し、ユーザーログインします。

- セッションで送受信したコマンドの詳細を表示します。
- CLI/入力ファイル/対話式 CLI モード：コマンドシーケンスを使用して各コマンドの詳細を表示します。
- GUI：サービスにログインしているセッションがあることを監視した後、シャットダウンします。

•

ベースラインログ

- 場所：HPSUM¥baseline¥baseline.log
- ベースライン内のコンポーネントのインベントリ。
- コンポーネントの詳細のソース。
- インベントリ後の各コンポーネントのステータス。
- カスタムベースライン/ISO の作成の詳細。
- Web からダウンロードしたベースラインの詳細。

•

ノードログ

- 場所：HPSUM¥<ip>¥node.log
- 調査後のノードのやりとりの詳細。

- 各コンポーネントをノードに適用できる、または適用できない理由の詳細。
- ノードに適用できるコンポーネント、インストール済みの使用可能なバージョン、依存関係の障害、およびその他の詳細を示すテーブル。
- force、software only、use_ams などのオプションを送信している場合は、複数のテーブルが表示されます。
- 各コンポーネントの展開と戻り値の概要。
- 展開後のノードの全体的なステータス。
- インベントリログ
 - 場所 : HPSUM¥<ip>¥inventory. log このログは、ノードのインベントリプロセスの詳細を提供します。
- 展開ログ
 - 場所 : HPSUM¥<ip>¥deploy. log
 - ノードでの展開プロセスの詳細。
 - コンポーネントごとの詳細。
- コア検出ログ
 -

場所 : HPSUM¥<ip>¥core_discovery_dump.xml

- インベントリ中に SUM が検出した詳細。
- システム上で検出されたシステム、ソフトウェア、およびドライバーのタイプおよびバージョン。
- 自己検出コンポーネントを必要としないファームウェアの詳細。

コンポーネントの自己検出ログ

場所 : HPSUM¥<ip>¥<comp_name>_disc.xml

SUM は、特定のハードウェアに組み込まれた情報を使用してシステムに問い合わせ、詳細情報ファイルを出力します。

自己検出コンポーネントの出力の詳細。

SUM で、自己検出コンポーネントをシステムに適用できると判断されると、ファイルが生成されます。

– Windows : <comp_name> /s /d <comp_name>_disc.xml

– Linux : <comp_name> -s -s <comp_name>_disc.xml

ログには、項目ごとに 1 つの<device>エントリーが含まれます。

ログには、複数の<fw_item>エントリーが含まれる可能性があります。

SUM ログ

◦

Windows の場所 : C:\cpqsystem\hp\log\

。

Linux の場所 : /var/cpq/hp/log/<ip>/hpsum_log.txt

。

指定された<ip>アドレスにあるノードの最高レベルのユーザーログ。

。

SUM の複数のセッションが同じログファイルに含まれています。

。

実行されたステップと、システムにインストールされているコンポーネントのサマリーが含まれます。

。

ノードのリターンコードが含まれます。

•

SUM の詳細ログ

。

Windows の場所 : C:\cpqsystem\hp\log\

。

Linux の場所 : /var/cpq/hp/log/<ip>/hpsum_detail_log.txt

。

IP アドレスにあるノードの詳細レベルのユーザーログ。

。

SUM の複数のセッションが同じログファイルに含まれています。

。

ノード上で実行されている各コンポーネントからの完全な出力が含まれます。

。

各コンポーネントとそのノードのリターンコードが含まれます。

•

SUM のインストールの詳細ログ

。

Windows の場所 : C:\cpqsystem\hp\log\

◦

Linux の場所 : /var/cpq/hp/log/<ip>/HPSUM_InstallDetails_log.txt

◦

最新インストールのユーザーの XML バージョンのステータス。

◦

全体的なステータスの詳細が含まれます。

◦

インストールされている各コンポーネントについての詳細が含まれます。

•

cpqsetup ログ

◦

Windows の場所 : C:\cpqsystem\log\cpqsetup.log

◦

Linux の場所 : /var/cpq/log/Component.log

◦

各コンポーネントの自己検出と、展開されたインストールの詳細が含まれます。

•

個々のコンポーネントによって作成されたその他のログ

◦

Windows の場所 : C:\cpqsystem\log*.log

◦

Linux の場所 : /var/cpq/log/*.log

◦ Flash.debug.log

◦ Verbose.log

◦ Cpxxxxxx.log

GatherLogs

SUM では、すべてのログファイルを 1 つのファイルに収集するツールを提供しています。問題をトラブルシューティングする場合は、gather logs を実行します。このスクリプトは、SUM が格納されているディレクトリと同じディレクトリにあります。

Windows の gather logs コマンドを実行するには、ユーザーの入力が必要です。ユーザーの入力なしでスクリプトを実行するには、gather logs.bat -s と入力します。

hpsum.ini ファイルの使用

SUM は、起動後、一時ディレクトリに hpsum.ini ファイルを作成します。hpsum.ini ファイルは、SUM セッションの複数の設定を構成するプレーンテキストファイルです。このファイルは一時ディレクトリに作成されるため、SUM セッション間で削除される可能性があります。hpsum.ini ファイルは SUM のあるディレクトリ内に保存または作成でき、一時ディレクトリ内のファイルの代わりに使用されます。

SUM 一時ファイルのコピー

手順

1. 一時ファイルを保存しているディレクトリに移動します。デフォルトの場所は、次のとおりです。
 - a. Windows :
`%temp%\HPSUM`
 - b. Linux :
`/tmp/HPSUM`
2. 一時ファイルをコピーして、将来使用するためディレクトリにペーストします。

デフォルト hpsum.ini ファイルの編集

手順

1. SUM の一時ディレクトリに移動します。一時ディレクトリのデフォルトの場所は /tmp/HPSUM (Linux) または %temp%\HPSUM (Windows) です。

注記：

ディレクトリまたは hpsum.ini ファイルがない場合は、SUM を起動した後シャットダウンして、デフォルト hpsum.ini ファイルを作成します。

2. テキストエディターで、hpsum.ini ファイルを開きます。
3. 変更するパラメーターを編集します。詳しくは、「[hpsum.ini ファイルのパラメーター](#)」を参照してください。
4. ファイルを保存します。
5. SUM を起動して、これらのパラメーターを使用できます。

hpsum.ini ファイルの作成

SUM の起動前に、hpsum.ini ファイルを作成して、使用するパラメーターを割り当てることができます。テキストエディターを使用してファイルを作成し、選択したディレクトリに保存します。詳しくは、以下を参照してください。

手順

1. テキストエディターを開いて、ドキュメントを作成します。
2. SUM で使用するパラメーターをドキュメントに入力します。
3. (オプション) /opt/hp/hpsum/bin/hpsum.ini を作成して、SUM RPM (Linux のみ) のデフォルトの一時ディレクトリを上書きします。

一時ディレクトリの変更

書き込み可能なディレクトリからのファイルの編集

手順

1. 書き込み可能なディレクトリから hpsum.ini ファイルを編集します。

注記：

環境変数

TMPDIR

が設定されている場合、SUM は

TMPDIR

ディレクトリに

ディレクトリ localhpsum を

作成し、必要な SUM ファイルをそのディレクトリにコピーします。

書き込み可能なディレクトリからの一時ディレクトリのスクリプト作成

- Windows システムのコマンドラインから、次の操作を行います。
- 次のように入力します。

```
echo [Engine] > hpsum.ini
echo temp_dir=c:/hpsum/logs >> hpsum.ini
hpsum
```

- コマンドラインを終了します。
- Linux システムのコマンドラインから、次の操作を行います。
- 次のように入力します。

```
echo "[Engine]" > hpsum.ini
echo "temp_dir=/use/john/hpsum/logs" >> hpsum.ini
./hpsum
```

- コマンドラインを終了します。

書き込み可能なディレクトリへのリダイレクト（書き込み不可能なディレクトリから実行する場合）

書き込み不可能なディレクトリから SUM を実行する場合、次のコマンドで hpsum. ini ファイルが生成されます。このコマンドは、ファイルを新しい場所にリダイレクトします。

- Windows システムのコマンドライン：次のように入力します。

- mkdir %temp%\HPSUM
- echo [Engine] > %temp%\HPSUM\hpsum. ini
- echo temp_dir=c:\hpsum\logs >> %temp%\HPSUM\hpsum. ini
- hpsum
- コマンドラインを終了します。

- Linux システムのコマンドライン：次のように入力します。

- mkdir /tmp/HPSUM
- echo "[Engine]" > /tmp/HPSUM/hpsum. ini
- echo "temp_dir=/use/john/hpsum/logs" >> /tmp/HPSUM/hpsum. ini
- ./hpsum
- コマンドラインを終了します。

SUM を実行する前の TEMP ディレクトリの設定（Windows）

- Windows システムのコマンドライン：
- 次のように入力します。

```
set TEMP=c:\hpsum\logs
hpsum
```

- コマンドラインを終了します。

ディレクトリ間のシンボリックリンクの作成（Linux）

この方法では、SUM を起動する前に、/tmp/HPSUM から別のディレクトリにシンボリックリンクを作成します。

- 次のように入力します。

```
-mkdir /opt/hp/HPSUM  
-ln -s /opt/hp/HPSUM /tmp/HPSUM
```

hpsum.ini ファイルのパラメーター

ご使用の環境に基づいて、以下の SUM パラメーターを定義します。

```
[FTP]                port=disabled  
  
[HTTP]              port=63001  
                   ssl_port=63002  
                   num_threads=40  
  
[Engine]           temp_dir=<path>
```

注記：

このパラメーターは、ログファイル、ノード、およびベースラインデータベースを保存する一時ディレクトリを変更するための 1 つの方法です。一時ディレクトリの変更方法については、[一時ディレクトリの変更](#) (42 ページ) を参照してください。

```
node=release  
use_http=false  
  
[Download engine]  use_http=true  
  
[Log]              file_name=engine.log  
                   log_format=type3  
                   column1=30  
                   column2=100  
  
[Web]              virtual_path=C:/Temp/7.1.0-final/hpsum/assets  
  
[HEARTBEAT_SETTINGS] remotenode_heartbeat_time_interval=10 - 時間 (分)。有効範囲は 1~20 分。デフォルトは 10 です。  
                    masternode_heartbeat_time_interval=1 - 時間 (分)。有効範囲は 1~5 分。デフォルトは 1 です。  
                    remotenode_heartbeat_elapsed_time=90 - 時間 (分)。有効範囲は 1~90 分。デフォルトは 90 です。  
  
[rpm]              nodeps=false
```

```
[iLO_Federation] listen_time_in_seconds=5
auto_multicast_discovery=true
```

SUM GUI の使用

SUM によるノードのアップデートの概要

以下に、ローカルホストガイドアップデート機能を使用しないで単一のノードにアップデートを展開する単純な例を示します。

手順

1. ベースラインを追加します。
2. ノードを追加します。
3. ノード上でインベントリを実行します。
4. アップデートをノードに展開します。
5. ノードレポートを生成します。

SUM のホーム画面

SUM を起動すると、ホーム画面が表示されます。この画面から、ローカルホストガイドアップデート、iLO 連携アップデート、ベースラインライブラリ、またはノードをクリックできます。その他の画面に移動するには、左上隅のナビゲーションメニューを使用します。



SUM のアクティビティ画面

アクティビティ画面は、SUM が実行中の処理や最近実行した処理のリストを示します。表に、SUM によって実行される処理に関連するソースとメッセージが表示されます。この画面を表示している間、画面は更新されません。最新のアクティビティステータスを表示する場合は、**更新**をクリックします。



SUM のローカルホストガイドアップデート

ローカルホストガイドアップデート機能を使用して、SUM を実行しているローカルホストを更新します。ベースラインライブラリに追加したベースラインを使用できます。ベースラインを指定しない場合、SUM は SUM の実行元ディレクトリにあるアップデートを使用します。アップデートを展開する前にコンポーネントを構成する場合は、ローカルホストガイドアップデートを実行する前にベースラインライブラリから構成変更を行います。

ローカルホストガイドアップデートの各モード

- **対話式**：デフォルトのベースラインまたは他のベースラインを使用してローカルホストが更新されます。SUM がローカルホストに適用するアップデートは、ユーザーが選択できます。
- **自動**：SUM は、ローカルホストを自動的に更新し、デフォルトのベースラインまたは選択したその他のベースラインを使用します。**OK** をクリックすると、SUM が、ノードのアップデートを開始します。



対話式モードでのローカルホストガイドアップデート機能の使用

手順

1. ナビゲーションメニューのローカルホストガイドアップデートをクリックします。

注記：

この画面で選択を変更するには、**最初からやり直す**をクリックします。

2. **対話式**を選択します。
3. SUM は、ローカルホスト用に選択された現在のベースラインを表示します。
 - a. 現在選択されているベースラインを使用する場合は、次の手順に移ります。
 - b. 別のベースラインを使用する場合は、ベースラインの横にある **X** をクリックします。**ベースライン割り当て**を選択して、別の**ベースライン**または**追加のパッケージ**を追加します。適用するベースラインまたはパッケージを選択します。
4. **OK** をクリックします。SUM が、ベースラインとローカルホストのインベントリの作成を開始します。
5. SUM がインベントリを終了したら**次へ**をクリックします。
6. 展開できる推奨アップデートは青色でハイライトされ、**準備完了**列に緑のアイコンが表示されます。コンポーネントの**準備完了**欄に赤色のボタンがある場合、SUM がそのコンポーネントを展開する前に、解決する依存関係があります。先に残りのアップデートを展開し、このアップデートの実行は後に回す場合は、この項目の選択を解除します。
7. **Deploy all updates** を選択した場合は、SUM が再起動を開始するまでの待機時間を選択します。
8. **展開**をクリックします。

注記：

最新ではない項目、またはオプションである項目はハイライトされません。これらのアップデートを展開する場合は、**選択**をクリックします。すべてのコンポーネントを全体的に選択して再書き込みまたはダウングレードする場合は、**アクション > アドバンスドオプション**を選択して**再書き込み**および**ダウングレードオプション**を選択し、**再起動オプション**を選びます。コンポーネントの詳細を表示するには、アップデートをダブルクリックします。新しいアップデートの情報を表示する場合は、ハイパーリンクをクリックします。

9. SUM は、アップデートを展開する前にコンポーネントの分析を実行します。
10. インストールログファイルを確認します。

注記：

オフラインモードで SUM がアップデートの展開に失敗した場合、**再起動**をクリックして SUM を終了し、ホストオペレーティングシステムにノードを再起動します。

自動モードでのローカルホストガイドアップデート機能の使用

手順

1. ナビゲーションメニューのローカルホストガイドアップデートをクリックします。
2. **自動**をクリックします。
3. SUM は、ローカルホスト用に選択された現在のベースラインを表示します。
 - a. 現在選択されているベースラインを使用する場合は、次の手順に移ります。
 - b. 別のベースラインを使用する場合は、ベースラインの横にある **X** をクリックします。ベースライン割り当てを選択して、別のベースラインまたは追加のパッケージを追加します。適用するベースラインまたはパッケージを選択します。
4. **OK** をクリックします。

注記：

OK をクリックすると、SUM がアップデートの展開を開始します。ローカルホストガイドアップデート機能の自動モードでは、アップデートを中断することはできません。自動モードでは、SNMP および WBEM Provider コンポーネントはインストールできません。これらのコンポーネントをインストールする場合は、対話モードを使用してください。

HP SUM での iLO 連携機能の使用

SUM の iLO 連携機能の概要。

HP SUM を使用してインベントリを作成し、iLO 連携グループのメンバーにソフトウェアを展開することができます。インターフェイス iLO と呼ばれる、グループ内のノードによって、グループメンバーとの通信が容易になります。このノードは、iLO 4 ファームウェアバージョン 1.40 以降で使用できます。

❗ 重要：

iLO 連携グループの一部として使用する場合は、iLO を個々のノードとして追加しないでください。

HP SUM にログインすると、HP SUM は、接続したネットワーク上で iLO 連携グループを自動的に検索します。HP SUM は各グループを検索し、検索に応答するノードを表示します。**Edit scalable update group** 画面を使用して、インターフェイス iLO の IP アドレスとユーザー認証情報を入力します。このノードは、グループ内のノードに対するインベントリと展開のためのインターフェイスとして HP SUM が使用する、iLO 連携グループのメンバーです。

グループのインベントリを作成した後、HP SUM は、説明、サーバータイプ、サーバー数、インストールされているファームウェアバージョンなど、そのグループに関する情報を表示します。HP SUM は、PMC、CPLD、システム ROM、および iLO ファームウェアを表示します。HP SUM では、iLO メンテナンスネットワークを介してシステム ROM、iLO ファームウェア、PMC ファームウェア、および CPLD ファームウェアを iLO 連携グループのノードに展開できます。

HP SUM iLO 連携機能では、HP SUM を起動する前に、iLO 連携グループの構成が適切に行われているものとします。同じ名前が付いた複数の iLO 連携グループがあったり、iLO 連携グループが断片化していると、HP SUM は期待されたシステムの一部とのみ連携することになります。

自動ネットワーク検索機能の無効化

hpsum.ini ファイルの auto_multicast_discovery パラメーターは変更できます。

注記：

自動アップデートを無効にすると、iLO 連携グループのスキャンを継続できます。**iLO 連携アップデート**画面で**再スキャン**ボタンをクリックしてください。

iLO 連携グループの手動による追加

iLO 連携グループを追加するための手順。

HP SUM を起動すると、iLO 連携グループを検出します。ローカルの iLO 連携グループおよび HP SUM を実行しているホストのネットワーク範囲にある iLO 連携グループは、自動的に検出されます。ネットワーク構成やファイアウォールのために自動的に検出されない iLO 連携グループは、手動で追加できます。

手順

1. メインメニューから、**iLO 連携アップデート**を選択します。
2. **iLO 連携アップデート**画面で、**グループの追加**をクリックします。
3. **iLO 連携グループ名**を入力します。
4. **iLO 連携グループの説明**を入力します。
5. **追加**をクリックします。

iLO 連携グループの再スキャン

グループを再スキャンする方法に関する情報。

iLO 連携アップデート画面を開くと、HP SUM はネットワークを自動的にスキャンして iLO 連携グループを探します。HP SUM にネットワークの再スキャンを強制すると、iLO 連携グループを探すことができます。

手順

1. メインメニューから、**iLO 連携アップデート**を選択します。
2. **iLO 連携アップデート**画面で、**再スキャン**をクリックします。

iLO 連携グループの編集

グループを編集するための手順。

手順

- 1.

メインメニューから、**iLO 連携アップデート**を選択します。

2. **iLO 連携アップデート**画面で、**アクション > 編集**の順に選択します。
3. 選択した iLO 連携グループの以下の項目を変更することができます。
 - a. **iLO 連携グループの説明**
 - b. **ユーザー名**

と
パスワード
の認証情報
 - c. **適用するベースライン**

と
追加のパッケージ
4. 変更を保存するには、**OK** をクリックします。

iLO 連携グループのインベントリ作成

SUM を使用してインベントリを実行する手順。

iLO 連携グループに割り当てられたベースラインがない場合、グループでインベントリを作成することができません。オフラインモードでアップデートを展開している場合は、この機能を使用します。ベースラインが割り当てられていないインベントリを実行した場合、HP SUM は展開プレビュー、失敗した依存関係の詳細、または統合レポートを生成しません。

手順

1. メインメニューから、**iLO 連携アップデート**を選択します。

2. **iLO 連携アップデート画面**から **iLO 連携グループ**を選択して、**アクション > インベントリ**の順に選択します。
3. **インターフェイス iLO** で **IP** または **DNS** で **iLO** を手動で入力してくださいまたはメンバーの **iLO IP** の検出リストから**選択**を選択します。
4. **グループ**または**インターフェイス iLO** がすでにネットワーク上にない場合、**HP SUM** は**グループ**または**インターフェイス iLO** が使用できないことを示すメッセージを表示します。

❗ **重要：**

個々のノードとして追加された**インターフェイス iLO** を選択しないでください。

5. 次のいずれかを実行します。
 - a. **検出された iLO の IP リストのメンバーから選択**
を選択した場合は、**iLO の IP アドレス**を選択します。
 - b. **IP または DNS で iLO を手動で入力してください**
を選択した場合は、使用する **iLO の IP アドレス**または **DNS アドレス**を入力します。
6. **認証情報**セクションで、**インターフェイス iLO** の**ユーザー名**と**パスワード**を入力します。
7. **適用するベースライン**セクションで、**ベースラインライブラリ**から**ベースライン**または**追加パッケージ**を選択します。
8. **グループ**を編集したり**グループ**で**インベントリ**を実行したりして、**ベースライン**または**追加のパッケージ**を割り当てた場合、これらの値は自動的に入力されます。

注記：

アップデートをオフラインモードで iLO 連携グループに展開する場合はオプションです。

9. インベントリをクリックします。

注記：

iLO 連携グループにアップデートをオフラインモードで展開する場合、その iLO 連携グループで、アップデートを含む ISO ファイルを使用してインベントリを実行することはできません。ドライブ上の ISO ファイルを解凍し、ベースラインとして追加した後で、そのベースラインを使用してインベントリを実行してください。

iLO 連携グループのファームウェアバージョンの表示

iLO 連携グループのファームウェアバージョンを SUM で表示する方法に関する情報。

手順

1. メインメニューから、**iLO 連携アップデート**を選択します。
2. iLO 連携グループを選択します。
3. グループがインベントリに追加されていなかった場合、インベントリプロセスを開始します。
4. インベントリされたグループのファームウェアバージョンセクションで、以下のいずれかのファームウェアタイプを選択します。
 - a. iLO
 - b. BIOS
 - c. PMC
 - d. CPLD
5. HP SUM は、ファームウェアタイプごとに、ファームウェアタイプ、ファームウェアバージョン、および各ファームウェアバージョンを使用するシステムの数を表示します。

iLO 連携グループメンバーの表示

iLO 連携グループのメンバーを SUM に表示する方法に関する情報。

手順

1. メインメニューから、**iLO 連携アップデート**を選択します。
2. iLO 連携グループを選択します。
3. グループがインベントリに追加されていなかった場合、インベントリプロセスを開始します。
4. サーバーセクションには、グループ内のサーバーモデルと、各サーバーモデルの合計数を示します。

iLO 4 ファームウェアバージョン 2.10 以降は、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスをサポートします。IPv4 と IPv6 を使用して iLO システムを構成した場合、HP SUM は iLO 連携グループ内でそのノードを 2 回表示します。これは、影響を受けるノードへの展開には影響しません。

ソフトウェアの iLO 連携グループへの展開（オンライン）

オンライン展開機能を使用する手順。

手順

1. メインメニューから、**iLO 連携アップデート**を選択します。
2. **iLO 連携アップデート**画面で、**アクション > オンラインレビュー/展開**の順に選択します。

注記：

iLO 連携グループにインストールしている場合は、TPM を無効にします。TPM は、オンライン展開に関する問題の原因となる可能性があります。

3. **インストールオプション**を選択します。

注記：

コンポーネントのダウングレードまたは再書き込みを行う場合は、ダウングレードか再書き込みを行うコンポーネント、つまり

ファームウェア、

ソフトウェア、

またはその両方を指定する必要があります。

4. **フィルター**セクションで、更新するサーバーを選択します。HP SUM は、すべてのノードのコンポーネントを表示します。
5. オプション：**ベースラインライブラリ**セクションで、使用するベースラインを選択します。
6. **ベースラインライブラリ**セクションで、展開するコンポーネントを選択します。デフォルトの選択項目に対して変更を行った場合は、**解析**をクリックします。
7. **展開**をクリックします。

HP SUM は、展開中にインターフェイス iLO との接続を失った場合、ユーザーにインターフェイス iLO の認証情報の入力を要求します。

ソフトウェアの iLO 連携グループへの展開（オフライン）

オフライン展開機能を使用する手順。

オフラインでの更新を使用します。グループ内部のすべてのノードに ISO をマウントして、ノードをリセットし、ISO から起動して、オフラインでの更新を実行してください。

手順

1. メインメニューから、**iLO 連携アップデート**を選択します。
2. **iLO 連携アップデート**画面で、**アクション**>**オフラインレビュー/展開**の順に選択します。
3. HP SUM は **iLO 連携グループ名**と**インターフェイス iLO**を表示します。

4. 指定した HTTP サーバー上で ISO を使用を選択します。
5. ISO イメージボックスで、HTTP 経由で使用できるネットワーク上の ISO イメージの URL を入力します。

注記：

iLO 連携グループのインベントリに使用したベースラインを含むソース ISO を選択します。

6. 検証をクリックします。
7. HP SUM はパスが有効であることを確認します。
8. フィルターセクションで、HP SUM が電源を切断してコンポーネントを展開するサーバーを選択します。
9. 電源オフおよび展開をクリックします。

ISO イメージがマウントされていない場合、HP SUM は、エラーメッセージを表示します。

レポートの生成

レポートを生成するための手順。

HP SUM は、通常のノードに対して作成するレポートと同じレポートを iLO 連携グループに対して作成します。

注記：

iLO 連携レポートには、バージョンと更新のみの詳細が含まれ、グループのサーバーごとの詳細は含まれません。

iLO 連携グループの削除

グループを削除するための手順。

手順

1. iLO 連携アップデート画面から iLO 連携グループを選択します。
2. アクション > 削除の順に選択します。

SUM のベースラインライブラリ画面

ベースラインライブラリ画面には、ノードのアップデートに使用するベースラインと追加パッケージが表示されます。ベースラインには、SPP、Integrity バンドル、または他のベースラインや追加パッケージから選択するアップデートを含むカスタムベースラインが含まれます。追加パッケージとは、Hot Fix などの名前付きアップデートパッケージに含まれないアップデートを保持するディレクトリです。SUM は、セッション間のベースライン情報を保存しています。

追加された各ベースラインが左のパネルに表示されます。ベースラインを選択すると、ベースラインと追加パッケージごとに以下の情報が表示されます。

- リリース日付
- 言語
- オペレーティングシステム
- 拡張
- コンポーネント - 検索パラメーターに一致するアップデートを検索する検索ボックスがあります。ファイル名、説明、およびアップデートの種類を検索できます。詳細を表示するにはアップデートをダブルクリックします。
- コンポーネント警告 - ベースラインのマニフェストにリストされているコンポーネントが表示されますが、そのコンポーネントは存在しません。
- コンポーネントの構成 - アップデートを展開する前にいくつかのコンポーネントを構成してください。コンポーネントの構成について詳しくは、「[コンポーネント構成](#) (70 ページ)」を参照してください。

注記：

カスタム ISO を作成した場合、SUM がファイルを検出できるように ISO をシステムにマウントしてから、そのディレクトリをベースラインとして追加してください。詳しくは、「[ベースラインの追加](#) (60 ページ)」を参照してください。

SUM ベースラインについて

ベースラインは、SUM でローカルおよびリモートのノードに適用できるアップデートコンポーネントが含まれるディレクトリです。一部のベースラインを次に示します。

- SPP
- カスタム SPP のダウンロード
- メンテナンスサプリメントバンドル
- SUM で作成されたカスタムベースライン/ISO

ベースラインを追加すると、SUM は、以下のファイルを検索します。

- bpxxxx.xml ファイル：ベースライン内の名前、バージョン、履歴、およびコンポーネントが含まれます。SUM は、bpxxxx.xml ファイルに含まれない、ディレクトリ内のすべてのコンポーネントを、メインベースラインではなく追加パッケージとして扱います。SPP、メンテナンスサプリメントバンドル、およびカスタムベースラインには、bpxxxx.xml ファイルが含まれます。
- `..¥.¥hp_manifest` ディレクトリ：このディレクトリには、ベースラインに含まれている一部のコンポーネントについての詳細が含まれています。SPP とカスタムベースラインには、データがあらかじめ入力されているデータベースが含まれます。マニフェストディレクトリには、以下が含まれます。
 - meta.xml：コンポーネントの XML ファイルデータのほとんどが含まれています。
 - primary.xml：ベースライン内の RPM についての詳細が含まれています。

- system.xml : ROM ファミリとシステムモデルの間のマッピングについての情報が含まれています。
- revision_history.xml : コンポーネントの履歴情報が含まれています。

•
 ¥db¥BaselineDB.pdb : これは、データがあらかじめ入力されているデータベースであり、他のベースラインからの他のデータベースが存在しない場合、SUM はこのデータベースを使用します。このファイルには、ベースラインが生成されたときのコンポーネントのすべての詳細が含まれています。SPP とカスタムベースラインには、データがあらかじめ入力されているデータベースが含まれます。

SUM は、ベースラインからデータを読み取るときに、次の優先順位を使用します。

•
 データがあらかじめ入力されているデータベース : データがあらかじめ入力されているデータベースを使用すると、SUM はベースラインのインベントリを最も迅速に完了することができます。

•
 マニフェストファイル : SUM はマニフェストファイルを使用して、各コンポーネントを開くよりも速くベースラインのインベントリを完了します。

•
 各コンポーネントの読み取り。各コンポーネントには、コンポーネントについての詳細が含まれる xml ファイル (cpxxxx.xml) が組み込まれています。コンポーネントについての詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

- Windows : コンポーネントを起動した後、**Extract** を選択します。
- Linux scexe : コマンドラインで ./CPxxxx.scexe --unpack=<dir>と入力します。
- Linux RPM: コマンドラインで rpm -qp --scripts <rpm_name>と入力します。コンポーネントの xml が出力に組み込まれています。
- VMware zip : .zip ファイルを解凍します。

ベースラインの追加

手順

1. ベースラインライブラリ画面で、**ベースラインの追加** をクリックします。

注記：

ベースラインの追加画面をクリアしたい場合は、**最初からやり直す** をクリックします。

ベースラインを追加するための画面が表示されます。

2. 追加するベースラインのタイプを選択し、必要な情報を含めます。

**Browse SUM
Server Path**

SUM を実行しているシステムがアクセスできるディレクトリまたはファイル共有です。

ベースラインへのディレクトリパスを入力するか、**一覧**をクリックし、メニューを使用してディレクトリに移動します。

注記：

SPP を追加している場合は、hp/swpackages ディレクトリに移動します。

**UNC パス (例：
\\host\dir)**

システムがアクセスできる UNC パスを使用します。**ベースラインの URI** を入力フィールドに、ソースベースラインの UNC アドレスを入力します。ユーザー名とパスワードを入力します。

注記：

UNC パスは、Windows システムのみでサポートされています。

SUM では、マッピングされた UNC ドライブをサポートしていません。

hpe.com から ダウンロード

SUM では、hpe.com からのベースラインのダウンロードがサポートされなくなりました。

http 共有から ダウンロード

ディレクトリパスを入力：ベースラインを保存するディレクトリを入力するか、そのディレクトリに移動します。SUM では必要に応じて、ディレクトリを作成することができます。

HTTP URL を入力：バンドルファイルが保存されている HTTP URL を入力します。サーバーは、ローカルでもリモートでも構いません。また、Apache、Tomcat、または IIS サーバーを使用できます。バンドル XML を含む、完全な URL を入力してください。コンポーネントは、バンドル XML と同じディレクトリに存在する必要があります。

特定のオペレーティングシステム用のコンポーネントをダウンロードする場合は、**OS フィルターオプション**で、オペレーティングシステムを選択します。

注記：

SUM は、ディレクトリ内で見つかったすべてのベースラインを追加します。

3. **追加**をクリックします。

アクティビティログをチェックしてベースラインのステータスを確認します。ベースラインがベースラインリストに表示されない場合は、ディレクトリにアップデートがあることを確認します。

注記：

ベースラインの追加を完了するとすぐに、SUM がベースラインのインベントリを開始します。別のベースラインを追加する場合は、ベースラインのインベントリが完了するまで待ってから作業を開始します。

カスタムベースラインと ISO の作成

始める前に

- ベースラインライブラリ画面に、ベースラインとしてアップデートを含むディレクトリを追加します。ベースラインの追加について詳しくは、「[ベースラインの追加](#)」を参照してください。
- SUM の外部に、カスタムベースラインまたは ISO を保存するディレクトリを作成します。
- 各ベースラインディレクトリには、必ず、ベースラインを 1 つだけ含んでください。たとえば、SPP ISO とホットフィックスを同じディレクトリに入れしないでください。

カスタムベースラインを作成すると、SPP リリースから特定のアップデートを展開でき、アップデートベースラインやブート可能/不可能な ISO のサイズを最小限に抑えることができるほか、環境に展開するアップデートを標準化できます。また、アップデートの展開に使用する SUM のバージョンを変更することもできます。

注記：

カスタムのブート可能 ISO を作成する前に、ブート環境のソースとして使用できる、解凍された ISO がローカルディレクトリで利用可能であることを確認します。たとえば、最新の SPP ISO です。1 つのディレクトリに解凍する ISO は、1 つだけにしてください。

SPP のカスタムダウンロード Web サイト (<https://www.hpe.com/servers/spp/custom/> (英語)) で、カスタム SPP を作成してダウンロードできます。

手順

1. **+追加**をクリックして、**カスタムを作成**を選択します。
2. **説明**テキストボックスに、ベースラインの説明を入力します。説明は、最大 50 文字まで入力できます。
3. **バージョン**で日付を選択し、1 文字または 2 文字の識別子 (例 : 1、1a など) を入力します。

説明とバージョンを組み合わせると**ベースライン名**が自動的に生成されます。

4. **ターゲットの位置** フィールドの**一覧**をクリックして、ベースラインの保存先となるからのディレクトリに移動します。SUM では、空ではないディレクトリは使用できません。
5. カスタムのベースラインを使用してブート可能な ISO を作成する場合は、**ブート可能な ISO ファイルの作成**を選択します。

カスタムのブート可能 ISO を作成するには、ローカルディレクトリにブート可能な SPP または SUM ISO が抽出されている必要があります。

解凍したソース ISO の位置フィールドで、**一覧**をクリックして、SUM が解凍済みのブート可能 ISO を検出できるルートディレクトリを選択します。たとえば、次のファイルを作成します。

C:\¥SUM¥Baselines¥spp_gen9_snap1¥

注記：

1つのディレクトリに保存するブート可能 ISO は1つだけにしてください。

6. **HP SUM ソースの位置**を選択で、次のいずれかを選択します。

現在の作業ディレクトリ

現在使用している SUM のバージョンをコピーします。

カスタムディレクトリ

別のディレクトリから SUM のバージョンをコピーします。

含めないでください

SUM のコピーをベースラインに含めません。

HP SUM パスフィールドで、ディレクトリのパスを入力するか、一覧をクリックして、使用する SUM のバージョンを含むディレクトリを選択します。

注記：

ブート可能な ISO を選択した場合、**含めないでください**は解凍したソース ISO の位置と置き換えられ、SUM の ISO の位置が表示されます。

7. ベースラインソースセクションで、カスタムベースラインに追加するコンポーネントを含むベースラインを選択します。

注記：

同じコンポーネントが複数のソースベースラインに含まれていると、SUM はそのコンポーネントを重複して一覧に表示します。複数のベースラインから同じコンポーネントを選択した場合、そのコンポーネントをベースラインとして追加する際に SUM はそのコンポーネントを重複して表示しますが、ベースラインに取り込まれるコンポーネントファイルのコピーは 1 つだけです。

8. フィルターセクションで、次の操作を行います。

- a. **CloudSystem Matrix バージョンの一致**で、カスタムベースラインを、CloudSystem Matrix のバージョンと一致させるかどうかを選択します。ローカルシステムに保存された MatrixConfig.xml ファイルを使用するには、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、**アドバンスドフィルター**が非アクティブになり、他のフィルターが無効になります。

CloudSystem Matrix バージョンの一致を選択した場合は、次の操作を行います。

- i.

カスタムベースラインをローカルシステム上のマトリックス定義 XML ファイルと比較するかどうかを選択します。最新のマトリックス定義は、<http://www.hpe.com/info/matrixcompatibility> からダウンロードできます。

SUM では、ベースラインの hpe.com 上のマトリックス定義 XML ファイルとの比較がサポートされなくなりました。

II.

Matrix Definition ファイルのディレクトリを入力します。

- b. 目的のコンポーネントのタイプを選択し、ファームウェア、ソフトウェア、またはファームウェアおよびソフトウェアを選択します。

注記：

ファームウェアまたはソフトウェアのアップデートのみでのベースラインを作成する場合、これらのオプションのいずれかを選択します。ファームウェアまたはソフトウェアのアップデートのみでベースラインを使用すると、ノードのファームウェアまたはソフトウェアのみが自動的に更新されます。

- c. ベースラインに含める、アップデートの種類を選択します。

**クリティカル
アップデート** ただちに展開する必要があるアップデート。

**推奨されるア
ップデート** できるだけ早く展開することが推奨されるアップデート。

**オプションア
ップデート** 本バージョンへのアップデート。システムがドキュメントに示されている問題修正の影響を受ける場合や、このバージョンが提供する拡張機能を利用する場合に選択します。

アドバンスド フィルター

ベースラインに適用する場合は、このフィルターを選択します。

フィルターカテゴリ	オプション
アーキテクチャー	ベースラインに含めるシステムアーキテクチャーを選択します。
オペレーティングシステム	ベースラインに含めるオペレーティングシステムを選択します。オプションのリストは、ソースベースラインで提供されます。カスタムベースラインでサポートするのは、SPP ベースラインソースからのベースラインの作成だけです。ブート可能 ISO を作成するには、すべての Linux オペレーティングシステムを選択して、展開できるすべてのドライバーを含めます。
サーバーモデル	ベースラインに含めるサーバーデバイコンポーネントを選択します。オプションのリストは、ソースベースラインで提供されます。

注記：

SUM は、SPP ソースベースラインでサポートされているノードタイプでベースラインの作成をサポートします。

9. **フィルターを適用**をクリックします。使用可能なアップデートのリストが表示されます。
10. ベースラインに含める個々のコンポーネントアップデートを選択します。リスト内の特定のアップデートを検索するには、検索機能を使用します。

11.

Create ISO and save Baseline または **ベースラインの保存** をクリックして、ベースラインを作成します。ユーザーがさらに別のカスタムベースラインを作成する場合にも対応できるように、**Create ISO and save Baseline** または **ベースラインの保存** をクリックしても、カスタムベースラインの作成画面は閉じません。

注記：

アプリケーション xorriso (UEFI) または mkisofs (レガシ/BIOS) を Linux ホストにインストールして、ブート可能なカスタム ISO を作成します。

12.

閉じる をクリックしてカスタムベースラインの作成画面を閉じます。

SUM は、カスタムのベースラインコンポーネントの詳細情報を XML ファイルで保存します。SUM はこの XML ファイルを読み取り、ディレクトリ内のコンテンツのリストと比較します。

ベースラインレポートの生成

手順

1.

ベースラインライブラリ画面から、インベントリレポートを生成できます。これは、ノード画面で生成できるものと同じインベントリレポートです。インベントリレポートの生成について詳しくは、「[ノードレポートの生成](#)」を参照してください。

ベースラインの検証

SUM は、次のソースに対してベースラインを検証できます。

•

バンドルファイル - バンドル、たとえば SPP に対して検証を実行することができます。Web から SPP を取得した後や、システム間でバンドルをコピーした後で、この機能を使用できます。

SPP または MSB が公開された後でも、コンポーネントが公開されていない場合、コンポーネントは Web から取り出されません。SUM は、バンドルを検証するときに、不足しているコンポーネントがあることを示すメッセージを表示します。Hewlett Packard Enterprise Web サイトでコンポーネントを調べて、ダウンロード可能かどうかを確認できます。

•
CloudSystem Matrix ファイル - カスタムベースラインが CloudSystem Matrix のダウンロードされたバージョンと一致することを確認することができます。詳しくは、<http://www.hpe.com/info/matrixcompatibility> を参照してください。

SUM は、hpe.com での CloudSystem Matrix ファイルに対するベースラインの検証をサポートしなくなりました。

ベースラインが CloudSystem Matrix 構成ファイルと一致することが確認された後で、ベースラインを使用してノードのインベントリを実行し、ノードが構成と一致することを確認できます。ノードのインベントリにより、ベースラインがインストール済みバージョンと正確に一致するかどうか、またはノードを更新して CloudSystem Matrix の構成と一致させる必要があるかどうか報告されます。インベントリでは、インストールされているコンポーネントが HPE Helion CloudSystem 構成ファイルよりも新しいバージョンかどうか報告されます。

注記：

SUM は、hpe.com での CloudSystem Matrix ファイルに対するベースラインの検証をサポートしなくなりました。

手順

1. ベースラインライブラリ画面でベースラインを選択して、**アクション > 検証**の順に選択します。

ベースラインとベースラインバンドルファイルの場所が表示されます。
2. ご使用のローカルシステム上で、検証のタイプ、**バンドルファイルの検証**、または **CloudSystem Matrix バージョンの検証**を選択します。
 - a. **Matrix 定義 XML ファイル**で**最新の MatrixConfig.xml**（ローカル）を選択します。
 - b. Matrix XML ファイルへのパスを入力するか選択します。

ベースラインの削除

ベースラインを削除する前に、選択したベースラインを使用している各ノードに別のベースラインを割り当ててください。ベースライン画面に、各ベースラインを使用しているノードの数が示されます。ハイパーリンクをクリックして、ベースラインを使用しているノードを表示してください。

手順

1. ベースライン画面で、ベースラインを選択します。
2. **アクション > 削除**の順に選択します。

注記：

削除するベースラインが1つ以上のノードに関連付けられている場合、SUMはノードのリストを表示します。ノードを編集して関連付けられているベースラインを変更するか、またはノードを削除します。詳しくは、「[ノードの編集](#)」または「[ノードの削除](#)」を参照してください。

3. ベースラインの削除を確認します。

ベースライン追加またはインベントリのキャンセル

手順

1. SUMでは、ベースラインの追加またはインベントリをキャンセルできません。手順が終了するまで待つから、ベースラインを削除します。

コンポーネント構成

一部のコンポーネントでは、必須またはオプションの構成を行います。構成パラメーターには、コンポーネントを正しく構成するために必要な情報や、コンポーネントでソフトウェアをインストールするために必要なパスワードも含まれます。ベースラインライブラリ画面で、コンポーネントオプション、インポートオプション、およびエクスポートオプションを変更します。

入力ファイルを使用する場合も、コンポーネントの構成を行えます。入力ファイルについて詳しくは、*Smart Update Manager CLI ガイド*を参照してください。構成ディレクトリをベースラインにコピーし、そのベースラインをSUMセッションに追加すると、SUMはインベントリプロセス時にその構成設定をインポートします。

以下の場合にコンポーネント設定を再構成する必要があります。

- `clean-cache` ユーティリティを実行した。

•
コンポーネントをローカルホストで構成し、SUM で設定した後にその構成をベースラインディレクトリにエクスポートしない場合は、コンポーネントファイルをリモートサーバーにコピーします。

コンポーネントの構成

SUM 7.x では、SPP 2013.09.0(B)より前にリリースされたコンポーネントの構成をサポートしていません。これらのコンポーネントを更新するには、SUM 5.3.5 を使用してください。

手順

1. ベースラインライブラリ画面で、使用するベースラインを選択し、**修正**を選択し、構成設定を提供するコンポーネントが上部にフィルターされるまで**構成の状態**を選択します。
2. 構成する各コンポーネントに対して**構成可能**または**構成済み**を選択します。

注記：

構成済みが表示されるコンポーネントでは、デフォルト構成設定が変更されています。

3. 構成設定を入力し、**Save in SUM** をクリックして、現在の SUM データベースにコンポーネント設定を保存します。

構成する各コンポーネントについて、これらの手順を繰り返します。

注記：

構成オプションはコンポーネントによって異なります。

構成済みコンポーネントのエクスポート

SUM 7.2.x 以降では、コンポーネントを構成して、選択した場所にコンポーネントの構成をエクスポートできます。エクスポート後、これらの構成設定を別の SUM セッションにインポートできます。また、コンポーネントを SUM の外部に展開する場合やリモートノード上の SUM を使用して展開する際に、エクスポートされたこれらの構成パラメーターを使用してコンポーネントを構成することもできます。これにより、コンポーネントを 1 回構成するだけで、その構成を再利用できるようになります。

エクスポートされた構成ファイルまたはスクリプトは、〈コンポーネントファイル名〉_conf という名前のディレクトリに保存されます。ディレクトリには、構成ファイルまたはスクリプト、ならびに SUM の外部で構成を使用してコンポーネントを展開する方法に関する手順を含む README ファイルが含まれています。SUM は、構成ファイルまたはスクリプトをコンポーネントとは別の位置に保存して、コンポーネントのセキュリティ署名の破壊を防止します。

手順

1. ベースラインライブラリ画面で、使用するベースラインを選択し、**コンポーネント**をクリックし、構成設定を提供するコンポーネントが上部にフィルターされるまで**構成**または**構成済み**をクリックします。
2. 構成する各コンポーネントに対して**構成可能**を選択し、構成設定を入力します。

注記：

構成オプションはコンポーネントによって異なります。

3. **保存してエクスポート**をクリックし、コンポーネント構成を保存するディレクトリを選択します。構成ファイルにユーザー認証情報を含めるかどうかを選択します。SUM は、エクスポートされたコンポーネントに基づく名前のディレクトリを作成します この名前は、〈コンポーネント名〉_conf です。アクティビティ画面には、構成ファイルが保存されたアドレスが表示されます。
4. SUM には、スタンドアロンモードでコンポーネントを展開する方法に関する手順を提供する README ファイルが含まれています。

❗ 重要：

SUM は、ユーザー認証情報も含む構成設定を、コンポーネントが使用できるプレーンテキストファイル形式で保存します。

- 5.

Save (保存) をクリックします。構成データは、SUM のデータベースに保存され、適切なファイルに書き込まれます。

6. 構成する各コンポーネントについて、これらの手順を繰り返します。

コンポーネント構成設定のインポート

コンポーネントを SUM の別のセッション、または別のサーバーからコピーしたベースラインで構成した場合は、GUI にこれらの設定をインポートできます。

注記：

ベースラインと同じディレクトリにベースライン構成ディレクトリを保存した場合、SUM は、ベースラインライブラリにベースラインが追加されるときに自動的に構成設定をインポートします。

手順

1. ベースラインライブラリ画面で、使用するベースラインを選択し、**修正**を選択し、構成設定を提供するコンポーネントが上部にフィルターされるまで**構成**をクリックします。
2. コンポーネントのリストを下にスクロールし、各コンポーネント構成ファイルに対して**構成可能**を選択します。
3. **インポート**をクリックします。
4. 構成ファイルを保存したディレクトリを選択し、**開く**をクリックします。

❗ 重要：

SUM は、インポートされた構成データを自動で保存する際に、既存のコンポーネント構成を上書きします。

5. 構成する各コンポーネントについて、これらの手順を繰り返します。

SUM のノード画面

ノードとは、ハードウェア環境のコンポーネントです。ノード画面には、SUM に追加され、SUM が管理できるノードおよび関連ノードが表示されます。ノード画面には、以下の情報を含め、ノードに関する情報が表示されます。

- 全般
- 関連するデバイス
- 警告/アラート
- ストレージ
- NIC/FC-HBA/CNA
- エンクロージャー
- スイッチ
- パーティション
- カートリッジ
- Moonshot システム情報
- iLO 連携グループ情報

ノード名の下にある黄色のステータスバーには、ステータスや、次にノードで実行できるアクションの簡単な説明が表示されます。矢印をクリックするとすべての情報が展開されます。たとえば、ノードを追加した後に、ノードをインベントリするためのリンクがステータスバーに表示される場合があります。そうでない場合は、ノードをインベントリした後に、アップデートを確認し、展開するためのリンクがステータスバーに表示されます。

展開のタイプの画面には、ノードのメイン画面と同じ情報が表示されますが、OA や iLO などの特定のノードタイプでフィルター処理されています。

注記：

表示される詳細は、ノードタイプによって異なります。

ノードステータスについて

ノードを追加してアップデートを展開したら、SUM が以下のステータスをノードに割り当てます。

•

調査： SUM は、ノードアドレスとユーザー認証情報を確認します。

•

インベントリ前（Windows および Linux r リモートノードのみ）：SUM は、リモートノードでコマンドを実行し、オペレーティングシステムの詳細、取り付けられているハードウェア、インストールされている RPM（Linux ノード）を確認します。

•

インベントリ： SUM は、ノードから情報を収集して、どのアップデートが適用されているか、および依存関係の問題があるかどうかを確認します。リモートノードの場合、SUM は、自身のバージョンに加えて、適用可能性の確認に必要なベースラインコンポーネントをコピーします。

•

アップデートの展開/インストール： SUM は、ノードにアップデートを展開します。リモートノードの場合、展開に必要なすべてのコンポーネントがリモートノードにコピーされ、SUM がリモートノードで実行されます。

•

インストールの完了： SUM はアップデートを終了し、必要に応じてノードを再起動します。

LiveLog 情報を表示

SUM の LiveLog では、アクティブな展開のステータスを確認できます。SUM が複数のコンポーネントを展開している場合は、リストを検索して、特定のコンポーネントのステータスを表示します。展開が終了すると、SUM に **ログの参照** ボタンが表示されます。

手順

1. ノード画面でノードを選択し、**LiveLog** をクリックします。

ノードまたはその他の展開タイプの追加

始める前に

1. ノードの IP アドレスまたは DNS 名がある。
2. ノードのユーザーログイン認証情報がある。
3. ベースラインをノードに割り当てる計画の場合は、最初にベースラインを追加する。

SUM は、同じ機能を使用して、すべてのノードおよび展開タイプを追加します。

特定の IP アドレスを使用したり、IP アドレスの範囲を検索したりすることで、ノードを追加できます。

手順

1. IP または DNS 名を使用して 1 つのノードを追加する
2. アドレスの範囲を検索してノードを追加する
3. 入力ファイルによるノードの追加

IP または DNS 名を使用して 1 つのノードを追加する

手順

1. ノード画面で、**+ノードの追加**をクリックします。別の展開タイプ（たとえば、OA）を追加する場合、このボタンの名前は変わります。
2. **単一ノードあるいは既存の範囲のノードを追加**を選択します。
3. IP アドレス、DNS 名、IP アドレスの範囲、またはコンマで区切られた複数のアドレスを入力します。たとえば、「10.0.1.1-10.0.1.20」と入力すると、20 個のノードが追加されます。「10.0.1.1, 10.0.1.2, 10.0.1.7」と入力すると 3 つのノードが追加されます。同じログイン認証情報を使用している場合は正常にノードが追加されます。

注記：

VC ノードを追加する場合は、プライマリ Enet モジュールの IP アドレスを使用します。FC モジュールを含めて、インストールされているすべての VC モジュールが、プライマリ Enet モジュールを通して更新されます。

4. ノードの説明を入力します。
5. **追加するノードのタイプ**フィールドで、ノードタイプを選択します。ノードタイプがわからない場合は、**不明**を選択します。インベントリプロセスの実行中に SUM がノードタイプを決定します。展開のタイプ画面からノードを追加する場合、SUM は自動的にノードタイプを選択します。

一部のノードでは、SUM による自動検出と、関連するノードの追加が可能です。関連するノードについて詳しくは、「[関連するノードの展開動作](#)」を参照してください。

注記：

正しいノードタイプを選択すると、ノードのインベントリをより速く追加することができます。

ノードによっては、ノード固有の情報が必要です。各ノードで必要な情報について詳しくは、「[ノード固有の追加詳細情報](#)」を参照してください。

Moonshot ノードについて詳しくは、「[Moonshot ノードの概要](#)」を参照してください。

6. (オプション) このノードに適用するベースライン、追加パッケージ、またはその両方を選択します。
7. (オプション) ノードをグループに割り当てる場合は、リストからグループを選択します。
8. 次のいずれかを選択します。

- **現在の認証情報を使用（ノードとの既存の信頼関係が必要）**：このオプションは、Windows ノードのみを対象としています。
- **管理者の認証情報を入力**：ノードに対する管理者権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。Windows ユーザーの場合、管理者権限を持っていれば、domain¥username を使用できます。

9.

Linux および HP-UX ノードでは、ルート認証情報を使用してノードにログインせずに、sudo 認証情報を使用してアップデートを展開できます。sudo コマンドを使用するには、ノードに sudo 機能をインストールする必要があります。

注記：

すべてのノードでスーパーユーザーおよび sudo を使用できるわけではありません。

sudo を使用する場合は、**アクセスレベル**フィールドで以下のいずれかを選択します。

- sudo 認証情報を使用する場合は、**コンポーネントをアップデートするために sudo を使用**をクリックします。
- スーパーユーザーの認証情報を入力する場合は、**コンポーネントをアップデートするためにスーパーユーザーの認証情報を入力してください**をクリックします。

注記：

スーパーユーザーの認証情報を使用する場合は、**認証情報**フィールドに通常ユーザーの認証情報を入力してから、**アクセスレベル**フィールドにスーパーユーザーの認証情報を追加します。SUM は、まず通常ユーザーの認証情報でログインしてから、スーパーユーザーの認証情報でスーパーユーザーのアカウントにログインします。

10.

追加をクリックします。

ノードの追加セクションに、選択したノードが表示されます。

アドレスの範囲を検索してノードを追加する

手順

1. ノード画面で、**+ノードの追加**をクリックします。別の展開タイプ（たとえば、OA）を追加する場合、このボタンの名前は変わります。
2. **ネットワーク上のノードの検出**を選択します。
3. **ノードの検索**をクリックします。
4. **IP アドレス範囲**または**ポートアドレス**を選択します。

注記：

SUM は、0~65535 の範囲でポートを検索できます。

5. 検索する SUM の IP アドレスの範囲を入力し、デフォルトポートのいずれかを選択、または**他**を選択してポートを入力し、**検索**をクリックしします。

注記：

1つのサブネット/オクテット（つまり IPv4 アドレスの最後の 4 桁）のみが検索されます。

検出されたノードが**利用可能なノード**フィールドに表示されます。

6. **利用可能なノード**セクションから追加するノードを選択してから、**ノードの追加**をクリックします。
7. ベースラインを割り当てる場合は、**適用するベースライン**フィールドで**ベースライン**、**追加のパッケージ**を選択します。
8. **認証情報**セクションで、**現在の認証情報**を使用（ノードと既存の信頼関係が必要）、**管理者の認証情報**を入力、または**SSH キー認証情報**を入力（すべてのノードで選択できるわけではありません）を選択します。
9. 管理者認証情報の入力を選択する場合は、**ユーザー名とパスワード**を入力します。
- 10.

追加をクリックします。

11. ノードの追加セクションに、選択したノードが表示されます。
12. キャンセルをクリックして、ノード画面に戻ります。

入力ファイルによるノードの追加

CLI で入力ファイルスクリプトを使用して多くのノードを追加し、追加したノードを GUI で展開できます。

手順

1. ノードの詳細を記述した入力ファイルを作成します。たとえば、次のファイルを作成します。

```
#Input file sample  
SILENT = YES  
SOURCEPATH = C:\SPP
```

```
[TARGETS_USER_1]  
HOST = 192.168.1.1  
HOST = 192.168.1.3  
HOST = 192.168.1.2  
UID = user1  
PWD = user_password1  
[END]
```

```
[TARGETS_USER_2]  
HOST = 192.168.1.4  
HOST = 192.168.1.5  
HOST = 192.168.1.6  
UID = user2  
PWD = user_password2  
[END]
```

2. ターミナルウィンドウを開き、SUM が位置するディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
hpsum /inputfile <path:¥inputfile.txt> (Windows)
```

```
./hpsum --inputfile <path:/inputfile.txt> (Linux)
```

- 3.

GUI を起動し、ノードを管理します。ノードが追加されていない場合は、入力ファイルに問題がないことを確認します。

詳しくは、<http://www.hpe.com/support/SUM-CLI-ja> を参照してください。

関連するノードの展開動作

SUM がどのノードを自動的に追加できるかと、SUM がどのような順番でノードを展開するかを以下に示します。

Onboard Administrator

関連するノードのタイプ :

- iLO
- Integrity iLO
- Virtual Connect
- SAS スイッチ

展開の動作 :

- 最初に OA を、次にその他のノードを展開します。

Virtual Connect

関連するノードのタイプ :

- Onboard Administrator

展開の動作 :

- 最初に VC を、次に OA を展開します。

FC スイッチ

関連するノードのタイプ :

- パートナー FC スイッチ

展開の動作 :

- 最初に選択されたスイッチに、次に関連するスイッチに展開します。

6Gb SAS BL スイッチ

関連するノードのタイプ :

- Onboard Administrator

展開の動作 :

- 最初に選択されたスイッチに、次に OA に展開します。

iLO

関連するノードのタイプ :

- Onboard Administrator
- サーバー

展開の動作 :

- 最初に iLO に、次に OA およびサーバーに展開します。

Integrity iLO

関連するノードのタイプ :

- なし

Integrity マルチブレード統合サーバー	関連するノードのタイプ： ・ なし
サーバー	関連するノードのタイプ： ・ なし
Moonshot	関連するノードのタイプ： ・ なし
Superdome 2/X	関連するノードのタイプ： ・ なし

注記：

IPv4 と IPv6 が混在する環境を実行している場合、SUM は以下の問題を示す可能性があります。

- ・ 関連するノードとともに IPv6 iLO を追加する場合、関連するノードが IPv4 のみで構成されていると、SUM は IPv6 ノードを表示します。
 - ・ SUM は、SAS および FC スイッチについては IPv6 をサポートしません。
-

ノード固有の追加詳細情報

一部のノードには、ノードの追加の際に必要なノード固有の情報があります。

Windows 追加詳細情報：

SUM がノード上でアップデート処理を検出した場合に、実行する操作を入力します。

- ・ アップデートの実行中のままにして、ノードをバイパスする
- ・ ノード上で現在実行しているアップデート処理を停止し、このセッションからのアップデートに置き換える

Linux 追加詳細情報：

・

Linux ノードでは、SSH キーの認証情報を使用できます。**ユーザー名、プライベートキーファイルの位置、およびパスワード**（必要な場合）を入力します。プライベートキーファイルでは、PEM 形式を使用する必要があります。

・

SUM がノードでアップデート処理を検出した場合に、実行する操作を入力します。

- アップデートの実行中のままにして、ノードをバイパスする
- ノード上で現在実行しているアップデート処理を停止し、このセッションからのアップデートに置き換える

•

このノードのアクセスレベルを選択します。

◦

なし

◦

以前に入力した認証情報で、sudo を使用する

◦

スーパーユーザーの認証情報を入力する

HP-UX

追加詳細情報：

•

HP-UX ノードでは、SSH キーの認証情報を使用できます。ユーザー名、プライベートキーファイルの位置、およびパスワード（必要な場合）を入力します。プライベートキーファイルでは、PEM 形式を使用する必要があります。

•

SUM がノードでアップデート処理を検出した場合に、実行する操作を入力します。

- アップデートの実行中のままにして、ノードをバイパスする
- ノード上で現在実行しているアップデート処理を停止し、このセッションからのアップデートに置き換える

•

このノードのアクセスレベルを選択します。

◦

なし

◦

以前に入力した認証情報で、sudo を使用する

。

スーパーユーザーの認証情報を入力する

VMware ホスト 追加詳細情報 :

vCenter の VMware ホストで、管理者の認証情報を使用するか、認証チケットをオープンするかを選択します。チケットを使用すると、ロックダウンモードのステータスに関係なくノードをアップデートできます。

チケットを入手するために vCenter の詳細を入力してください（ホストへの認証情報）を選択する場合、ホストの IP/DNS、ユーザー名、およびパスワードを入力します。

注記 :

SUM は、DRS または HA が有効になっている場合に VMware ノードを自動的に移行しません。VMware ノードの移行について詳しくは、<http://www.hpe.com/info/ovvcenter/docs> で、HPE OneView for VMware vCenter のドキュメントを参照してください。

Onboard Administrator 追加詳細情報 :

。

関連付けられたノードを自動的に追加するかどうかを選択します。自動追加を選択すると、シャーシ内のすべてのノードが追加されます。

。

OA と iLO を同時に更新している場合は、OA ノードにこれを選択して、関連 iLO ノードを検出可能にしてください。更新を OA に展開するとき、SUM は適切な展開順序を判断できるようになります。

。

認証情報を指定しない場合、SUM は OA 用に指定された認証情報を関連 VC に使用します。

注記：

OA が FIPS モードである場合、SUM は、ファームウェアのダウングレードや再書き込みをサポートしません。メッセージが表示され、ダウングレードと再書き込みのオプションがオフになります。

**Superdome 2/X
Onboard
Administrator**

追加詳細情報：

ノード固有の設定はありません。

**SAS B/L インター
コネクトスイ
ッチ**

追加詳細情報：

関連付けられたノードを自動的に追加するかどうかを選択します。関連するノードについて詳しくは、[関連するノードの展開動作](#)（81 ページ）を参照してください。

**ファイバーチャ
ネルスイッチ**

追加詳細情報：

関連付けられたノードを自動的に追加するかどうかを選択します。関連するノードについて詳しくは、[関連するノードの展開動作](#)（81 ページ）を参照してください。

iLO

追加詳細情報：

関連付けられたノードを自動的に追加するかどうかを選択します。関連するノードについて詳しくは、[関連するノードの展開動作](#)（81 ページ）を参照してください。

❗ 重要：

iLO 連携グループの一部として使用する場合は、iLO をノードとして追加しないでください。

Moonshot

追加詳細情報：

•

iLO Chassis Management の管理者認証情報：ユーザー名とパスワード。

- スイッチの認証情報：ユーザー名、パスワード、パスワードの有効化。(スイッチを更新している場合のみ必須)
- スイッチ B が同じ認証情報を使用する場合は、両方のスイッチ上の認証情報は同じを選択します。そうでない場合は、この選択をクリアし、スイッチ B の認証情報を入力します。

Virtual Connect 追加詳細情報：

VC のアクティベーション順など、一部の VC オプションは、ノードの編集またはレビュー/展開画面から設定できます。

注記：

SUM は、HPE OneView によって管理されている Virtual Connect ノードにアップデートを展開することはできません。

- 関連付けられたノードを自動的に追加するかどうかを選択します。関連するノードについては詳しくは、「[関連するノードの展開動作](#) (81 ページ)」を参照してください。
- 関連付けられている Onboard Administrator の認証情報の追加
 - **上記の認証情報を使用**
：以前に入力した認証情報を使用します。
 - **管理者の認証情報を入力**
：認証情報がここまでの手順で入力したものと異なる場合、その認証情報を入力します。

ノードの編集

ノードは、ノード画面の編集オプションを使用して変更されます。ノードを編集する前に、ノードのインベントリや展開などの機能がすべて完了していることを確認してください。編集できるオプションはノードによって異なります。ノード固有のオプションについては、「[ノード固有の追加詳細情報](#)」を参照してください。

注記：

SUM は、同じ機能を使用して、すべてのノードタイプを編集します。

手順

1. ノード画面で、ノードをハイライトして**アクション > 編集** の順に選択します。
2. 以下では、編集可能なフィールドの一部を示します。
 - a. 説明
 - b. タイプ
 - c. 選択したベースラインと追加のパッケージ。
 - d. 認証情報
 - e. 再起動オプション – システムの再起動、再起動遅延、再起動メッセージ
 - f. インストールオプション – ソフトウェア、ハードウェア、またはその両方のバージョンのアップグレード、ダウングレードまたは再書き込み。
3. **OK** をクリックして変更を確定し、ノード画面に戻ります。

ノードのアップデートの中止

SUM によるノードへのアップデートの展開中にアップデートを取り消すには、以下の手順に従ってください。

手順

1. ノード画面で、ノードをハイライトして、**アクション > 中止** の順に選択します。

注記：

SUM がすでにアップデートの実行を開始している場合、SUM は展開中のコンポーネントアップデートを完了してから、残りのコンポーネントのアップデートを中止します。

ノードのインベントリの実行

ノードインベントリは、ノードに関する情報、そのノードにインストールされているファームウェア、ソフトウェア、ドライバーのバージョンに関する情報を収集します。SUM は、自動検出コンポーネントの依存関係が見つからない場合はこれを検出します。

注記：

SUM は、すべてのノードタイプに対して、同じインベントリ機能を使用します。

SUM は、新しい各セッションの実行中に、ノードのインベントリを実行して、ノード上のファームウェアやソフトウェアを確認する必要があります。

認証情報が無効な場合、SUM はノードのインベントリを実行できません。ノードの認証情報が無効な場合は、認証情報を編集してください。

注記：

OA ノードでインベントリを実行する場合、ノードの追加画面でチェックボックスを選択していれば、SUM が関連ノードを自動的に追加してインベントリを実行します。VC の認証情報は別々に追加します。ここでブレード iLO または VC のインベントリを実行しても、SUM はインベントリ処理が終了するまで関連 OA を検索しません。OA に認証情報を追加してから、OA ノードのインベントリを実行してください。関連するノードについて詳しくは、「[関連するノードの展開動作](#)」を参照してください。

手順

1. ノード画面で、ノードをハイライトし、**アクション > インベントリ**の順に選択します。

注記：

ノードにベースラインが割り当てられている場合、インベントリプロセスがすぐに開始されます。以下の手順は、ベースラインをノードに割り当てる場合にのみ必要です。

2. ノードに関連するベースラインが表示されます。インベントリに使用されるベースラインを再割り当てする場合は、ベースラインか追加のパッケージ、またはその両方を選択します。
3. インベントリをクリックします。SUM は、アップデートを展開する前に解決する必要があるエラーを表示します。

ノードの展開

展開画面を開くと、Easy 展開モードが開かれ、ノードに関する以下の情報が示されます。

- ノードタイプ
- ノードアドレス
- インストールおよび再起動オプション
- アドバンストモードの選択ボタン
- 推定展開時間
- ベースラインとその他のパッケージ
- ベースラインサイズ
- 展開できるコンポーネントの数
- ノードのベースラインの準拠

- インストールオプション

- 警告パネル

❗ **重要：**

仮想マシンで SUM を実行している場合は、ローカルホストにアップデートを展開しないで、リモートノードにのみアップデートを展開してください。

Easy およびアドバンス展開モードは、一部のノードタイプでは使用できません。その他のノードタイプを展開する手順については、「[その他のノードタイプの展開](#)」を参照してください。

注記：

コンポーネントの構成は、ベースラインライブラリ画面から行ってください。

手順

1. ノード画面で、アップデートするノードを選択して**アクション > レビュー/展開**の順に選択します。

- Integrity Superdome 2/X ノードへのアップデートの展開については、「[その他のノードタイプの展開](#)」を参照してください。

- Integrity BL870c i4 および BL890c i4 サーバーのアップデートでは、展開機能で展開の対象になるのは現在のパーティションだけです。エンクロージャーを展開する場合は、「[Integrity BL870c i4 または BL890c i4 ノードでのすべてのパーティションの展開](#)」を参照してください。

- ローカルホストガイドアップデートの使用については、「[SUM のローカルホストガイドアップデート](#)」を参照してください。

2. 次のいずれかを実行します。

- a. Easy Mode での展開 **インストールオプション**を以下から選択します。

- **ダウングレードを有効**

- **書き換えを有効**

注記：

OA が FIPS モードである場合、SUM は、ファームウェアのダウングレードや再書き込みをサポートしません。メッセージが表示され、ダウングレードと再書き込みのオプションがオフになります。

- **依存エラーのあるコンポーネントをスキップ**

注記：

SUM では、Easy Mode でのファームウェアおよびソフトウェアの再書き込みやダウングレードはサポートしていません。再書き込みまたはダウングレードするには、アドバンストモードを使用します。

b. スライダーで**再起動遅延**を選択します。

c. 展開をクリックします。

注記：

関連するノードを展開するには、アドバンストモードを使用します。

a. アドバンストモードでの展開：より多くの展開オプションを表示するには、**その他のオプションについては、アドバンストモードを有効にします**をクリックし、**続行します**をクリックして、以下を実行します。

b. インストールオプションをクリックし、展開で使用するオプションを選択します。

ファームウェアおよびソフトウェアのアップグレード

ファームウェアコンポーネントおよびソフトウェアコンポーネントをアップグレードします。

ファームウェアのアップグレード

ファームウェアコンポーネントだけをアップグレードします。

ソフトウェアのアップグレード

ソフトウェアコンポーネントだけをアップグレードします。

ダウングレードと再書き込みの両方

ファームウェアコンポーネントおよびソフトウェアコンポーネントを、アップグレード、ダウングレード、および再書き込みします。

ファームウェアのダウングレードと再書き込み

ファームウェアコンポーネントだけを、アップグレード、ダウングレード、および再書き込みします。

ソフトウェアのダウングレードと再書き込み

ソフトウェアコンポーネントだけを、アップグレード、ダウングレード、および再書き込みします。

両方のダウングレード

ファームウェアコンポーネントおよびソフトウェアコンポーネントをアップグレードおよびダウングレードします。

ファームウェアのダウングレード

ファームウェアコンポーネントだけを、アップグレードおよびダウングレードします。

ソフトウェアのダウングレード

ソフトウェアコンポーネントだけを、アップグレードおよびダウングレードします。

両方の再書き込み

ファームウェアコンポーネントおよびソフトウェアコンポーネントを、アップグレードおよび再書き込みします。

ファームウェアの再書き込み

ファームウェアコンポーネントだけを、アップグレードおよび再書き込みします。

ソフトウェアの再書き込み

ソフトウェアコンポーネントだけを、アップグレードおよび再書き込みします。

- c. ベースラインライブラリフィールドで、アップデートの対象にする、利用可能な各コンポーネントを選択します。検索ボックスを使用してコンポーネントの検索する単語を入力します。アップデートについて詳しくは、バージョン番号をクリックします。SUMには、ノードに適用されるコンポーネントのみが表示されます。

強制をクリックすると、ダウングレードまたは再書き込みに使用できるコンポーネントをダウングレードまたは再書き込みできます。インストールオプションでダウングレード、再書き込み、またはその両方を選択している場合、強制ボタンは表示されません。

- d. SUMには、展開後に再起動をサポートするノードの再起動オプションが表示されます。再起動オプションをクリックして以下の手順を実行します。

- i. インストール後にシステムを再起動で、なし、必要な場合、または常時を選択します。

- II. **再起動遅延（分）**に、再起動を開始するまでノードに待機させる時間（分単位）を入力します。範囲は、1~60分です。
- III. テキストボックスには、ノードを再起動する前に表示する再起動メッセージを、255文字以内で入力します。

注記：

ノード内のすべてのアップデートを正常に展開できない場合、ノードは再起動されません。展開ログを確認し、問題を解決してからノードを再起動してください。

- e. 使用可能なアップデートのリストが表示されます。アップデートを選択したり、実行しないアップデートをクリアしたりできます。SUMでは、コンポーネントが無効と表示されている場合、コンポーネントを展開できません。同一コンポーネントの2つのバージョンが検出された場合は、次の仕様に一致するコンポーネントが表示されます。
 - SUMでは、Linuxノード用にRPMコンポーネントを表示し、SCEXEコンポーネントを非表示にします。
 - コンポーネントのオペレーティングシステムとノードのオペレーティングシステムが比較されます。オペレーティングシステム用の正しいコンポーネントバージョンが表示されます。たとえば、コンポーネントの32ビットバージョンと64ビットバージョンがベースラインに含まれる場合は、ノードのオペレーティングシステムが確認され、該当するバージョンのみが表示されます。
 - f. **関連付けられたノードの詳細**フィールドで、このノードと一緒にアップデートするノードを選択します。
3. **展開**をクリックします。SUMは、ユーザーが加えたすべての変更が有効であることを確認し、コンポーネントの展開を開始します。

注記：

展開を開始するには、依存関係のすべての問題を解決する必要があります。またはコンポーネントをクリアして、インストールされないようにします。

4. ノード画面の一般セクションで、ノードの**ログの参照**をクリックした後、インストールしたコンポーネントの**ログの参照**をクリックしてインストールの詳細を確認します。

注記：

展開のステータスを確認するには、ノードのページで Live Log ボタンをクリックします。

Integrity BL870c i4 または BL890c i4 ノードでのすべてのパーティションの展開

手順

1. Integrity BL870c i4 または BL890c i4 ノードパーティションのインベントリを作成します。
2. SUM はインベントリの実行を完了すると、関連するデバイスセクションに関連パーティションを表示します。

注記：

Onboard Administrator でインベントリの作成を開始します。作成が開始されると、SUM はすべてのパーティションのインベントリを自動的に作成し、

ドメインの展開

を表示します。

3. 黄色のステータスボックスの**ドメインの展開**をクリックします。
4. 次を選択します。
 - a. ベースラインセクションで、SUM で使用するベースラインを選択します。
 - b. インストール オプションセクションで、ダウングレードするのか、またはアップデートを再書き込みするのかを選択します。
 - c. **再起動オプション**
で、アップデート後に再起動するパーティションを選択します。
5. **レビュー/展開**をクリックします。
6. SUM は、Deploy Integrity iLO Domain 画面を閉じてドメインを更新します。

その他のノードタイプの展開

注記：

すべてのノードで Easy およびアドバンス展開モードがサポートされるわけではありません。

手順

1. インストールオプションを変更する場合は、インストールオプションをクリックして、以下の項目から選択します。
2.
 - a. オプションドロップダウンメニューでは、ノードのグローバルオプションを選択することができます。コンポーネントのアップグレードのほかに、ダウングレード、再書き込み、またはダウングレードと再書き込みを選択できます。選択について詳しくは、[でアドバンスモードの展開を参照してください](#)。
[ノードの展開](#) (89 ページ)
 - b. SUM で、標準ログファイルよりも詳細な情報を含む場合があるログファイルを作成したいかどうかを選択します。
3. **関連付けられたノードの詳細**フィールドで、このノードと一緒にアップデートするノードを選択します。
4. 関連するノードについて詳しくは、「[関連するノードの展開動作](#) (81 ページ)」を参照してください。
5. **ベースラインライブラリ**フィールドで、アップデートの対象にする、利用可能な各コンポーネントを選択します。検索ボックスを使用してコンポーネントの検索する単語を入力します。アップデートについて詳しくは、[バージョン番号をクリックします](#)。Linux ノードを展開する場合、SUM はそのノードに有効な RPM アップデートのみを表示します。

注記：

展開に使用できるコンポーネントのリストで、SUM が 1 つのコンポーネントを複数のデバイスに適用できる場合や、選択したノードのソフトウェアが複数含まれる場合は、

インストールされているバージョン

および

アクティブなバージョン

の列に

ViewDetails

が表示されます。

VMware VIB コンポーネントは、アップグレードとダウングレードのみをサポートしており、VMware VIB の再書き込みを行うことはできません。

VIB コンポーネントのすべての部分を強制的にインストールしたい場合は、すべてのコンポーネントを強制するノードに対して**ダウングレード**を選択できます。

6. **強制**をクリックすると、ダウングレードまたは再書き込みに使用できるコンポーネントをダウングレードまたは再書き込みできます。
7. **インストールオプション**で**ダウングレード**、**再書き込み**、または **Downgrade & Rewrite** を選択している場合、**強制**ボタンは表示されません。

注記：

OA が FIPS モードである場合、SUM は、ファームウェアのダウングレードや再書き込みをサポートしません。メッセージが表示され、ダウングレードと再書き込みのオプションがオフになります。

8. SUM が検出したすべての問題を表示するには、**警告/アラート**セクションを展開します。
9. SUM は、サーバーノードタイプを再起動できます。更新の展開後に SUM に再起動を開始させる場合は、**再起動オプション**をクリックして次の操作を行います。
 - a. **インストール後にシステムを再起動**で、**なし**、**必要な場合**、または**常時**を選択します。
 - b. **再起動遅延 (分)**に、再起動を開始するまでノードに待機させる時間 (分単位) を入力します。最小遅延は 1 分、最大遅延 60 分です。

- c. テキストボックスには、ノードを再起動する前に表示する再起動メッセージを、255 文字以内で入力します。

❗ **重要：**

コンポーネントによっては、再起動が不要な一部のコンポーネントが表示されます。構成や予期しない状況によっては、SUM が、アップデートをアクティブにするためには再起動が必要であることを検出する可能性があります。予期しないダウンタイムを防止するため、

インストール後にシステムを再起動

は

なしのままにしておきます。

注記：

ノード内のすべてのアップデートを正常に展開できない場合、ノードは再起動されません。展開ログを確認し、問題を解決してからノードを再起動してください。

10. 使用可能なアップデートのリストが表示されます。アップデートを選択したり、実行しないアップデートをクリアしたりできます。
11. **展開**をクリックします。SUM は、ユーザーが加えたすべての変更を検証し、コンポーネントの展開を開始します。

注記：

展開を開始するには、すべての依存関係の問題が解決されている必要があります。

- 12.

ノード画面の一般セクションで、ノードの**ログの参照**をクリックした後、インストールしたコンポーネントの**ログの参照**をクリックしてインストールの詳細を確認します。

ノードレポートの生成

ノードの詳細、インストール可能なコンポーネント、失敗した依存関係を含め、SUM セッションに関する詳細情報を表示するレポートを生成できます。

ノードのレポートは、HTML、XML、および CSV 形式で作成できます。レポート画面の**レポートセンター**には、以前に生成したレポートが表示されます。

注記：

SUM は、すべてのノードタイプに対して、同じ機能を使用レポートを生成します。

手順

1. ノード画面で、ノードを選択して、**アクション > レポート** の順に選択します。
2. 生成するレポートを選択します。
 - a. **ファームウェア詳細**
 - ノードに現在インストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。
 - b. **展開プレビュー**
 - ノードにインストールできるコンポーネントが表示されます。
 - c. **失敗した依存関係の詳細**
 - ノードでの失敗した依存関係が表示されます。
 - d. **展開詳細**
 - ノードにインストールした内容の詳細が表示されます。

e. インベントリ

– ベースラインにどのコンポーネントが含まれているかについて、詳細が表示されます。

f. 統合レポート

– 各レポートタイプのうちの1つが生成されます。

注記：

レポートを選択できない場合は、レポートを生成する情報が十分でないことが考えられます。

3. SUM で生成するレポートの形式 (**HTML**、**CSV**、または **XML**) をクリックします。
4. **高度なレポートオプション**では、次のことを行うことができます。
 - a. レポートを保存するディレクトリを選択します。ディレクトリが存在しない場合は、SUM が作成しません。
 - b. レポートをバックグラウンドで実行するかどうかを選択します。
5. **生成**をクリックします。

ノードの削除

手順

1. ノード画面で、ノードをハイライトして**アクション > 削除**の順に選択します。
2. はい、**削除します**をクリックして、そのノードの削除を確認します。

サーバーの概要

ノードを選択すると、概要画面に、そのノードのインベントリと展開の進行状況バーとノードに関する情報が表示されます。たとえば、HPE Synergy フレームリンクモジュールについてはアップデートは展開されません。

SUM が表示する情報は、ノードのタイプによって異なります。情報には次のものが含まれます。

- ノードタイプ
- ノードアドレス
- NIC 情報
- FC HBA 情報
- ベースラインと追加パッケージ
- 警告/アラート

SUM は、インベントリと展開の処理中に現在のタスクの進捗状況バーを表示します。

注記：

Integrity ノードを追加した場合について詳しくは「[Integrity ノードの概要](#)（101 ページ）」を参照してください。

Integrity ノードの概要

Integrity ノードを追加すると、インベントリとノードの追加が完了した後で、概要画面が自動的に表示されます。以下の情報が表示されます。

- モデル
- 関連付けられている OA（ノードがブレードの場合）
- コンプレックスファームウェアのバージョン
- 位置
- 製品番号
- シリアル番号
- デバイスのリスト

Moonshot ノードの概要

SUM では、Moonshot ノードについて、次の情報が表示されます。

- 説明
- シャーシ名
- 製品名
- インストールされているバージョン
- ベースライン
- シリアル番号
- 製品 ID
- UUID

- スイッチ情報
- カートリッジ情報

注記：

Moonshot ノードに更新を初めて展開するとき、インストール済みのバージョンまたはアクティブなバージョンは表示されません。更新を展開し、次回 SUM を使用して更新を展開するとき、インストール済みのバージョンとアクティブなバージョンが表示されます。

前提条件

- スイッチがスタッキングモードではないこと。
- Comwolff スイッチを更新するには、iLO Chassis Management 1.5.0 以降が必要。

以下の操作は、概要画面から実行できます。

- **追加：**詳細は、「ノードまたはその他の展開タイプの追加 (76 ページ)」を参照してください。
- **編集：**詳細は、「ノードの編集 (87 ページ)」を参照してください。
- **レポート：**詳細は、「ノードレポートの生成 (98 ページ)」を参照してください。
- **展開：**詳細は、「ノードの展開 (89 ページ)」を参照してください。

注記：

SUM は、Moonshot ノードの再起動オプションをサポートしていません。

ノードグループ画面について

ノードグループ画面では、ノードを組み合わせて、個別にはなくグループでタスクを実行できます。ベースラインを割り当てたり、認証情報を入力したり、インベントリを実行したり、アップデートを確認してこの設定を共有するグループ内のすべてのノードに展開したりできます。ベースラインなど、グループ画面で割り当てる設定は、SUM にノードを追加したときにノードに適用した内容を上書きします。

注記：

ノードグループに設定を入力しない場合、SUM はノードの情報を使用します。たとえば、ノードグループの認証情報を空白のままにすると、ノード画面で入力した認証情報が使用されます。

ノードグループの追加

手順

1. グループ画面で、**ノードグループの作成**をクリックします。

名前	タイプ	ステータス	ベースライン	追加パッケージ
localhost	WINDOWS	ノードは、すでにベースラインで利用可能なバージョンより新しいバージョンのコンポーネントが1つ以上インストールされています。	HP Service Pack for ProLiant at D:/hpwpackages	追加パッケージなし

2. ノードグループ名を入力します。
3. ノードグループの説明を入力します。
4. ノードグループにノードを追加セクションで、グループに追加するノードを選択します。
5. すべてのノードで同じベースラインを使用する場合は、ベースラインセクションで、グループのベースラインと追加のパッケージ（オプション）を選択します。

注記：

ここで選択したベースラインや追加パッケージは、ノード画面で選択したベースラインや追加パッケージより優先されます。

6. 追加をクリックします。

注記： ノードグループからノードを削除するには、ノードの行の右側にある **X** をクリックします。

ノードグループの編集

手順

1. リストからノードグループを選択します。
2. **Actions > Edit** の順に選択します。
3. 変更する場合は、新しいノードグループ名を入力します。
4. 変更する場合は、新しいノードグループの説明を入力します。
5. ノードグループにノードを追加セクションで、グループに追加するノードを選択します。
6. ノードグループからノードを削除セクションで、ノードグループから削除するノードを選択します。
7. ノードグループ内のすべてのノードのベースラインと追加パッケージを変更する場合は、それらのベースラインと追加パッケージを選択します。
8. ユーザー認証情報を変更する場合は、新しいユーザー認証情報を入力します。
9. **OK** をクリックします。

ノードグループのインベントリの実行

手順

1. リストからノードグループを選択します。
2. **アクション > インベントリ** の順に選択します。
3. SUM は、ベースラインがノードグループに割り当てられている場合にインベントリを開始します。開始しない場合は、ベースラインを割り当てます。
4. インベントリをクリックします。

ノードグループの展開

手順

1. リストからノードグループを選択します。
2. **アクション > レビュー/展開** の順に選択します。
3. 展開するインストールオプションを選択します。
4. より詳細なログファイルが必要な場合は、**コンポーネント検証ログ** を選択します。
5. **再起動オプション** を選択します。
6. SUM が警告やアラートを表示する場合は、確認して修正します。SUM は、**警告を無視** を指定しない限り、グループへアップデートを展開しません。
7. **ベースラインライブラリセクション** で、展開するコンポーネントを選択します。
8. **展開** をクリックします。
9. 変更を加えた場合、SUM は依存関係のエラーがないことを確認してから、コンポーネントを展開します。SUM は、失敗した依存関係が解決されるまで展開を開始しません。依存関係を解決するか、コンポーネントをクリアします。

ノードグループレポートの生成

手順

- 1.
1. リストからノードグループを選択します。
2. **アクション** > **レポート**の順に選択します。
3. 生成するレポート、および SUM がレポートを保存する場所を選択します。
4. ノードグループとノードについて同じレポートが生成されます。レポートについて詳しくは、「[ノードレポートの生成](#) (98 ページ)」を参照してください。

ノードグループのアップデートの中止

手順

1. リストからノードグループを選択します。
2. **アクション** > **中止**の順に選択します。

ノードグループの削除

手順

1. リストからノードグループを選択します。
2. **アクション** > **削除**の順に選択します。
3. ノードグループを削除することを確認します。

高度なトピック

- IPv6 ネットワークでの SUM の使用について

- 使用される SUM のネットワークポート

IPv6 ネットワークでの SUM の使用について

Windows および Linux ノードサーバー用の IPv6 ベースネットワーク内のリモートノードに展開できます。

Windows ベースのサーバーがリモートノードサーバーと通信するために、SUM は、既存の認証情報またはユーザーが入力するユーザー名とパスワードを使用して、admin\$共有に接続します。この共有は、Windows Server が自動で設定する共有です。SUM は、admin\$共有に接続すると、インストールの実行中に使用するエンジンのバージョンをノードサーバーにコピーします。このエンジンが起動すると、SUM はこのエンジンを使用してローカルサーバーとリモートノードサーバーとの通信を行います。

SUM が通信に必要なファイアウォールポートを開きます。使用されるポートについて詳しくは、「使用される SUM のネットワークポート (106 ページ)」を参照してください。インストールが完了するかまたは取り消されると、SUM はリモートエンジンを停止し、ノードからエンジンを削除し、Windows ファイアウォール上のポートを閉じてから、ノードとローカルシステム間の共有を解除します。

Linux ベースのサーバーがリモートノードサーバーと通信するために、SUM は、ユーザーが入力するユーザー名とパスワードを使用して起動し、ノードサーバーへの SSH 接続を確立します。SUM は、接続後、インストールの実行中だけに使用するエンジンをノードサーバーにコピーします。このエンジンが起動すると、SUM はこのエンジンを使用してローカルサーバーとリモートノードサーバーとの通信を行います。

このプロセスの実行中、SUM は iptables のファイアウォールでポートを開きます。これにより、SUM は、SSL 経由で SUM エンジンと通信してローカルシステムとリモートシステムとの間でデータをやりとりできるようになります。使用されるポートについて詳しくは、「使用される SUM のネットワークポート (106 ページ)」を参照してください。インストールが完了するかまたは取り消されると、SUM はリモートエンジンを停止し、ターゲットサーバーからエンジンを削除し、iptables ファイアウォールのポートを閉じてから、ノードサーバーへの SSH 接続を終了します。

IPv6 ネットワークを設定するには、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

使用される SUM のネットワークポート

このモジュールは、SUM に必要なポートを説明します。

SUM では、特定のネットワークポートが使用可能である必要があります。ネットワークポートをロックダウンする場合は、ネットワークポートテーブルにリストされているポートが開いていて SUM がリモートのノードサーバーやホストに接続する際に正しく機能するかどうかを確認してください。これらのネットワークポートのロックを解除できない場合は、SUM をローカルで実行し、ネットワークベースのホストをその Web インターフェイス経由でアップデートする必要があります (OA、iLO、VC モジュールなど)。

注記：

SUM で、必要なファイアウォールポートをローカルホストおよびリモートサーバーで自動的に開くには、open_firewall パラメーターを使用します。

ほとんどのノードタイプのアップデートには、SUM を実行するサーバーとノード間の双方向のネットワークトラフィックが必要です。SUM を実行するサーバーはローカル HTTP サーバーを作成します。このサーバーはファームウェアバイナリをノードに提供したりノードのステータスを通知したりするために使用されます。リモートノードは HTTP 要求を発行し、アップデートプロセスの実行中に、SUM を実行しているサーバーにステータスの更新をポストします。ルーティングの問題が発生する場合、またはリモートノードから SUM を実行しているシステムに戻るトラフィックをファイアウォールがブロックする場合は、ファームウェアのアップデートのブロック、ステータス更新のブロックまたは遅延、あるいはその両方が発生している可能性があります。

SUM トラフィックは、初期通信の作成によって使用できるポートのいずれかにバインドされた後、専用の大きいポート番号（1024 より大きい番号）に移すことができます。こうすることで、最初のポートを解放して新しい要求で使用できます。

SUM を実行中のシステム	ターゲットのノードタイプ	インベントリフェーズ			展開フェーズ		
		ターゲットへ	ターゲットから (SUM 7.2.1 以前)	ターゲットから (SUM 7.3.0 以降)	ターゲットへ	ターゲットから (SUM 7.2.1 以前)	ターゲットから (SUM 7.3.0 以降)
Windows	Windows	445、135、137、138、139	63001、63002	なし	445、135、137、138、139	63001、63002	なし
Windows または Linux	Linux	22	63001、63002	なし	22	63001、63002	なし

表は続く

SUM を実行中のシステム	ターゲットのノードタイプ	インベントリフェーズ			展開フェーズ		
		22、63002	63001、63002	63001、63002	22	63001、63002	63001、63002
Windows または Linux	HP-UX	22、63002	63001、63002	63001、63002	22	63001、63002	63001、63002
Windows または Linux	VMware	443、5989	63001、63002	63001、63002	443、5989	63001、63002	63001、63002
Windows または Linux	OA	22、(80)、443	なし	なし	22、(80)、443	なし	なし
Windows または Linux	iLO、VC、FC スイッチ、SAS スイッチ、Moonshot、Superdome 2/X	22、(80)、443	VC コンポーネント: 63001、63002	なし	22、(80)、443	63001、63002	63001、63002

SUM は、Windows および Linux の両方のシステムで、ポート 63002 を使用して hpsum_binary アプリケーションおよび hpsum_service アプリケーションの間で通信します。ポートが両方の列に表示されている場合、双方向通信が行われます。

注記：

Windows から Windows へのトラフィックでは、WMI、つまり標準の DCOM-In ポート 135、Async-in、および WMI-in を使用します。

ファイアウォールの競合がある場合は、/port コマンドと/ssl_port コマンドを発行し、ポートを 63001 および 63002 から変更します。--open_firewall を使用して、SUM が外部アクセスに使用する HTTP および HTTPS ポートを開きます。リモートノード機能やリモートブラウザアクセスを実行するには、これらのポートを開きます。例：

```
hpsum /port 80 /ssl_port 443
```

/ftp_port コマンドを発行し、FTP サービスで使用するポートを割り当てることができます。デフォルトでは、FTP ポートは無効です。コマンドを使用して、サービスを有効にします。

hpsum.ini ファイル内のポートアドレスの変更

hpsum.ini ファイルを編集するか、/port または/ssl_port の CLI パラメーターを使用することによって、SUM が使用するネットワークポートを変更することができます。SUM CLI モードの使用については、*Smart Update Manager CLI ガイド*を参照してください。

次に、よく使われる代替ネットワークポートを示します。

手順

1. port=63001 を編集して、port=80 に変更。
2. ssl_port=63002 を編集して、ssl_port=443 に変更。

VMware ノード用の SUM ポートの有効化

VMware サーバーのデフォルト設定では、ポート 80、443、5989 を除いて、送信接続はブロックされます。以下の手順に従って、デフォルトポートの 63001 および 63002 を有効にします。VMware サーバー上でこれらの送信ポートを有効にしてください。

- ポート 63001 を介した送信接続を有効にする HTTP SUM ファイアウォールルールを作成します。
- /etc/vmware/firewall ディレクトリに、httpSUM.xml ファイルを作成します。ファイルに、以下を書き込みます。
- ```
/etc/vmware/firewall # cat httpHPSUM.xml
```
- ```
<!-- Firewall configuration information for FDM -->
```

- `<ConfigRoot>`
- `<service id='0000'>`
- `<id>httpHPSUM</id>`
- `<rule id='0000'>`
- `<direction>outbound</direction>`
- `<protocol>tcp</protocol>`
- `<porttype>dst</porttype>`
- `<port>63001</port>`
- `</rule>`
- `<enabled>true</enabled>`
- `<required>>false</required>`
- `</service>`
- `</ConfigRoot>`
- esxcli network firewall refresh コマンドを使用して、更新を行います。

•

ポート 63002 について、上記の手順を繰り返します。

HPE Integrity サーバー固有のネットワーク設定に関する注記

Integrity サーバーは管理ネットワークインターフェイスと実際の作業に使うインターフェイスを備えています。この 2 つのインターフェイスは、通常は、設置される 1 つのシステム内の別々のサブネットで維持されます。サーバーの完全なリモート管理を行うために、両方のネットワークがアクセスを必要とします。2 つのネットワークを隔離したままにする場合は、管理作業とオペレーティングシステムの作業を別々に行います。

ベースラインのトラブルシューティング

SUM の依存関係の問題

SUM での依存関係の問題の判断。

症状

1. SUM がコンポーネントエラーの Missing 32 lib depend を表示する。
2. SUM で Red Hat Enterprise Linux システムの SuSE Enterprise Linux の依存関係がリストされる

溶液 1

原因

ご使用のシステムに一部の 32 ビット依存関係がインストールされていない可能性があります。

アクション

手順

1. システムにすべての 32 ビットライブラリがインストールされていることを確認してください。必要なライブラリについて詳しくは、コンポーネントのリリースノートを参照してください。

溶液 2

原因

SUM が Red Hat コンポーネントではなく SuSE コンポーネントを誤ってリストしています。

アクション

手順

1. 処置は不要です。

SUM が、同一コンポーネントの複数のバージョンを表示する

症状

カスタムベースラインを作成するとき、SUM にコンポーネントのバージョンが複数表示される。

原因

複数のソースベースラインに同一のコンポーネントが含まれています。

アクション

手順

1. コンポーネントのコピーを 1 つ選択します。

コンポーネントが無効として表示される

症状

SUM がコンポーネントの cp027753.exe を Disabled として表示する。

原因

masterdependency.xml ファイルの allow_rewrite パラメーター設定と allow_downgrade パラメーター設定が間違っています。

アクション

手順

1. この問題を回避するには、masterdependency.xml ファイルを削除またはアップデートします。

△ 注意：

masterdependency.xml ファイルを削除または編集すると、展開で障害が発生する可能性があります。SUM は、このファイルを使用して、コンポーネント間の依存関係の問題を解決します。

2. SUM を閉じます。
3. テキストエディターで、masterdependency.xml ファイルを開きます。
4. cp027753.exe の allow_rewrite パラメーターと allow_downgrade パラメーターを検索し、yes に変更します。
5. clean-cache アプリケーションを実行し、ノードとベースラインの情報を削除します。

注記： clean-cache を実行すると、SUM データベースからすべてのノード情報が削除されます。

6. SUM を起動し、ノードを追加した後、ノードの展開を続行します。

SUM が応答を停止する

症状

1. アップデートの展開に、予想よりも長い時間がかかる。
2. ベースラインでインベントリを実行すると、SUM が応答を停止する。

溶液 1

原因

SUMにシステムリソースまたはネットワークリソースがない可能性があります。

アクション

手順

1. ノードは推奨数よりも多く展開しないでください。詳しくは、「[環境内の SUM アップデートのスケールン](#)グ」を参照してください。

溶液 2

原因

複数のベースラインでインベントリを実行すると、非常に多くのシステムリソースを使用する場合があります。

アクション

手順

1. サイズの大きい（SPP サイズの）ベースラインでインベントリを実行する場合は、一度に1つのベースラインのみを実行してください。

カスタムベースラインの画面にノードタイプが表示されない

症状

カスタムベースラインのソースをフィルターするときにノードタイプが表示されない。

溶液 1

原因

ソースベースラインにそのノードタイプのコンポーネントが含まれていない可能性があります。

アクション

手順

1. ベースラインにそのノードタイプのコンポーネントが含まれていることを確認します。

溶液 2

原因

ノードタイプがクリア状態の可能性があります。

アクション

手順

1. アドバンスドフィルターですべてのノードタイプの選択を解除し、ベースラインソース内のすべてのコンポーネントを表示して、ベースラインに追加するコンポーネントを選択します。

リモートデスクセッションを終了した後、SUM がベースラインを保存しない

症状

リモートデスクトップセッション間で、SUM がベースラインまたはノード情報を保存しない。

原因

リモートデスクトップがセッション間の一時フォルダーを保存していません。

アクション

手順

- 1.

詳しくは、Microsoft 社の Web サイト <http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc755098.aspx> の記事を参照してください。

SUM が HTTP ベースラインを検証しない

症状

SUM が HTTP リポジトリからダウンロードしたベースラインを検証できない。

原因

SUM は、HTTP を介してダウンロードしたベースラインを検証しません。ダウンロードされた.exe ファイルはマニフェストファイルと比較されません。

アクション

手順

1. これは、SUM で予想されている動作です。

SUM 画面に古い情報が表示される

SUM 画面に古い情報が表示される

症状

SUM 画面に表示される情報が古いか、正しくない。

原因

Web ブラウザーで、SUM 画面のキャッシュされたバージョンが保存されています。

アクション

手順

1. Web ブラウザーのキャッシュをクリアします。

ベースラインを追加するとき、SUM がブラウザを更新する

症状

Web から取得されたベースラインを追加するときに一覧を取得をクリックすると、ブラウザウィンドウが更新される。

原因

これは Internet Explorer 11 で発生する問題です。

アクション

手順

1. 別の Web ブラウザーを使用します。

SUM が展開用のコンポーネントを選択できない

SUM が、展開用のコンポーネントを選択できない

症状

バージョンが異なるコンポーネントを使用できますが、SUM ではそのバージョンは自動選択されません。

原因

SUM は、日付のフォーマットを認識しません。

アクション

手順

1. Smart インストーラーを使用してコンポーネントを更新してください。

ノードのトラブルシューティング

選択したすべてのサーバーで、SUM のオフライン展開を開始できない

SUM スケーラブルアップデートユーザー向けのトラブルシューティング情報。

症状

選択したすべてのサーバーで、iLO 連携グループでのオフラインレビュー/展開処置が開始されない。

原因

管理ネットワークが、オフライン展開要求を処理できません。

アクション

手順

1. サーバークループの規模を小さくして、オフライン展開要求を試みます。

エンクロージャーで複数のサーバーを使用している場合は、サーバークループのメンバーを8つまでに制限することをおすすめします。

2. ご使用の環境に適用されるアップデートだけを含むカスタム ISO を使用して、オフライン展開要求を試みます。

SUM で sudo ユーザーの問題が発生する

SUM で sudo ユーザーの問題が発生する

症状

sudo を使用してノードを編集すると SUM が応答しない。

原因

ユーザー認証情報にリモートノードの管理者権限がない可能性があります。

アクション

手順

1. SUM にログインしたユーザーがシステムの管理者グループに属していることを確認してください。

展開ボタンが表示されない

SUM が応答を停止する

症状

SUM のノードの展開画面に**展開ボタン**が表示されない。

原因

SUM が、失敗した依存関係を検出しました。

アクション

手順

1. アップデートの展開を試行する前に、すべての依存関係が SUM で解決されていることを確認してください。

SUM ノードのインベントリが失敗する

症状

.

リモートの Windows ノードでインベントリの障害が発生する。ノードのログに、RegOpenKeyEx failed with error RegOpenKeyEx completed with error 997: Overlapped I/O operation is in progress: というエラーが表示されます。

•

SUM に VMware ノードのインベントリエラーが表示される。

•

SUM にエラー「Inventory failed. (インベントリが失敗しました。) The pciinfo module requires manual update on remote target (リモートターゲットで pciinfo モジュールの手動アップデートが必要です)」と HP-UX ノードに表示されます。

溶液 1

原因

これは、バックアップやレジストリにアクセスするプロセスなど、リモートの Windows ノードで動作している別のプロセスでの問題である可能性があります。

アクション

手順

1. レジストリにアクセスしているリモートプロセスをシャットダウンするか、ノードでローカルに SUM を実行し、インベントリを実行してアップデートを展開します。

溶液 2

原因

VMware サービスが開始されていません。

アクション

手順

1. VMware サービスが実行されていることを確認します。VMware ESXi シェルにログインします。
2. プロバイダーバージョンを確認し、`esxcli software vib list | grep smx` と入力します。

3. プロバイダーサービスが実行されていることを確認し、`/etc/init.d/sfcbd-watchdog status` と入力します。
4. プロバイダーがクエリに応答することを確認し、`enum_instances SMX_SCInstallationService root/hpq` と入力します。
5. サービスを再起動するには、`/etc/init.d/sfcbd-watchdog restart; /etc/init.d/sfcbd-watchdog status;` と入力します。

溶液 3

原因

`pci info. depot` ファイルが誤った場所にあります。

アクション

手順

1. すべてのタスクを閉じ、ノードの重要データをバックアップします。
2. `root` 権限でノードにログインします。
3. SUM ディレクトリ/`ia64`/にあるファイル `pci info. depot` をノードに転送します。
4. `swinstall -x autoreboot=true -s `pwd` ./pci info. depot PCCIINFO` を実行します。
5. アップデートが終了したら、リモートホストで SUM を再実行して、追加のアップデートを続行できます。

SUM がノードを検出しない

SUM がノードを検出しない

症状

SUM が、一部のノード（たとえば、ソリッドステートハードドライブ）を検出しない場合がある。

原因

SUM がコンポーネントから収集した情報が、ノードからの情報と一致していない可能性があります。

アクション

手順

1. ベースライン内にコンポーネントがあり、SUM がノードを検出しない場合、SUM の外部でコンポーネントを実行します。

Linux ホストで Windows ノードが追加されない

症状

Linux ホストで SUM を実行している場合、SUM が Windows ノードを追加しない。

原因

SUM は、Linux ホストからリモート Windows ノードへのアップデートの展開をサポートしません。

アクション

手順

1. Windows ノードを追加するには、Windows ホストで SUM を実行してください。

SUM がノードに接続できない

症状

SUMに「Unable to login or identify node as a supported device (サポートされるノードタイプとしてノードを認識することができません)」というメッセージが表示される。

溶液 1

原因

SUM でリモートノードとの接続の問題が発生しています。

アクション

手順

1. 以下の点を確認します。
 - ネットワークでノードがアクティブになっている。
 - ネットワークポートが開いている。
 - Windows のノードで\$Admin 共有が有効になっている。
 - Linux のノードに対して HTTP および SSH アクセスが有効になっている。

溶液 2

原因

ユーザー認証情報が正しくありません。

アクション

手順

1. 有効なユーザー認証情報が提供されていることを確認します。

NIC ファームウェアがアクティブ化されない

症状

SUM が NIC を再起動した後、NIC ファームウェアがアクティブ化されない。

原因

すべてのコンポーネントの前提条件が満たされていることを確認します。

アクション

手順

1. NIC を手動で再起動します。起動中に EFI シェルを選択します。アップデートは続行し、完了すると HP-UX が再起動します。

H220、H221、H222、および H210 HBA アダプターがアップデートエラーを返す

症状

SUM がホストバスアダプター H220、H221、H222、および H210 のアップデートエラーを表示する。

原因

SUM を実行しているホストまたはリモートノードでライブラリ依存関係が欠落しています。

アクション

手順

1. コンポーネントログを確認し、リターンコードが7であればLinuxノードで32ビットライブラリの依存関係が欠落しています。依存関係について詳しくは、SUM リリースノートを参照してください。

コンポーネントのバージョン情報が表示されない

症状

SUMにコンポーネントのバージョン情報が表示されない。

原因

SUMがコンポーネントの内容を正しく読み取っていません。

アクション

手順

1. コンポーネントのバージョンが使用するバージョンであることを認識している場合は、SUMをオンラインモードで実行し、コンポーネントの展開を強制的に実行します。

open_firewall コマンドが動作しない

症状

一部のノードでCLIコマンドopen_firewallが動作しない。

原因

一部のインスタンスで SUM がファイアウォールを開くことができません。これには、他社製ファイアウォールアプリケーション、Linux iptables DROP エントリ、および複雑なルールを持つファイアウォールが含まれます。

アクション

手順

1. `open_firewall` コマンドが動作しない場合、ファイアウォールを手動で開くと、SUM はノードを管理できません。

リモートノードのファイアウォールエラー

症状

リモートノードのファイアウォールでエラーの可能性があると報告される。

アクション

手順

1. 実行されているファイアウォールがないこと、ネットワークポートが開いていることを確認し、`http_proxy` パラメーターおよび `https_proxy` パラメーターを確認し、CURL のプロキシ設定を確認します。

CURL プロキシ設定について詳しくは、<http://curl.haxx.se/docs/manpage.html> の Web サイトを確認してください。

SuSE Linux Enterprise Server ノードのプロキシ構成については、ディレクトリ `etc/sysconfig/proxy` を確認してください。

HPCISSS2 と HPCISSS3 のどちらのドライバーがインストールされるかの確認

症状

HPCISSS2 と HPCISSS3 のどちらのドライバーがインストールされるか判断できない。

アクション

手順

1.

Smart アレイ SAS/SATA ドライバーを更新するときに、レビュー/展開画面で HPCISSS2 と HPCISSS3 の両方のドライバーを選択した場合は、次の表を使用して、どのドライバーがインストールされるかを確認してください。

インストールされるドライバーバージョン	CISS2	CISS3
HPSAMD ドライバー	このドライバーを選択した場合のみインストールされます。	両方のドライバーを選択した場合は、CISS3 がインストールされます。
HPCISSS2 ドライバー	インストールおよび更新されます。	
HPCISSS3 ドライバー		インストールおよび更新されます。

SUM は、HPCISSS2 ドライバーで HPCISSS3 ドライバーを上書きすることも、HPCISSS3 ドライバーで HPCISSS2 ドライバーを上書きすることはありません。更新が完了すると、HPCISSS3 ドライバーが HPCISSS2 ドライバーを上書きした、または HPCISSS2 が HPCISSS3 を上書きしたと表示されます。SUM を再起動すると、ドライバーがインストールされなかったこと、およびドライバーのインストール準備が完了している则表示されます。

特定のドライバーをインストールする必要があるが、SUM が他のドライバーをインストールする場合は、SUM の外部でアップデートを実行し、選択したドライバーをインストールします。

Power PIC コンポーネントが iLO 連携グループに展開されない

症状

SUM が、iLO 連携の機能による **iLO 連携アップデート**を介して、Power PIC コンポーネントを展開しない。

原因

ProLiant DL580 Gen8 サーバーおよびすべての ProLiant Gen9 サーバー用の Power PIC ファームウェアは、SUM の iLO 連携アップデート機能を使用してオンラインで展開できます。他のすべての ProLiant Gen8 サーバーの Power PIC ファームウェアについては、この機能を使用してオンラインで展開することはできません。

アクション

手順

1. SUM をオンラインモードで使用して、アップデートを展開します。

SUM が Broadcom ポートをスキップする

SUM が Broadcom ポートをスキップする

症状

SUM が Broadcom ノードをアップデートしない。

原因

SUM がアップデートの展開を試みても、Broadcom ポートが起動しません。

アクション

手順

1. ネットワークアダプターの取り付けに関して、該当するドライバーの前提条件を確認し、必要なポートの状態を確認します。

SUM が OA アップデートを間違って報告する

症状

完全にインストールされている OA アップデートが SUM で失敗として報告される。

原因

SUM とターゲットノード間のタイミングの問題があります。

アクション

手順

1. SUM を閉じて再起動し、ノードでインベントリを実行して、コンポーネントバージョンの詳細を検出します。

SUM で、Windows のクラスターノードへの展開が行われない

SUM が Broadcom ポートをスキップする

症状

Windows クラスターのメンバーノードにアップデートを展開するとき、予期しない問題が発生する。

原因

SUM は、Windows クラスター環境をサポートしません。

アクション

手順

1. Windows クラスター内のノードにアップデートを展開する場合は、SUM を使用しないでください。

VMware のトラブルシューティング

RPM アップデートが VMware ノードを展開しない

症状

SUM が VMware ESXi ノードに RPM アップデートを展開しない。

原因

RPM パッケージは Linux ノードのみをサポートします。

アクション

手順

1. 処置は不要です。

カスタムベースラインに VMware ノード用の RPM コンポーネントが含まれている

症状

VMware ノード用に作成されたカスタムベースラインに、RPM コンポーネントが含まれている。

原因

Linux ノードタイプが選択されています。

アクション

手順

1. カスタムベースラインを作成し、フィルターに Linux オペレーティングシステムが含まれていないことを確認します。

レポートのトラブルシューティング

SUM がレポートを生成しない

SUM がレポートを生成しない

症状

SUM がノード用のレポートを生成できない。

原因

ノードがオフラインであるか、SUM がノードにアクセスできません。

アクション

手順

1. ノードがオンラインか、ファイアウォールが開いているか、および SUM がノードに ping を送信できるかを確認します。

SUM エンジンのトラブルシューティング

SUM がユーザーを予期せずログオフする

症状

長い非アクティブ期間の後、SUM がユーザーをログアウトする。

原因

これは意図的なものです。操作のない状態が長期間続いた後、SUM はユーザーをログアウトします。

アクション

手順

1. ユーザー認証情報を使用して SUM にログインします。

ドライブ上の空き容量が 0 であること（ないこと）が SUM に表示される

一時ファイルが保管されているドライブ上で、4 TB 以上の空き容量が使用可能である場合に、SUM が 0 MB の空き容量を報告する問題。

症状

使用可能なディスクに 4 TB を超える空き容量がある場合でも、空きディスク容量がないという警告を SUM が表示する。

アクション

手順

1. GUI モードの展開画面で警告を無視を選択します。
2. CLI モードで、`/ignore_warnings` パラメーターを含めます。

3. Inputfile モードで、パラメーター IGNOREWARNINGS=YES を含めます。

テキストが変換されない

症状

画面上の何らかのテキストが変換されない。

アクション

手順

1. 処置は不要です。これは既知の問題で、将来のバージョンで修正されます。

「Multiple connections to a server or shared resource by the same user...」というエラーメッセージが表示される

症状

SUM に「Multiple connections to a server or shared resource by the same user...」というエラーメッセージが表示される

原因

SUM は、Windows ベースのサーバーで admin\$共有機能を使用し、リモートノードサーバーでファイルをコピーして必要な操作を実行します。SUM がリモート Windows ノードへの複数の接続を検出した場合は、「Multiple connections to a server or shared resource by the same user, using more than one user name, are not allowed. Disconnect all previous connections to the server or shared resource and try again.」と表示されることがあります。

SUM にこのエラーが表示される場合は、アップデートするリモートノードで開いている admin\$共有があるかどうかをチェックして、接続を削除します。公開の共有を確認して削除するには、次のコマンドを使用します。

アクション

手順

1. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
2. `net use` と入力します。
3. リモートノード上に公開接続が見つかったら、次のように入力します。`net use<node_admin_share>/delete`
4. エラーが表示される原因になった SUM で操作を試みます。

SUM が、ポートエラーを報告する

症状

SUM がブロックされたポートに関するエラーを報告するか、またはポートから切断しません。

アクション

手順

1. SUM を閉じ、システムを再起動します。
2. `hpsum.ini` で使用されているポートをクリアします。
3. SUM を起動します。

対話式 CLI モードでのコマンドの実行

コマンドラインからの SUM のアップデート

SUM には、GUI の外でシステムコマンドを実行するための方法があります。

- CLI では、1 つのコマンドラインにすべてのパラメーターを追加し、サイレントパラメーターを使用して、ユーザーが操作することなく複数のノードでシーケンス全体を実行できます。この方法を使用して 1 つまたは複数のノードを更新できます。
- 入力ファイルを使用した CLI : すべてのパラメーターをテキストファイルに追加してから、パラメーターとしてテキストのファイル名を指定して `inputfile` コマンドを使用して SUM を呼び出すことができます。入力ファイルの方法を使用すると、多数のノードを指定して更新できます。CLI、および入力ファイルを使用した CLI の使用方法について詳しくは、SUM CLI ガイドを参照してください。
- 対話式 CLI : 対話式の方法でプロセスの各ステップを実行できます。この方法は GUI を使用することに似ていますが、コマンドを個別に指定します。SUM 対話式 CLI では一度に 1 つのコマンドを実行します。この方法を使用すると、ノードを更新の別々のステージにすることができます。たとえば、あるノードをインベントリフェーズに、またあるノードを展開フェーズに、残りのノードを追加中の状態にすることができます。
- ファームウェア RPM : SUM RPM による展開は、Linux 専用の RPM 展開方法です。
- Smart Update ツール (SUT) : SUT を使用して、ご使用のノードにアップデートを展開できるスクリプトを実行することができます。SUT を実行する前に、コンポーネントを構成します。SUT の使用について詳しくは、*Smart Update Tool User Guide* を参照してください。

SUM バイナリ実行可能ファイルは、必要に応じて、セッションベースの状態情報を保持します。SUM は `hpsum.ini` ファイルにこの情報を保存します。このファイルは、Windows では `%tmp%\HPSUM\` に、Linux では `/tmp/HPSUM/` に保存されます。SUM で格納されるのは、ユーザー、セッション ID、およびポート情報です。この情報により、さまざまな資格情報を使用して SUM にログインして実行できます。

SUM の使用または `hpsum.ini` ファイルの編集について詳しくは、SUM のユーザー ガイドを参照してください。

ノードの展開

以下の手順は、ノードを展開するための基本的な手順にリンクしています。

手順

1. ノードおよびベースラインを追加します。詳しくは、「[add](#) (142 ページ)」を参照してください。
2. インベントリを実行します。詳しくは、「[inventory](#) (162 ページ)」を参照してください。
3. アップデートを展開します。詳しくは、「[deploy](#) (150 ページ)」を参照してください。
4. レポートを生成します。詳しくは、「[generatereports](#) (152 ページ)」を参照してください。

abort

説明

コマンドを安全に終了します。

構文

```
hpsum abort [--nodes [nodelist]]
```

パラメーター

—nodes 中断操作を実行するノードのリスト（完全なホスト名または IP アドレス）。ノードを指定
<nodelist> しない場合、すべてのノードのすべてのタスクが終了します。

制限

ローカルのベースラインの処理を中止することはできません。

abort コマンドを実行しても、OA、VC、iLO、またはスイッチノードへの展開は終了しません。

Windows での使用法

```
C:¥>hpsum abort /nodes 100.2.3.4 100.2.3.5
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum abort --nodes 100.2.3.4 100.2.4.5
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT **Windows コード** : 0
 Linux コード : 0
 テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

FAILURE_GENERAL **Windows コード** : -1
 Linux コード : 255
 テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM **Windows コード** : -2
 Linux コード : 254
 テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMMAND_FAILED **Windows コード** : -4
 Linux コード : 252
 テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

activate

説明

以前にステージングまたはインストールしたすべてのアップデートをアクティブ化します。これには、特定のデバイスに基づいた再起動または他のプロセスが伴う可能性があります。

構文

```
hpsum activate --nodes <nodelist> --cancelpending
```

パラメーター

—nodes ノードのアクティブ化操作を実行するノードのリスト（完全なホスト名または IP アド
<nodelist> レス）。指定しない場合、コマンドはセッションのすべてのノードに適用されます。

—cancelPending これを指定すると、保留中のファームウェア更新がアクティブにならずにキャンセルされます。このパラメーターは、Integrity iLO ノードでのみ使用できます。

制限

activate コマンドは、Integrity iLO およびサーバーノードにのみ適用されます。

Windows での使用法

```
C:\> hpsum activate /nodes 10.0.0.1 10.0.0.2
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum activate --nodes 10.0.0.1 10.0.0.2
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT	Windows コード : 0 Linux コード : 0 テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)
SUCCESS_NOT_REQUIRED	Windows コード : 3 Linux コード : 3 テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)
FAILURE_GENERAL	Windows コード : -1 Linux コード : 255 テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_BAD_PARM	Windows コード : -2 Linux コード : 254 テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_COMPONENT_FAILED	Windows コード : -3 Linux コード : 253 テキスト : The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)
FAILURE_COMMAND_FAILED	Windows コード : -4 Linux コード : 252 テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

add

説明

ベースラインまたはノードを現在のセッションの現在の作業セットに追加します。

構文

```
hpsum add --nodes
```

```
hpsum add --baselines
```

パラメーター

/nodes コマンドの直後に指定され、ノードの前に使用されているパラメーターは、グローバルパラメーターと見なされます。これらのパラメーターは、コマンドに指定されているすべてのノードに適用されます。例：

```
hpsum add /nodes user=user1 password=password1 type=linux 192.168.1.2 192.168.1.10
```

user、password、および type パラメーターは、両方のノードに適用されます。

指定したノードの後で使用されているパラメーターは、そのノードのみに適用されます。

```
hpsum add /nodes 192.168.1.15 user=user2 password=password2 type=linux 192.168.1.17 user=user3 password=password3 type=windows
```

user2、password2、および linux パラメーターは、ノード 192.168.1.15 に適用されます。user3、password3、および windows パラメーターは、192.168.1.17 に適用されます。

ノードパラメーター

--nodes <nodeslist>

追加操作を実行するオブジェクト。リストの項目はスペースで区切ってください。ユーザーとパスワードはすべてのノードでグローバルに指定できます。

domain_name: localhost

ip : 127.0.0.1

Ipv6 : ::1

ノードまたはベースラインのいずれかを追加します。同じコマンドで両方を追加しないでください。

VC ノードを追加する場合は、プライマリ Enet モジュールの IP アドレスを使用します。FC モジュールを含めて、インストールされているすべての VC モジュールが、プライマリ Enet モジュールを通して更新されます。

type = <node type>

このパラメーターはノードタイプを定義します。これを、ローカルとグローバルのパラメーターとして使用します。SUM は、次のノードタイプをサポートします。

- windows
- linux
- ilo
- virtual_connect

プライマリ Enet モジュールの IP アドレスを使用します。VC ノードには、oa_username および oa_password が必要です。VC ノードを追加する場合は、oa_username と / oa_password の属性を組み込みます。

- oa

ノードパラメーター

- vmware
- hpux
- sas_switch
- fc_switch
- sd2
- moonshot
- unknown

user=<user_name>

例 : user=john_doe@example.com

これは、ノードのユーザー名認証情報を提供します。これをコマンドラインで入力しない場合、SUM はユーザー名の入力を求めます。

これを、ローカルとグローバルのパラメーターとして使用します。

password=<password>

例 : password=userpassword

このユーザーパスワードは、ノードの認証に使用されます。これをコマンドラインで入力しない場合は、パスワードを求められます。

これを、ローカルとグローバルのパラメーターとして使用します。

SUM は、ユーザー認証情報について、Windows ドメインアカウントをサポートします。

su_user=<super_user ID>

例 : user=su_john_doe@example.com

スーパーユーザーのユーザー名。

su_password=<super_user_password>

例 : password=su_userpassword

スーパーユーザーのパスワード。

use_sudo

認証情報を sudo 認証情報として使用します。

指定される可能性があるオプション :

- true
- false

switch_username=<switch_a_username>

Moonshot スイッチ A のユーザー名。スイッチ B のユーザー名がスイッチ A と同じ場合、この値が両方のスイッチに適用されます。

注記 :

setattributes コマンドを使用してスイッチ B の認証情報を割り当てることができます。

switch_password=<switch_a_password>

Moonshot スイッチ A のパスワード。スイッチ B のパスワードがスイッチ A と同じ場合、この値が両方のスイッチに適用されます。

ノードパラメーター

注記：

setattributes コマンドを使用してスイッチ B の認証情報を割り当てることができます。

<code>switch_enable=<enable_password></code>	Moonshot ノードに対して、スイッチ A を有効にします。パスワードが同じ場合は、A および B スイッチに対してこの値を使用することができます。
<code>vcenter_host</code>	VMware がロックダウンモードになっている場合、これは VMware vCenter のアドレスです。vcenter_username および vcenter_password とともにこれらのパラメーターを使用して、ロックダウンモードの VMware ホストとの接続を確立します。
<code>vcenter_username</code>	これは、VMware ホストとの接続を確立するためのユーザーアカウントです。
<code>vcenter_password</code>	これは、VMware ホストとの接続を確立するためのアカウントのパスワードです。
<code>use_sshkey</code>	指定される可能性があるオプション： <ul style="list-style-type: none">• true• false Linux ノードのみ。このコマンドでは privatekeyfile と passphrase (オプション) を使用します。
<code>privatekeyfile=<PEM_file_absolute_path></code>	プライベートキーの絶対アドレスを入力します。プライベートキーは、PEM 形式でなければなりません。 これを、ローカルとグローバルのパラメーターとして使用します。
<code>passphrase=<passphrase></code>	(オプション) プライベートキーのパスフレーズを入力します。 これを、ローカルとグローバルのパラメーターとして使用します。

ベースラインのパラメーター

<code>--baselines <directory_path></code>	このパラメーターを使用してディレクトリを指定することで、ローカルベースラインを追加します。HTTP ベースラインを追加する場合は、save_location パラメーターを使用します。
<code>save_location=<working_location></code>	ダウンロードする HTTP ベースラインを保存するディレクトリ。
<code>type=<baseline_type></code>	このパラメーターはベースラインタイプを定義します。SUM は次のベースラインタイプをサポートします。 http ftp- SUM では、hpe.com からのベースラインのダウンロードがサポートされなくなりました unc (Windows のみ)

ベースラインのパラメーター

注記:

ローカルホストシステムで UNC ディレクトリが開いていないことを確認します。

<code>unc_username=<unc_username></code>	UNC ディレクトリパスのユーザー名を入力します。(Windows に対してのみ) 有効です。
<code>unc_password=<unc_password></code>	UNC ディレクトリパスのパスワードを入力します。(Windows に対してのみ) 有効です。
<code>bundle=<bundle_name></code>	追加するバンドルファイル名を入力します。バンドルファイル名のリストを表示するには、コマンド <code>getbaselines /list</code> を使用します。 例: <code>bundle=spp.2014.02.0.B</code>
<code>filter_os=<os_filter></code>	(HTTP ベースラインのみ) この属性を使用して、SUM がダウンロードするコンポーネントを、オペレーティングシステムを基準にフィルタリングできます。有効なオプションは、次のとおりです。 windows linux vmware hp-ux

制限

- 1 つのコマンドで、ベースラインとノードを同時に追加しないでください。2 つの別々のコマンドを使用します。
- ftp タイプのベースラインを追加する前に、`setattributes` コマンドの `hp-passport-token` パラメーターを追加します。

使用できる SPP ベースラインのリストを表示するには、`getbaselines` コマンドを発行します。`setattributes` について詳しくは、**setattributes** (164 ページ) `setattributes` のヘルプファイル (`hpsum getbaselines --list hp.com`) を参照してください。SUM は、オンラインで使用可能なベースラインのリストを返します。例:

Web ベースライン情報:

1. Name: Service Pack for ProLiant
Bundle File Name: spp2014020B
Version: 2014.02.0.B
Release Date: 2014-04-25
2. Name: Service Pack for ProLiant
Bundle File Name: spp.2013.09.0.C
Version: 2013.09.0.C
Release Date: 2014-04-30

- SUM の対話式 CLI モードはノードまたはベースラインを自動的に追加しません。対話式 CLI モードでは、関連ノードが自動的に追加されません。GUI モードを使用して、関連するデバイスを追加します。

用途

```
hpsum add [--nodes n1 [type=<node_type>] [user=<username>] [password=<userpassword>]  
[su_user=<su_user>] [su_password=<suuser_password>] [use_sudo=true]
```

```
[switch_username=<Moonshot_switchA_username>] [switch_password=<Moonshot_switchA_password>]  
[switch_enable=<Moonshot_switchA_enable>]
```

```
--baselines b1 [save_location=<directory>] [type=<baseline_type>]
```

Windows での使用法

Windows のサンプルのコマンドライン

```
C:\>hpsum add /nodes 10.0.1.15 type=windows
```

```
C:\>hpsum add /baselines type=ftp save_location=c:\temp\pfw bundle=spp.2014.02.0.B
```

```
C:\>hpsum add /baselines type=http save_location=c:\temp\spp bundle=http://10.1.2.3/spp/hp/  
swpackages/bp002524.xml filter_os=linux
```

```
C:\>hpsum add /nodes type=vc 10.0.1.16 user=Administrator password=12iso*help  
oa_username=Administrator oa_password=12iso*help
```

```
C:\>hpsum add /nodes 10.0.1.4 type=vmware vcenter_host=10.0.1.20 vcenter_username=Administrator  
vcenter_password=password
```

```
C:\>hpsum add /nodes 10.1.2.3 type=virtual_connect oa_username=Administrator  
oa_password=myspassword1
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum add --nodes 10.0.1.16 type=linux
```

```
$ ./hpsum add --baselines "/SPP/" "/tmp/myrepos/"
```

```
$ ./hpsum add --baselines type=http save_location=c:\temp\spp bundle=http://10.1.2.3/spp/hp/  
swpackages/bp002524.xml filter_os=linux
```

```
$ ./hpsum add --nodes type=vc 10.0.1.18 user=Administrator password=12iso*help  
oa_username=Administrator oa_password=12iso*help
```

```
$ ./hpsum add --baselines type=ftp save_location=/tmp/pfw bundle=spp.2014.02.0.B
```

```
$ ./hpsum add --nodes 10.0.1.4 type=vmware vcenter_host=10.0.1.20 vcenter_username=Administrator  
vcenter_password=password
```

```
$ ./hpsum add --nodes 10.1.2.3 type=virtual_connect oa_username=Administrator  
oa_password=myspassword1
```

注記：

ノードタイプが Linux または HP-UX の場合は、su_user および su_password、または use_sudo を使用
できます。

例：

```
hpsum add /nodes 192.168.1.1 type=Linux user=user password=password su_user=user1  
su_password=password1
```

```
hpsum add /nodes 192.168.1.1 type=Linux user=user password=password use_sudo=true
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT **Windows コード** : 0

Linux コード : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED **Windows コード** : 3

Linux コード : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)

注記 :

ノードまたはベースラインは存在しています。

FAILURE_GENERAL

Windows コード : -1

Linux コード : 255

テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows コード : -2

Linux コード : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMMAND_FAILED **Windows コード :** -4

Linux コード : 253

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

configure

説明

ベースライン内のコンポーネント構成設定のエクスポート、インポート、表示ができます。

構文

```
hpsum configure --export baseline=<baselinename> dir=<directoryname> [component=<componentname> includeCredentials=true|false]
```

```
hpsum configure --import baseline=<baselinename> dir=<directoryname> [component=<componentname>]
```

```
hpsum configure --show baseline=<baselinename> [component=<componentname>]
```

Parameters/Options/Flags/Strings/...

/export

このパラメーターは、指定されたディレクトリにコンポーネント構成をエクスポートします。

/import

このパラメーターは、指定されたディレクトリからコンポーネント構成をインポートします。

/show

このパラメーターは、ベースライン内のコンポーネントのコンポーネント構成オプションを表示します。

<code>baseline=<baselinename></code>	インポート、エクスポート、または表示するコンポーネントが含まれるベースラインを指定するには、このパラメーターを指定します。
<code>dir=<directoryname></code>	コンポーネント構成設定のエクスポート先またはインポート元のディレクトリを指定するには、このパラメーターを使用します。
<code>component=<componentname></code>	これはオプションのパラメーターです。これには、インポート、エクスポート、または表示するコンポーネントの名前を指定します。コンポーネントを指定しない場合、SUM はベースライン内のすべてのコンポーネントをエクスポート、インポート、または表示します。
<code>includeCredentials=<true false></code>	これはオプションのパラメーターです。true を選択した場合、SUM は構成設定をエクスポートするときにユーザー認証情報を含めます。このパラメーターのデフォルトは true です。

Windows での使用法

```
C:\>hpsum configure /import baseline=C:\$spp.2012.01 dir=C:\%Components
```

この例では、C:\\$spp.2012.01 ベースラインの C:\%Components ディレクトリの下にあるすべてのコンポーネント構成が SUM にロードされます。

```
C:\>hpsum configure /import baseline=C:\$spp.2012.01 dir=C:\%Components\cp022423_conf
component=cp022423.exe
```

この例では、SUM は、ベースライン C:\\$spp.2012.01 のコンポーネント cp022423.exe の構成のみをディレクトリ C:\%Components にインポートします。

```
C:\>hpsum configure /show baseline=C:\$spp.2012.01
```

この例では、SUM は、ベースライン C:\\$spp.2012.01 から、すべてのコンポーネント構成を表示します。

Linux での使用法

```
$ ./hpsum configure --export baseline=/root/SPP.2012.01 dir=/root/Components
```

この例では、SUM は、ベースライン /root/SPP.2012.01 から、すべてのコンポーネント構成をディレクトリ /root/Components にエクスポートします。

```
$ ./hpsum configure --export baseline=/root/SPP.2012.01 dir=/root/Components component=hp-snmp-
agents-10.10-2657.7.rhel6.i686.rpm includeCredentials=false
```

この例では、SUM は、ベースライン /root/SPP.2012.01 にあるコンポーネント hp-snmp-agents-10.10-2657.7.rhel6.i686.rpm の構成のみをディレクトリ /root/Components にエクスポートします。この例では、SUM は認証情報をエクスポートしません。

```
$ ./hpsum configure --show baseline=/root/SPP.2012.01 component=hp-snmp-
agents-10.10-2657.7.rhel6.i686.rpm
```

この例では、SUM は、ベースライン /root/SPP.2012.01 から、コンポーネント hp-snmp-agents-10.10-2657.7.rhel6.i686.rpm の構成のみを表示します。

リターンコード

SUCCESS Windows : 0

Linux : 0

テキスト : SUM がコンポーネント構成のエクスポート、インポート、または表示を正常に実行できた場合、これが返されます。

FAILURE Windows : -1

Linux : 255

テキスト : SUM がコンポーネント構成のエクスポート、インポート、または表示に失敗した場合、これが返されます。

delete

説明

選択されたベースラインまたはノード、および選択されていないベースラインまたはノード（あるいは両方）を現在のセッションから削除できます。ベースラインがノードに割り当てられている場合、そのベースラインを削除できません。ノードで機能を実行しているベースラインやノードは削除できません。

構文

```
hpsum delete [--nodes [nodelist]]
```

```
hpsum delete [--baselines [baselinelist]]
```

Parameters/Options/Flags/Strings/...

- nodes [nodelist]** 削除操作を実行するオブジェクト。リストはスペースで区切ります。ノードリストを指定しない場合、すべてのノードが削除されます。
- baselines [baselinelist]** 削除操作を実行するオブジェクト。リストはスペースで区切ります。ベースラインリストを指定しない場合、すべてのベースラインが削除されます。

制限

1つのコマンドで、ベースラインとノードを同時に削除しないでください。

Windows での使用法

```
C:¥> hpsum delete /baselines "spp.2012.01"
```

```
C:¥> hpsum delete /nodes 10.0.0.1
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum delete --baselines "spp.2012.01"
```

```
$ ./hpsum delete --nodes 10.0.0.1
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT Windows コード : 0

Linux コード : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

SUCCESS_NOT_REQUIRED Windows コード : 3

Linux コード : 3

テキスト : The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です) <Node or baseline was not present, so did not need to be deleted.> (<ノードまたはベースラインが存在しないため、削除する必要はありません。>)

FAILURE_GENERAL Windows コード : -1

Linux コード : 255

テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows コード : -2

Linux コード : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMMAND_FAILED **Windows コード** : -4

Linux コード : 253

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

deploy

現在のセッションの現在の作業セットのノードに展開を実行できます。ノードを指定しない場合、デフォルトでは現在選択されているリストのすべてが対象になります。

構文

```
hpsum deploy [--nodes [nodelist]] [--groups [grouplist]]
```

パラメーター

--nodes [nodelist] 展開操作を実行するノードのリスト。各ノードは次の3つの方法で指定できます。

domain_name: localhost

ip: 127.0.0.1

Ipv6: ::1

ノードリストを指定しない場合、セッションのすべてのノードが展開されます。

制限

ノードへの更新が存在しない場合、SUM がノードに更新を展開したことを示すことがありますが、何も展開されていません。

Windows での使用法

```
C:¥> hpsum deploy /nodes 10.7.0.0
```

```
C:¥> hpsum deploy /groups group1
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum deploy --nodes 10.7.0.0
```

```
$ ./hpsum deploy --groups group1
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT **Windows** : 0

Linux : 0

	テキスト: The command was successful. (コマンドが成功しました。)
SUCCESS_REBOOT	<p>Windows : 1</p> <p>Linux : 1</p> <p>テキスト: The command was successful but a reboot is required. (コマンドが成功しましたが、再起動が必要です。)</p>
SUCCESS_NOT_REQUIRED	<p>Windows : 3</p> <p>Linux : 3</p> <p>テキスト: The command completed successfully, but was not required or everything was already current. (コマンドは正常に完了しましたが、コマンドが不要であったか、すべてが最新です)</p>
FAILURE_GENERAL	<p>Windows : -1</p> <p>Linux : 255</p> <p>テキスト: 一般エラーが発生しました。 For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)</p>
FAILURE_BAD_PARM	<p>Windows : -2</p> <p>Linux : 254</p> <p>テキスト: A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)</p>
FAILURE_COMPONENT_FAILED	<p>Windows : -3</p> <p>Linux : 253</p> <p>テキスト: The installation of the component failed. (コンポーネントのインストールに失敗しました。)</p>
FAILURE_COMMAND_FAILED	<p>Windows : -4</p> <p>Linux : 252</p> <p>テキスト: The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)</p>

findavailablenodes

ネットワークで使用可能なノードを検索できます。使用可能にするには、ノードにアクセスできるようにし、別の管理システムがそのノードを排他的に制御できないようにする必要があります。このコマンドは、指定した範囲の IP アドレスを検索し、オプションのポートを受け入れます。

構文

```
hpsum findavailablenodes --type ip|port [ipAddrLow ipAddrHi] [port]
```

説明

Parameters/Options/Flags/Strings/...

- type ip|port** type オプションを渡す場合、値は次の 3 つのタイプのいずれかに一致している必要があります。
1. ip—SUM が検索する IP アドレス範囲を入力します。オプション : ipAddrLow;ipAddrHi
 2. port—SUM が検索できる IP アドレス範囲とともに、ポート番号を入力します。オプション : ipAddrLow、ipAddrHi;portNum

Windows での使用法

```
C:\>hpsum findavailablenodes /type ip 10.7.85.0 10.7.85.128
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum findavailablenodes --type port 10.7.85.0 10.7.85.128 445
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT	Windows : 0 Linux : 0 テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)
FAILURE_GENERAL	Windows : -1 Linux : 255 テキスト : 一般エラーが発生しました。 For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_BAD_PARM	Windows : -2 Linux : 254 テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_COMMAND_FAILED	Windows : -4 Linux : 252 テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

generatereports

SUM セッションのレポートを生成できます。このレポートには、インベントリ、ファームウェア、失敗した依存関係、展開プレビュー、インストールされているコンポーネント、および統合レポートが含まれます。出力はデフォルトで attributes values になり、レポートのタイプは all available になります。

構文

```
hpsum generatereports [--type inventory | firmware | installables | faileddep | installed | combined] [--output html | xml | csv] [--nodes [odelist]] [--baselines [baselinelist]]
```

Parameters/Options/Flags/Strings/...

- type** type パラメーターを指定する場合は、次のいずれかである必要があります。

- Inventory
- Firmware
- Installables
- Faileddep
- Installed
- Combined

タイプを指定しない場合は、使用可能なすべてのタイプが生成されます。

--output

- xml
- csv
- html

出力タイプを指定しない場合は、すべての形式が生成されます。

--nodes [nodelist] SUM は、リスト内のすべてのノードの詳細情報を含む単一のレポートを生成します。ノードリストを指定しない場合、現在のセッションのすべてのノードが選択されます。

--baselines [baselinelist] レポートに含めるベースラインのリスト。ベースラインリストを指定しない場合、現在のセッションのすべてのベースラインが選択されます。

Windows での使用法

```
C:\>hpsum generatereports /type inventory /nodes localhost
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum generatereports --type faileddep --nodes 10.7.85.0 10.7.85.128
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT	<p>Windows : 0</p> <p>Linux : 0</p> <p>テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)</p>
FAILURE_GENERAL	<p>Windows : -1</p> <p>Linux : 255</p> <p>テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)</p>
FAILURE_BAD_PARM	<p>Windows : -2</p> <p>Linux : 254</p> <p>テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)</p>

FAILURE_COMMAND_FAILED Windows : -4

Linux : 252

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getattributes

セッションまたは選択したノードの属性のいずれかを表示できます。属性は SetAttributes コマンドを使用して変更できます。

構文

```
hpsum getattributes [--nodes [nodelist]] [--session]
```

Parameters/Options/Flags/Strings/...

--nodes [nodelist] 属性を取得するノードのリスト。ノードリストを指定しない場合、セッションのすべてのノードが表示されます。

--session SUM セッションで使用可能な属性を一覧表示します。

Windows での使用法

```
C:\> hpsum getattributes /nodes localhost
```

```
C:\> hpsum getattributes /nodes 10.0.1.2
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum getattributes --nodes localhost
```

```
$ ./hpsum getattributes --nodes 10.0.1.4
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

FAILURE_GENERAL Windows : -1

Linux : 255

テキスト : 一般エラーが発生しました。 For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMMAND_FAILED Windows : -4

Linux : 252

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getbaselines

現在の SUM セッションのベースラインのリストを表示できます。

構文

```
hpsum getbaselines [<baselinelist>] [--details]
```

パラメーター

baselinelist [**--details**] この操作の実行に使用するベースラインの場所。--details を指定すると、詳しいベースライン情報を取得できます。

--list このパラメーターは、ベースラインの詳細を取得します。SUM では、hpe.com からのベースラインのダウンロードがサポートされなくなりました

Windows での使用法

```
C:\>hpsum getbaselines c:\spp\baseline1 /details
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum getbaselines
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

FAILURE_GENERAL Windows : -1

Linux : 255

テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMMAND_FAILED Windows : -4

Linux : 252

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getcomponentlogs

ノードのコンポーネントログを表示できます。

構文

```
hpsum getcomponentlogs [--nodes [<nodelist>]] [--component <componentname>]
```

パラメーター

--nodes [<nodelist>]	この要求の対象となるノード。ノードリストを指定しない場合、セッションのすべてのノードが使用されます。
--component <componentname>	SUM がログを表示するコンポーネントの名前。このパラメーターを使用する場合は、コンポーネント名を入力する必要があります。コンポーネントを指定しない場合、SUM はすべてのコンポーネントのログを生成します。

Windows での使用法

```
C:\> hpsum getcomponentlogs /nodes localhost
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum getcomponentlogs --nodes 10.0.1.1 --component cp020024.exe
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT	Windows : 0 Linux : 0 テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)
FAILURE_GENERAL	Windows : -1 Linux : 255 テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_BAD_PARM	Windows : -2 Linux : 254 テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_COMMAND_FAILED	Windows : -4 Linux : 252 テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getcurrentlyinstalledversions

現在の SUM セッション内で、ノードに現在インストールされているコンポーネントのバージョンを取得できます。

構文

```
hpsum getcurrentlyinstalledversions [--nodes [<nodelist>]]
```

パラメーター

—nodes
[<nodelist>] インストールされているバージョンを取得するノードのリスト。ノードリストを指定しない場合、セッションのすべてのノードが使用されます。

Windows での使用法

```
C:¥> hpsum getcurrentlyinstalledversions /nodes localhost
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum getcurrentlyinstalledversions --nodes localhost
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT	Windows : 0 Linux : 0 テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)
FAILURE_GENERAL	Windows : -1 Linux : 255 テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_BAD_PARM	Windows : -2 Linux : 254 テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_COMMAND_FAILED	Windows : -4 Linux : 252 テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getenginestatus

SUM セッションのステータス情報を取得できます。

構文

```
hpsum getenginestatus
```

Windows での使用法

```
C: /> hpsum getenginestatus
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum getenginestatus
```

出力例

```
No SUM engine found running.
```

出力例

Process name:

Copyright:

バージョン :

Active Sessions:

Engine status:

Total number of sessions:

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT

Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : 一般エラーが発生しました。 For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getlogs

GatherLogs 機能を起動し、すべてのログを収集して圧縮ファイルに格納します。デフォルトでは、SUM はログファイルを次のいずれかの場所に保存します。

- Windows
 - C:\cpqsystem\log
 - C:\cpqsystem\hp\log
 - C:\Windows\Temp\HPSUM
 - %temp%\HPSUM
- Linux
 - /var/hp/log
 - /var/cpq/log
 - /tmp/HPSUM

構文

hpsum getlogs

Windows での使用法

C:¥> hpsum getlogs

Linux での使用法

\$./hpsum getlogs

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT	Windows : 0 Linux : 0 テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)
FAILURE_GENERAL	Windows : -1 Linux : 255 テキスト : 一般エラーが発生しました。 For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_BAD_PARM	Windows : -2 Linux : 254 テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_COMMAND_FAILED	Windows : -4 Linux : 252 テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getneededupdates

コマンドの一部として渡される現在の選択または項目のいずれかの状態に基づいて、必要なアップデートの詳細を表示できます。ノードを指定しない場合、コマンドはセッションで現在選択されているノードを使用します。

構文

hpsum getneededupdates [--nodes [<nodelist>]]

説明

パラメーター

--nodes
[<nodelist>] 必要なアップデート操作のチェックを実行するノードのリスト。ノードリストを指定しない場合、セッションのすべてのノードが使用されます。

Windows での使用法

C:¥> hpsum getneededupdates /nodes localhost

Linux での使用法

```
$ ./hpsum getneededupdates --nodes localhost
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT	Windows : 0 Linux : 0 テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)
FAILURE_GENERAL	Windows : -1 Linux : 255 テキスト : 一般エラーが発生しました。 For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_BAD_PARM	Windows : -2 Linux : 254 テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_COMMAND_FAILED	Windows : -4 Linux : 252 テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getnodes

現在の SUM セッションのノードのリストを表示できます。

構文

```
hpsum getnodes [<nodelist> --details]
```

パラメーター

- <nodelist>** 操作を実行するノード。
- details** [--details]を指定すると、詳細情報を取得できます。

制限

Windows での使用法

```
C:\>hpsum getnodes 10.0.1.1 /details
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum getnodes 10.0.1.1 --details
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT	Windows : 0 Linux : 0
--------------------------	--

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

FAILURE_GENERAL

Windows : -1

Linux : 255

テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM

Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMMAND_FAILED

Windows : -4

Linux : 252

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

getresults

実行したコマンドの結果を取得できます。特定のノードを指定できます。ノードまたはベースラインを指定しない場合、コマンドはセッションで現在選択されているセットを使用します。

構文

```
hpsum getresults [--nodes [nodelist]][--baselines [baselinelist]]
```

パラメーター

--nodes (n) [nodelist] getresults コマンドを実行するノード ID のリスト。

--baselines (b) [baselinelist] 結果をクエリするベースライン。ベースラインリストを指定しない場合、セッションのすべてのベースラインが使用されます。

Windows での使用法

```
C:¥> hpsum getresults /nodes t1 t2
```

```
T1 - 15 succeeded, 0 failed
```

```
Comp1 - success.
```

```
T2 - 0 succeeded, 0 failed
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum getresults --nodes t1
```

```
T1 - 15 succeeded, 0 failed
```

```
Comp1 - success.
```

```
Comp2 success.
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT	Windows : 0 Linux : 0 テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)
FAILURE_GENERAL	Windows : -1 Linux : 255 テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_BAD_PARM	Windows : -2 Linux : 254 テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_COMMAND_FAILED	Windows : -4 Linux : 252 テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

inventory

ノードをスキャンして、ファームウェア、ドライバー、およびハードウェアコンポーネントの現在インストールされているバージョンを特定できます。

構文

```
hpsum inventory [--nodes <nodelist>] [--baselines <baselinelist>]
```

パラメーター

--nodes [<nodelist>]	inventory コマンドを実行するノードのリスト。各ノードは次の方法で指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • localhost • 127.0.0.1 • ::1
--baselines [<baselinelist>]	SPP またはコンポーネントのパスを指定します。ベースラインの場所にスペースや特殊文字が含まれる場合は、エスケープ文字 (Linux) または二重引用符 (Windows) を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • baseline : C:¥repor1 • baseline : C:¥repor1¥bp0001.xml <p>ベースラインにノードリストを含める場合、SUM は、指定されたベースラインを持つノードでインベントリを実行します。ノードリストを含めない場合、SUM はベースラインでのみインベントリを実行します。</p>

制限

インベントリを実行する前に、AMS、SNMP、WMI などの管理オプションを設定します。

暗号化キーを使用して VC ノード上でインベントリが正常に完了したら、setattributes コマンドを使用して、encryption_key パラメーターの詳細を割り当てます。

Windows での使用法

```
C:¥>hpsum inventory /nodes 10.0.1.1 /baselines C:¥Users¥Administrator¥Desktop¥blds¥ilo¥26.33
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum inventory --nodes 10.0.1.1 --baselines /root/Desktop/rono/blds/ilo
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT	Windows : 0 Linux : 0 テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)
FAILURE_GENERAL	Windows : -1 Linux : 255 テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_BAD_PARM	Windows : -2 Linux : 254 テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_COMMAND_FAILED	Windows : -4 Linux : 252 テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

login

現在のセッションに使用する認証情報を設定できます。

構文

認証情報を使用して初めて認証する :

```
hpsum login [--username <username> --password <password> [--port <port>] [--ssl_port <sslport>] [--ftp_port <ftpport>] [--open_firewall]
```

現在の認証情報で認証する :

```
hpsum login
```

パラメーター

- username** ユーザー名を追加するためのオプションパラメーター。
- password** ユーザーパスワードを追加するためのオプションパラメーター。
- port** SUM が使用するポートを定義するためのオプションパラメーター。

許されている値は、以下のとおりです:

80、1024~65535

--ssl_port SUM が使用する SSL ポートを定義するためのオプションパラメーター。

許されている値は、以下のとおりです:

443、1024~65535

--ftp_port SUM が使用する FTP ポートを定義するためのオプションパラメーター。

許されている値は、以下のとおりです:

disabled、21、1024~65535

Windows での使用法

```
C:¥> hpsum login /username rono /password pwd123 /ssl_port 9091
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum login --username rono --password pwd123 --ssl_port 9091
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT Windows : 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

FAILURE_GENERAL Windows : -1

Linux : 255

テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM Windows : -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMMAND_FAILED Windows : -4

Linux : 252

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

setattributes

SUM ノードまたはセッションの属性を変更できます。権限が適切でない場合、要求されたセットにパラメーターが含まれていない場合、または値が使用できない場合、setattributes コマンドは無効なパラメーターであるというメッセージを返すことがあります。

変更できる属性のリストを表示するには、getattributes コマンドを使用します。使用可能な属性は、各セッションに追加されたノードおよびベースラインに基づいて変わります。例 :

hpsum /getattributes /session (Windows)

hpsum /getattributes /nodes (Windows)

構文

hpsum setattributes --nodes [<nodelist>] attribute1=value1 attribute2=value2

hpsum setattributes --session attribute1=value1

対話式 CLI のセッション属性を割り当てます。

hpsum setattributes --session <attribute>=<value> (Linux)

hpsum setattributes /session <attribute>=<value> (Windows)

パラメーター

--open_firewall 外部アクセスに使用する HTTP および HTTPS ポートを開くことを SUM に許可するオプションパラメーター。リモートノード機能およびリモートブラウザアクセスのためにポートを開くときにも使用します。

--nodes [<nodelist>] attribute=value ノード、およびノードに適用する属性を指定します。

--session attribute=value 適用するセッション属性を指定します。セッション属性は全体に適用されます。

セッションパラメーターのオプション

auto_save_session [true|false]

auto_save_session_time <integer> - 時間 (分単位) デフォルトは 15 分です。

engine_mode [debug|release]

software [true|false] - このセッションで追加されたすべてのノードを対象に、オプションを定義します。

ファームウェア [true|false] - このセッションで追加されたすべてのノードを対象に、オプションを定義します。

rewrite [true|false] - このセッションで追加されたすべてのノードを対象に、オプションを定義します。

FIPS モードが有効な場合、SUM はコンポーネントの書き換えを行いません。

ダウングレード [true|false] - このセッションで追加されたすべてのノードを対象に、オプションを定義します。

FIPS モードが有効な場合、SUM はコンポーネントのダウングレードを行いません。

language [en|ja|cn]

verbosity [normal|verbose|veryverbose]

- normal

	—展開について SUM が提供するデフォルトの量の情報。
	• verbose
	—情報を使用可能な場合、展開に関してより詳細な情報を提供します。
	• veryverbose
	—情報を使用可能な場合、展開に関してさらに詳細な情報を提供します。
verbose	[true false] hpsum setattributes /nodes verbose=true 展開時に SUM が提供する詳細情報の量を決定します。
report_dir	[directory_path] - SUM がレポートを保存するディレクトリのパス。例：C:\hpsum_reports¥。
use_proxy_script - サポートされなくなりました	[true false] プロキシ設定は、主に HTTP または FTP ベースラインのダウンロードに使用します。
proxy_url - サポートされなくなりました	<string> - プロキシサーバーの URL。
proxy_ftp_port - サポートされなくなりました	<string> - プロキシサーバーの FTP ポート。
/proxy_script - サポートされなくなりました	<string> - プロキシスクリプトのフルパス。
proxy_username - サポートされなくなりました	<string> - プロキシサーバーのユーザー名。
/proxy_password - サポートされなくなりました	<string> - プロキシサーバーのユーザーパスワード。
open_firewall - サポートされなくなりました	[yes no] リモートノードとの通信に必要なファイアウォールポートを開きます。
hp-passport-token=[token id] - サポートされなくなりました	hp.com で利用できるベースラインバンドルにアクセスするための有効な HP Passport Credentials API Token Authentication キーを使用します。

ノードパラメーターのオプション

Use_vCenter	VMware ノードの場合。 [true false] この属性を true に設定する場合は、以下の設定を入力します。
	• vcenter_host - VMware vCenter ノードの IP アドレス。
	• vcenter_username

- VMware vCenter ノードのユーザー名。
 - vcenter_password
 - VMware vCenter ノードに接続するユーザーのパスワード。
- これらのパラメーターは、セッション属性として設定することもできます。

encryption_key

オプション:

最小 8 文字の文字列。

FIPS モードを有効にしている VC ノードに必要なパラメーター。SUM は、暗号化キーを使用して、アップデートプロセス中にディスクに保存された構成を暗号化します。この値は独立しており、VC のパスワードに一致させる必要はありません。

VC インベントリが正常に完了した後にこのパラメーターを割り当てます。

ethactorder

設定可能な値 :

ODDEVEN/PARALLEL/SERIAL/MANUAL。デフォルト値は ODDEVEN。

VC-Enet モジュールの有効化順序を決めるには、このコマンドを使用します。

fcactorder

設定可能な値 :

ODDEVEN/PARALLEL/SERIAL/MANUAL。デフォルト値は ODDEVEN。

VC-FC の有効化順序を決めるには、このコマンドを使用します。

ethactdelay

有効なエントリー :

0~60 分。デフォルトは 0 分です。

VC-Enet モジュールの有効化または再起動の間の時間を分単位で決めるには、このコマンドを使用します。

fcactdelay

有効なエントリー :

0~60 分。デフォルトは 0 分です。

VC-FC モジュールの有効化または再起動の間の時間を分単位で決めるには、このコマンドを使用します。

use_sshkey

Linux ノードのみ

指定される可能性があるオプション :

- true
- false

その他の属性

- privatekeyfile
 - プライベートキーのアドレスを入力します。プライベートキーは、PEM 形式でなければなりません。
- passphrase
 - (オプション) プライベートキーのパスフレーズを入力します。

これらのパラメーターは、セッション属性として設定することもできます。

no_mgmt

指定される可能性があるオプション :

- true
- false

展開では、AMS、SNMP、または WBEM Provider は選択されません。

use_snmp

(Linux のみ)

指定される可能性があるオプション :

- true
- false

SUM は SNMP コンポーネントを展開します。

use_wmi

(Windows のみ)

指定される可能性があるオプション :

- true
- false

SUM は、WBEM Provider コンポーネントを展開します。

use_ams

(Gen8 以降)

指定される可能性があるオプション :

- true
- false

SUM は Windows システムと Linux システムの両方に AMS コンポーネントを展開します。

ignore_tpm

指定される可能性があるオプション :

[true|false]

このパラメーターは、TPM または TM モジュールがサーバーにインストールされている場合に、TPM 警告メッセージを無視するように SUM に指示します。

このパラメーターは、サーバーおよび iLO ノードでサポートされます。

on_failed_dependency [omithost|omitcomponent|force]

- omithost
 - SUM は、失敗した依存関係を検出した場合、ホストをスキップします。(デフォルト)
- omitcomponent
 - SUM は、失敗した依存関係を含むコンポーネントをスキップします。ノード上の他のコンポーネントは展開されます。
- force
 - SUM は、失敗した依存関係を含むコンポーネントを強制的に展開します。

ignore_warnings

指定される可能性があるオプション :

[true|false]

- このパラメーターは、何かが発生した場合に警告を無視するよう SUM に指示します。

Superdome 2/X パラメーターのオプション

update_type [ALL/COMPLEX/PARTITIONS] - この値は、Superdome 2/X ノードの何をアップデートするのかを SUM に通知します。

device_list [devicelist] - この値は、アップデートの対象にする Superdome 2/X ノードを、SUM に通知します。

reboot_list [rebootlist] - この値は、展開後に再起動する Superdome 2/X ノードを、SUM に通知します。

Moonshot パラメーターのオプション

以下の認証情報がスイッチ A のものとは異なる場合、スイッチ B の Moonshot 固有の属性を設定できます。これらのパラメーターは、セッション属性として設定することもできます。

switch_username [username] - Moonshot A スイッチのユーザー名。

switch_password [password] - Moonshot A スイッチのパスワード。

switch_enable [enable_password] - Moonshot A スイッチの有効化パスワード。

switchb_username [username] - Moonshot B スイッチのユーザー名。

switchb_password [password] - Moonshot B スイッチのパスワード。

switchb_enable [enable_password] - Moonshot B スイッチの有効化パスワード。

パラメーターオプションのダウングレードと再書き込み

GUI のダウングレードと再書き込みの組み合わせ、および対応する対話式 CLI パラメーターについて以下で説明します。

ソフトウェアのみ	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=false firmware=false software=true</code>
ファームウェアのみ	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=false firmware=true software=false</code>
ファームウェアとソフトウェア	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=false firmware=true software=true</code>
ソフトウェアのダウングレード	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=true firmware=false software=true</code>
ファームウェアのダウングレード	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=true firmware=true software=false</code>
両方のダウングレード	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=false downgrade=true firmware=true software=true</code>
ソフトウェアの再書き込み	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=false firmware=false software=true</code>
ファームウェアの再書き込み	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=false firmware=true software=false</code>

両方の再書き込み	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=false firmware=true software=true</code>
ソフトウェアの再書き込みとダウングレード	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=true firmware=false software=true</code>
ファームウェアの再書き込みとダウングレード	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=true firmware=true software=false</code>
両方の再書き込みとダウングレード	<code>hpsum setattributes /nodes localhost rewrite=true downgrade=true firmware=true software=true</code>

Windows での使用法

```
C:\> hpsum setattributes /nodes 10.0.1.5 firmware=true software=true rewrite=true downgrade=true
```

```
C:\> hpsum setattributes /nodes 10.0.1.5 update_type=all
```

```
C:\> hpsum setattributes /session open_firewall=yes
```

```
C:\> hpsum setattributes /nodes 10.0.0.4 use_vcenter=true vcenter_host=10.0.0.1
vcenter_username=test vcenter_password=password
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum setattributes --nodes 10.0.1.5 firmware=true software=true rewrite=true downgrade=true
```

```
$ ./hpsum setattributes --nodes 10.0.1.5 update_type=all
```

```
$ ./hpsum setattributes -session open_firewall=yes
```

```
$ ./hpsum setattributes --nodes 10.0.0.5 use_vcenter=true vcenter_host=10.0.0.1
vcenter_username=test vcenter_password=password
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT **Windows :** 0

Linux : 0

テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)

FAILURE_GENERAL **Windows :** -1

Linux : 255

テキスト : 一般エラーが発生しました。For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_BAD_PARM **Windows :** -2

Linux : 254

テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

FAILURE_COMMAND_FAILED **Windows :** -4

Linux : 252

テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

shutdownengine

SUM エンジンを終了できます。他のセッションがアクティブの場合、`--force` オプションを使用しないと失敗します。

△ 注意：

`--force` を使用すると、情報が失われる場合があります。

構文

```
hpsum shutdownengine [--force]
```

パラメーター

`--force` 他のセッションがアクティブの場合でも強制的にシャットダウンします。

Options/Specifiers/...

Windows での使用法

```
C: />hpsum shutdownengine /force
```

Linux での使用法

```
$ ./hpsum shutdownengine --force
```

リターンコード

SUCCESS_NO_REBOOT	Windows : 0 Linux : 0 テキスト : The command was successful. (コマンドが成功しました。)
FAILURE_GENERAL	Windows : -1 Linux : 255 テキスト : 一般エラーが発生しました。 For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_BAD_PARM	Windows : -2 Linux : 254 テキスト : A bad input parameter was encountered. (不正な入力パラメーターが検出されました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)
FAILURE_COMMAND_FAILED	Windows : -4 Linux : 252 テキスト : The command failed. (コマンドが失敗しました。) For details, see the logs. (詳細は、ログを参照してください。)

ファームウェア RPM の展開

このセクションでは、SUM ファームウェアコマンドを使用して、サポート対象の Linux オペレーティングシステムを実行しているノードに ProLiant ファームウェアを RPM 形式で展開する方法について説明します。

SUM RPM ツールについて

SUM ファームウェアコマンドツールは、<http://www.hpe.com/support/SDR-SUM>（英語）で入手できます。SUM を実行するための前提条件について詳しくは、SUM リリースノートを参照してください。サポートされている Red Hat Enterprise Linux および SuSE Linux Enterprise Server の各オペレーティングシステムに対応するバージョンを入手できます。

SPP ISO および RPM について

SPP ISO には、パスワードで保護されたファームウェアとパスワードで保護されていないファームウェアが RPM と SCEXE の両方の形式で含まれます。SDR には、パスワードで保護されていないファームウェアを格納する SPP フォルダと、パスワードで保護されているファームウェアを格納する FWPP フォルダの 2 つのフォルダがあります。SDR 上のすべてのファームウェアは RPM 形式です。

ファームウェア RPM へのアクセス

手順

1. 標準の Linux ツール（YUM など）を使用して、集中管理されたレポジトリ（<http://downloads.linux.hpe.com/SDR>（英語）にある Software Delivery Repository など）からシステムファームウェアのコレクションを取得します。

前提条件

手順

1. ターゲットシステムで以下の作業を行います。これらの作業は、uid=0（root）権限を使用して実行します。
- [YUM ディストリビューションの使用（RedHat）](#)（172 ページ）
 - [Zypper ディストリビューションの使用（SuSE）](#)（173 ページ）

YUM ディストリビューションの使用（RedHat）

該当するファームウェアをインストールし、配信して、ローカルにキャッシュします。

手順

1. レポジトリの場所に移動します。
2. YUM にレポジトリを追加します。

```
# cd /etc/yum.repos.d/  
# wget http://hp.firmrpms@10.0.0.1/~username/firmware/hpfirmare.repo
```

必要なパッケージの自動検出

- SUM のファームウェアコマンドユーティリティをインストールします。
- SUM を使用してシステムを照会し、どのパッケージが必要かを報告します。

```
# yum install hpsum  
# yum install $(hpsum requires) --skip-broken
```

Zypper ディストリビューションの使用 (SuSE)

該当するファームウェアをインストールし、配信して、ローカルにキャッシュします。

手順

1. レポジトリの場所に移動します。
2. Zypper にレポジトリを追加します。

```
# cd /etc/zypp/repos.d/  
# zypper addrepo http://hp.firmrpms@10.0.0.1/~user/firmware/hpfirmare.repo
```

必要なパッケージの自動検出

- SUM のファームウェアコマンドユーティリティをインストールします。
- SUM を使用してシステムを照会し、どのパッケージが必要かを報告します。

```
# zypper install hpsum  
# zypper install $(hpsum requires)
```

ファームウェアコンポーネントの展開

SUM ファームウェアコマンドの主な機能は、コマンド `hpsum upgrade` を使用して、パッケージ化されたコンテンツからターゲットホスト上のデバイスにいたるまで、ファームウェアのフラッシュまたはアップグレードを行うことです。

手順

1. yum install または zypper install を使用して RPM をインストールします。
2. コマンド hpsum upgrade を使用して、ファームウェアフラッシュエンジンを起動します。
3. -y パラメーターを使用すると、コマンドのスクリプトが作成され、展開の開始を要求するプロンプトに自動的にはいと応答します。

その他の RPM コマンド

info

ターゲットシステム上で使用可能なファームウェアパッケージについて情報を収集します。

構文

```
hpsum info
```

list

ターゲットホストに何がインストールされているかと比較して、使用可能なファームウェアパッケージについて情報を収集します。

構文

```
hpsum list
```

出力例

```
hpsum list
```

```
Searching for firmware.  
Analyzing results.
```

Info	NAME	VERSION	INSTALLED	TYPE
icRU	hp-firmware-system-i15	2011.05.02	2009.07.10	system
ifrU	hp-firmware-ilo4	1.10	1.05	ilo

パラメーター

I—インストール可能

- 1: インストール可能です。
- : インストールすることはできません。

c—重要度

- c: 重大な問題に対処します。
- f: 問題に対処します。
- e: 機能を拡張します。
- : 情報はありません。

r—再起動

- r: このパッケージでは、アップデートを適用するためには再起動が必要です。しかしファームウェアは最新であり、アクションは不要です。
- R: 次回アップデートコマンドが実行されるときには再起動が必要になります。
- : 再起動は不要です。

version cmp - 適用済み - : バージョンは同じです。
バージョンとパッケージ内のバージョンの違い。 d : パッケージ内のバージョンは、現在適用されているバージョンよりも古いバージョンです。
 U : パッケージ内のバージョンは、現在適用されているバージョンよりも新しいバージョンです。

オプション

特定のファームウェアパッケージまたはサブセットを操作するには、ほとんどのコマンドで、フィルター文字列を使用します。

フィルターの出力例

```
hpsum list '%{NAME} =~ /i15/'
```

```
Searching for firmware.
Analyzing results.
```

Info	NAME	VERSION	INSTALLED	TYPE
icRU	hp-firmware-system-i15	2011.05.02	2009.07.10	system

query

ユーザーが定義した形式で、パッケージ情報を抽出します。

構文

```
hpsum query
```

```
Searching for firmware.
Analyzing results.
```

```
hp-firmware-system-i15
hp-firmware-system-i15
```

```
-----
%{RELEASEDATE_SECOND} 45
%{RELEASEDATE_MONTH} 7
%{FIRMWARE_STRING} smartcomponent-linux-firmware-system
%{RPMNAME} hp-firmware-system-i15
%{REBOOT_REQUIRED} yes
%{VERSIONID} 35fa6b82aedf49cb80e1b994e7e31416
%{RELEASENUM} 1
%{MODEL} bl460c
%{XSL}
%{LANGUAGE} English (US)
%{FILENAME} CP015223.scexe
%{PLATFORM} red_hat_enterprise_linux_x86_64
%{RELEASEDATE_DAY} 7
%{UNINSTALL_SILENT}
%{UNINSTALL_COMMAND}
%{PRODUCTID} 9326
%{UNINSTALL_COMMAND_PARAMS}
%{RELEASEDATE_HOUR} 15
```

```
%{INSTALL_NEEDUSERACCT} no
%{PLATFORM_MAJOR} 5
%{FIRMWARE_ID} I15
%{INSTALL_COMMAND_PARAMS}
%{VERSION} 2011.05.02
%{FIRMWARE_NAME} bl460c-I15
%{ALTNAME} ProLiant BL460c (I15) Servers
%{RELEASE} 1
%{NAME} Online ROM Flash Component for Linux - ProLiant BL460c (I15)
%{TYPE_OF_CHANGE} 2
Servers
%{MANUFACTURER_NAME} Hewlett-Packard Development Company, L.P.
%{DESCRIPTION} Used in conjunction with HP Smart Update Manager (HPSUM), this Smart
Component allows the user to update firmware on remote servers from a central location. This remote
deployment
capability eliminates the user
being physically present at the server in order to perform a firmware update.
%{INSTALL_COMMAND} yes
%{INSTALL_COMMAND_REBOOT_REQUIRED} yes
%{UNINSTALL_COMMAND_REBOOT_REQUIRED}
%{DEBNAME} hp-firmware-system-i15
%{RELEASEDATE_MINUTE} 28
%{TYPE_OF_CHANGE_TXT} critical
%{RELEASEDATE_YEAR} 2011
%{REVISION}
```

RPM のダウンロードがブロックされる

症状

RPM のダウンロードがブロックされる。

原因

依存関係のエラーにより、SUM が RPM をダウンロードできません。

アクション

手順

1. 次のコマンドを使用して、SUM でエラーが発生した場合でもダウンロードを続行します。`yum install $ (hpsum requires) --skip-broken`

hpsum upgrade がエラーを返す

症状

hpsum upgrade コマンドを実行すると、アップデートがインストールされずにエラーが表示される。

アクション

手順

1. `hpsum upgrade` コマンドをもう一度実行します。

RPM モードで、Smart アレイのファームウェアが正しく処理されない

症状

SUM コマンドの `requires`、`upgrade`、および `list` は、Smart アレイファームウェアには正しく機能しません。

アクション

手順

1. Smart アレイのファームウェアは、GUI モードまたは CLI モードで展開してください。

Web サイト

全般的な Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/EIL
Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) の Storage compatibility matrix	http://www.hpe.com/storage/spock (英語)
ストレージに関するホワイトペーパーやアナリストレポート	http://www.hpe.com/storage/whitepapers
Smart Update Manager	http://www.hpe.com/servers/sum
Smart Update Manager のダウンロード	http://www.hpe.com/servers/sum-download
Smart Update Manager Information Library	http://www.hpe.com/info/sum-docs
Smart Update ツール	http://www.hpe.com/servers/sut (英語)
Smart Update ツールの Information Library	http://www.hpe.com/info/sut-docs
Service Pack for ProLiant	http://www.hpe.com/jp/spp
Service Pack for ProLiant のドキュメント	http://www.hpe.com/info/spp/documentation
Service Pack for ProLiant のダウンロード	http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl
Service Pack for ProLiant カスタムダウンロード	http://www.hpe.com/servers/spp/custom (英語)
HPE SDR サイト	http://downloads.linux.hpe.com (英語)
Windows および Linux 用の Scripting Toolkit (STK)	http://www.hpe.com/servers/stk (英語)
Scripting Tools for Windows PowerShell	http://www.hpe.com/servers/powershell (英語)

UEFI <http://www.hpe.com/servers/uefi> (英語)

iLO <http://www.hpe.com/jp/servers/ilo>

上記以外の Web サイトについては、サポートと他のリソースを参照してください。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトを訪問してください。

<http://www.hpe.com/assistance>

- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトに移動します。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- テクニカルサポート登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
-

製品固有のレポートおよびログ

-
- アドオン製品またはコンポーネント
-
- 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

-
- 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。製品のドキュメントを確認し、推奨されるソフトウェアアップデートの方法を特定します。

-
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかに移動します。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	http://www.hpe.com/support/hpesc
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード	http://www.hpe.com/support/downloads
Software Depot	http://www.hpe.com/support/softwaredepot

-
- eNewsletters およびアラートにサブスクライブするには、以下の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

-
- お客様の権利の表示や更新を行ったり、契約と保証をプロフィールとリンクさせたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページをご覧ください。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

❗ **重要：**

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品の権利付与情報が必要になる場合があります。関連する権利付与情報を使って HP パスポートをセットアップしておく必要があります。

カスタマーセルフリペア（CSR）

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア（CSR）プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。CSR による修理が可能かどうかについては、Hewlett Packard Enterprise のサポート窓口が判断します。

リモートサポート（HPE 通報サービス）

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス	http://www.hpe.com/jp/hpalert
HPE プロアクティブ ケアサービス	http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja
HPE プロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト	http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts （英語）
HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス：サポートされている製品のリスト	http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts

プロアクティブケアカスタマー情報

プロアクティブケアセントラル	http://www.hpe.com/services/proactivecarecentral
プロアクティブケアサービスのアクティブ化	http://www.hpe.com/services/proactivecarecentralgetstarted

保証情報

ご使用の製品の保証を確認するには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで入手できるサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照します。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

追加保証情報

HPE ProLiant と x86 サーバーおよびオプション	http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties
HPE Enterprise サーバー	http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties
HPE ストレージ製品	http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties
HPE ネットワーク製品	http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties

規定に関する情報

ご使用の製品の規定に関する情報を表示するには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターで入手できるサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照します。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。本製品の化学物質情報レポートについては、次をご覧ください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

Hewlett Packard Enterprise 製品の環境および安全に関する情報やコンプライアンスに関するデータ（RoHS、REACH など）は、次をご覧ください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>（英語）

Hewlett Packard Enterprise の社内プログラム、製品リサイクル、エネルギーの有効利用などの環境情報については、次をご覧ください。

<http://www.hpe.com/info/environment>（英語）

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当（docsfeedback@hpe.com）へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、製品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。

用語集

AMS

Agentless Management Service

ベースライン

ハードウェアのアップデートのセット

CLI

Command Line Interface。コマンドラインインターフェイス

CPLD

Complex Programmable Logic Device

展開

コンポーネントのアップデートファイルをノードにインストールして、SUM がアップデートプロセスを開始するプロセス

DNS

Domain name system。ドメインネームシステム

FIPS

Federal Information Processing Standard

ガイドアップデート

ローカルノードを更新するための自動化されたメソッド、またはウィザード形式のメソッド

iLO

Integrated Lights-Out

インベントリ

SUM がベースラインまたはノードの内容を確認するプロセス

ISP

Integrity Support Pack

場所

ベースラインアップデート用のディレクトリ

MSB

Maintenance Supplement Bundle。メンテナンスサプリメントバンドル

ノード

アップデートするハードウェア（サーバー、iLO、NIC など）

OA

Onboard Administrator

オフライン

サーバーを小さな Linux カーネルにブートして、SUM を起動してアップデートを展開します。オフラインモードでは、インストール済みオペレーティングシステムは使用されません。

オンライン

サーバーのインストール済みオペレーティングシステムを使用して、SUM を起動してアップデートを展開します。

SDR

Software Delivery Repository

SPP

Service Pack for ProLiant

SSH

Secure Shell

SSL

Secure Sockets Layer

TPM

Trusted Platform Module

UNC

Universal Naming Convention

URI

Uniform resource identifier の略で、一般的に Web アドレスと呼ばれる

VC

Virtual Connect

WBEM

Web-Based Enterprise Management

WMI

Windows Management Instrumentation